

里親支援機関
(フォスタリング機関)の
成果指標の検証にかかる調査

報告書

2023年2月
発行：日本財団

目次

1. はじめに.....	1
1.1. 調査研究の背景	1
1.2. 調査研究の目的と方法	1
1.3. 倫理的配慮	2
2. 自治体・民間団体へのアンケート調査	3
2.1. 調査の対象と方法.....	3
2.2. アンケートの概要.....	3
2.3. 倫理的配慮	4
2.4. 調査結果	4
2.5. 調査結果から見てきた悩みと成果	4
2.5.1. 里親支援機関をめぐる悩み	4
2.5.2. 里親支援機関の成果	5
3. 里親への質問紙調査.....	7
3.1. 調査の対象と方法.....	7
3.2. 調査票の概要.....	8
3.3. 倫理的配慮	8
3.4. 里親への質問紙調査結果.....	10
3.5. 里親への質問紙調査から里親支援機関の成果としてわかること.....	55
3.5.1. 回答者の属性	55
3.5.2. 里親リクルート.....	56
3.5.3. 里親登録前の支援.....	56
3.5.4. 未委託期間の支援.....	57
3.5.5. 委託後支援.....	59
3.5.6. 委託変更・解除時の支援.....	60
4. おわりに.....	61
参考資料.....	64

里親支援機関の成果指標の検証にかかる調査

1. はじめに

1.1. 調査研究の背景

わが国において、社会的養護を受ける子どもたちは、施設養護か里親委託等の家庭養護に二分される。長期間にわたって、その比重は施設養護が主流であった。しかし、2016年6月、児童福祉法が改正され、子どもを家庭で養育するという理念が明確になった。続いて、翌2017年、「新しい社会的養育ビジョン」が策定された。「新しい社会的養育ビジョン」においては、里親養育を推進するための包括的な里親支援機関（フォスタリング機関）を2020年度までにすべての都道府県で整備することが目標とされた。

こうした動向のなか、日本財団は、社会的養護を必要とする子どもたちが、安心して安全な家庭で健やかに育つ社会を目指して、里親のリクルート、研修、支援などの包括的な業務を行う里親支援機関の立ち上げを目的とした助成を行うことを決定した。

助成の対象団体は、一般財団法人、一般社団法人、公益財団法人、公益社団法人、社会福祉法人、NPO法人（特定非営利活動法人）などの法人格を持つ非営利団体である。助成の対象となる事業は、里親支援機関の新規立ち上げであり、具体的には、里親のリクルートを必須とし、研修、アセスメント、支援など包括的な里親に関連する事業を行う場合に限った。応募には、自治体及び児童相談所の了解を得ていること、財団が企画する研修および連絡会議に参加することなど、いくつかの条件が付された。助成を希望する団体の募集は、2018年3月に実施された。助成対象期間は、事業の実施状況により変更となる場合もあるが、基本は3か年としている。

最終的に、8団体が助成を受けることになった。つまり、これらの団体と団体が所属する地域は、3年間の助成期間に里親支援機関事業の基盤づくりを行うことになった。3年という期間でどのくらい事業の成果をあげることができるかは未知数である。なお、残念ながら、1団体については、期間途中で日本財団の助成対象から外れたため、本調査報告からも除外した。そのため、本調査報告では、対象団体7団体の3年間の里親支援機関業務の評価を報告したい。

1.2. 調査研究の目的と方法

以上のことから、本調査報告では、日本財団が助成を実施している民間の里親支援機関（フォスタリング機関）による里親支援事業の成果を検証することを主な目的とする。併せて、日本における里親支援の事業評価の指標を開発する一助となることを目指す。

具体的には、まず、2018年度に調査を行い、次に2021年度に調査を行うことで、2018

年度から始まっている日本財団の里親支援機関助成事業の効果を比較検証する。

本調査報告においては、まず、第2章で、自治体・児童相談所と民間団体それぞれに2018年度と2021年度に自由記述によるアンケート調査を行った結果のまとめを提示する。第3章では、当該地域の里親を対象に行った「里親支援に関する調査」（質問紙調査）の結果をまとめる。

1.3. 倫理的配慮

各調査報告の冒頭で、それぞれの調査で実施した倫理的配慮を記載する。本調査では、個人、自治体、児童相談所を特定できるような情報を提示しないよう十分な配慮を行っている。なお、本調査研究は、明治学院大学の倫理審査（承認番号：SW18-03）を経て実施されている。

2. 自治体・民間団体へのアンケート調査

2.1. 調査の対象と方法

本調査は、日本財団の助成対象の地域における支援の成果を把握すること、具体的には、民間の里親支援機関の立ち上げ初期のころの状況と助成最終年度における状況を把握し、民間団体がどのような成果をあげたかを明らかにすることを主な目的としている。

調査の対象は、当該地域の自治体、児童相談所、助成対象の民間里親支援機関である。2018年度においては、2018年度から日本財団の助成を受けている8つの民間団体とそれぞれの団体が所属する自治体を対象とした。自治体については、助成対象となった8つの民間団体が所属する9自治体の県・市・児童相談所などの公的機関17か所に調査を行っている。

2021年度においては、同様の民間団体と自治体に調査を行ったが、1団体と1自治体については、2018年度以後、助成の対象から外れたため、本調査の対象からも除外した。よって、7つの民間団体と8自治体の県・市・児童相談所などの公的機関15か所に調査を行っている。

調査時期は、2018年度調査では2019年1月～3月の間、2021年度調査では2021年3月～6月の間である。助成を受ける民間団体には、助成前の段階で調査を受けることを周知した。また、当該地域の自治体には、日本財団の担当職員が電話やメールで調査の依頼をしたうえで、現地に赴き、調査の趣旨を説明した。その後、2018年度調査では、調査依頼書・アンケート用紙を郵便で送付した。アンケート用紙は返信用封筒に入れて返送してもらった。2021年度調査ではメールにてやり取りを行った。

2.2. アンケート調査の概要

2018年度調査においては、アンケートは、全10問4ページで構成され、すべて自由記述とした。民間団体には、現在の里親委託率の改善の必要性、里親関連事業の受託実績、自治体から期待されていると思うこと、フォスタリング業務を担う際の不安、自治体との連携、日本財団からの助成終了後の事業継続の見通し、これまでの取組を自治体からどのように評価されていると思うかなどについて質問した。自治体には、同様に、現在の里親委託率の改善の必要性、里親関連事業の民間団体への委託実績、民間団体に期待していること、民間団体がフォスタリング業務を担う際の不安、民間団体との連携、日本財団からの助成終了後、自治体として財源確保の見通しの有無、これまでの民間団体の取組の評価などを質問した。

2021年度調査においては、アンケートは、全9問4ページで構成され、2018年度調査と同様にすべて自由記述とした。民間団体には、現在の里親委託率の改善の必要性、里親関連事業の受託実績（令和元年から令和3年まで）、フォスタリング業務を民間が委託することについて児童福祉の充実という点から良い方法か、自治体から期待されていると思うこと、自治体の期待に応えられていると思うか、フォスタリング業務を担う際にうまくいかなか

ったこと、自治体との連携等での変化、日本財団からの助成終了後の事業継続の見通し、これまでの取組を自治体からどのような評価を受けているかなどについて質問した。自治体には、同様に、現在の里親委託率の改善の必要性、里親関連事業の民間団体への委託実績（平成元年から令和3年）、フォスタリング業務を民間が委託することについて児童福祉の充実という点から良い方法か、民間団体に期待したいこと、民間団体が期待に応じているか、民間団体がフォスタリング業務を担う際にうまくいかなかったこと、民間団体との連携の変化、日本財団からの助成終了後、自治体として財源確保の見通しの有無、これまでの民間団体の取組の評価などを質問した。

2.3. 倫理的配慮

2018年度調査では、アンケート郵送に先立ち、既述のように、電話やメールで連絡をしたのち、実際に現地を訪問し調査の趣旨説明を行っている。2021年度調査においては、自治体担当者向けにオンラインでの説明会を行った。データの利用・公表においては、対象となった団体名や自治体名は伏せ、各団体・各自治体、また個人が特定できるような情報を提示しないよう十分な配慮を行った。なお、事前に明治学院大学の研究倫理審査委員会に研究倫理審査を申請し許可を得た（承認番号：SW18-03）。

2.4. 調査結果

調査結果について、各団体・各自治体、また個人が特定できるような情報を提示することは避けたい。しかし、できる限り、今後、里親支援機関を立ち上げる民間団体やそれを応援する自治体の参考になる、また現在、立ち上げから2～3年を迎える民間団体やそれを応援する自治体の参考になるものとするを試みたいと考える。そのため、ここでは調査結果一つ一つを掲載することは避け、調査結果で得た知見をまとめた形で、以下に提示する。

2.5. 調査結果から見てきた悩みと成果

ここでは、調査結果から得た知見をまとめて提示したい。本調査では、日本財団からの助成を受けることになって立ち上げを行えた民間団体がある一方で、すでに地域で活躍しながらも助成を受けることで包括的な里親支援業務を行えることになった団体、また2021年度までの間に包括的な里親支援業務を委託されることになった団体など様々な状況、立場の団体が対象になっている。以下では、民間の里親支援機関をめぐる悩みと成果の2点について、調査結果からわかることを提示する。

2.5.1. 里親支援機関をめぐる悩み

〈民間団体と関係機関の連携〉

里親支援機関を民間団体に委託することで浮上する悩みは多くあると思われるが、主要なものをあげるとしたら、「関係機関との連携」があげられるだろう。関係機関とは、施設

に付設された里親支援機関であれば、自分の施設の内部の職員も含まれる。また、同じ都道府県内の同種の施設も含まれる。内部の職員や同種の施設に関しては、設立以前に理解を得ておくことができるとより良く、フォスタリング機関設立後スムーズに始動していくことにつながる。

その他に重要な関係機関としては、他施設の里親支援専門相談員、里親会、そして、自治体担当者や児童相談所の担当者である。特に、児童相談所とは、従来、児童相談所が里親支援に関して蓄積してきたノウハウの共有をはじめ、業務の細かな役割分担、情報共有など、多くの部分で連携が必要となってくる。

そして、児童相談所との連携・役割分担については、特に初動の時期に重要となってくると思われるが、設立後数年は確立することが難しく、お互いに模索しあいながらの状況が続かざるを得ない部分があるようである。特に、アセスメント、マッチング、里親委託中の見立てなど、様々な部分において、民間団体と児童相談所との方針や見解の一致を見出すことが必要となってくる。そのためにも、普段から用いるような、例えば「未委託里親」「里親不調」などの言葉についても、お互いの機関がその言葉をどのような意味で用いているかをすり合わせていくといった、詳細で地道な努力を、対等な機関同士として行っていく必要性がある。

〈財源・人材の確保〉

現在、常に悩みとして挙げられるのは、財源の確保、人材の確保である。現状、民間団体は単年度契約のところが多く、次年度の保証がないままでは人材の確保も当然ままならない。そうなると、人材養成にも力を入れられないということが生じるため、財源および人材の確保は喫緊の課題である。

〈そのほかの悩み〉

その他、設立当初はあげられていた個人情報の保護の問題や、初めて民間団体に委託する自治体を感じていたいくつかの不安も、民間団体が本格的に始動し、ともに協働する中で解消されていくということが、調査結果からは示された。

2.5.2. 里親支援機関の成果

民間団体が日本財団の助成を受けてから、約 2 年後に行った本調査では、この 2 年間の間に、民間団体と自治体が相互に信頼関係を構築してきたことがわかる結果となった。すなわち、自治体からは民間団体に対して好意的な多くの評価がなされ、民間団体からも自治体の協力的な体制に加え、自らの団体が自治体の期待に応え、また自治体から評価を得ていると感じているという回答が得られた。

民間団体が評価を得ている点は非常に多くあるが、ここでは代表的なものを紹介したい。

〈支援の長期的な継続性・一貫性〉

支援の長期的な継続性、一貫性である。また、夜間・休日の対応、里親の課題に応じた丁寧な相談支援などがあげられた。これらはいずれも民間団体だからこそ成しえる支援であると思われる。従来、児童相談所においても、実施されるべきではあったが、しかし、実施したいと思っても時間的、あるいは人的、物的な様々な制限等により手が届きづらかったところを、民間団体が参入することにより可能になった支援であるとみることができる。

〈里親リクルート等広報啓発活動〉

里親リクルート等広報啓発活動については、成果を確認でき、かつ実績が伸びていることがあげられた。民間団体の特色を生かしたアイデアや柔軟性のある里親リクルートが高い評価を得た。

〈里親の資質向上・包括的な支援〉

民間団体が、里親の資質向上に有効な働きをしていること、また包括的な支援を任せられることについても高く評価された。最初は、里親リクルートなどの広報啓発活動のみを民間団体に任せていた場合でも、その成果と実績から、徐々に包括的な支援を任せられることもあるようだ。

自治体や児童相談所においては、里親の包括的支援についての実績がない民間団体に包括的支援を任せると不安を感じることもあるのかもしれない。しかし、そのために民間団体に包括的支援を委託しないまましていると、いつまでたっても民間団体は包括的支援に関する経験を蓄積できないままになっていることになる。

民間団体が包括的支援を実施するには、当然ながら、自治体や児童相談所が、民間団体に協力し連携を密にとるということは必須になる。本調査では、自治体・児童相談所・民間団体の協働・連携のなか、民間団体に包括的支援を任せるとして、民間団体が期待に応えられるということがわかる結果となった。

3. 里親への質問紙調査

3.1. 調査の対象と方法

本調査は、日本財団の助成対象の地域における里親家庭への支援の成果を測定することを主な目的として実施された。

従って、本調査の対象は、当該地域に登録している里親である。現在、里親には、「養育里親」「養子縁組里親」「親族里親」「専門里親」の4種類あるが、本調査においては、これらすべての里親を対象としている。加えて、里親登録をしているものの、里親として子どもを委託されていない未委託里親も対象とした。未委託里親は、現在、日本国内において60%を超える（福祉行政報告例2020）。このことは、未委託の里親の活用が、里親委託の進展にとって重要な要素であることを意味する。未委託の里親をどのように支援するのか、そしてそれによって未委託里親の減少を図ることができるか否かという点は、里親家庭への支援の成果の一つであるとみなすことができる。

2018年度調査では、当該地域に里親として登録する個人を対象とした（n=663：2018年1月時点）。実査に先立ち、助成対象の団体には、助成実施前に調査の実施について周知した。助成対象は、9自治体、8団体である（8団体のうち、1団体が2自治体を担当している）。結果として、配布された調査票は663票だった。最終的な回収数は414票、回収率は62.4%だった。

2021年度調査では、2018年度調査と同様に、当該地域に里親として登録する個人を対象とした（n=601：2021年5月時点）。2021年度調査の助成対象は8自治体7団体である（7団体のうち、1団体が2自治体を担当している）¹。2021年度の実査は、2021年6月～7月の間に行った。結果として、配布された調査票は601票だった。最終的な回収数は396票、回収率は65.9%だった。

調査方法は以下のとおりである。

各地域に登録する里親のリストは非公開である。そこで、当該地域を管轄する自治体に日本財団の担当職員が電話・メール等で趣旨を説明の上、現地において調査実施の説明を行った。調査方法は郵送調査法である。各自治体に調査票が封入された封筒を送付し、里親登録者の住所ラベルを張り付けてもらい、調査対象に代理送付してもらうという方法をとった。

¹ なお、2018年度調査では助成対象だった1団体は、助成対象から外れることになったため、2021年度調査では1自治体の対象地域を除外した。また、1団体の対象地域については、2021年1月と4月から若干の変更が行われた。そのため、それらの調査地域のみ、調査対象時期を「2020年12月末日」「2021年3月末日」とした（ほかの地域は2021年5月1日時点を対象時期としている）。加えて、2020年4月から同法人内でフォスタリング機関の移管があったが、同法人内で協力しながら里親支援を行っている経緯があったため、助成当初と同じ地域に質問紙調査を実施している。

封筒は、原則として封がされた状態で送付したが、事前に依頼のあったいくつかの自治体については、開封した状態で送付し、自治体固有の依頼文を封入してもらった。なお、調査協力の謝礼として、Quo カード 500 円分を同封した。各地域への送付数は、当該の地域に登録している里親の世帯数を参考に、自治体の担当者と確認の上、決定した。調査対象者への送付の前後において、自治体担当者に配布数と残部数を記入してもらい、実際の配布数を把握する方法をとった。残部については、返送を依頼した。

回答者には、記入済みの調査票を、同封の返信用封筒（切手貼り付け済み）に入れて返送してもらった。返送先は、明治学院大学三輪研究室宛てとした。

回答返送をべ切後、データの入力およびクリーニングを行った。関連する事務作業は、一般社団法人中央調査社に委託した。中央調査社が、行ったクリーニングをもとに、主要な修正方針に基づきデータの修正を依頼し、また必要に応じてその他の修正方針を追加した。最終的に、修正方針通りにデータが修正されていることの確認を行った。

3.2. 調査票の概要

調査票は、全 35 問、11 ページで構成される。本調査の主要な目的は、日本財団が助成している民間団体の里親支援事業の成果の検証にある。そのため、本調査票は、里親申請の動機から、里親登録前、里親登録後の未委託期間、子どもの受託後、子どもの委託変更・委託解除という一連の里親支援の流れに沿って、それぞれの場面で、どの機関から支援を受け、それについてどう思ったかを尋ねている。

本調査において特徴的な点は、以下の 3 点に集約される。

第一に、未委託期間の支援について詳細に尋ねた点である。具体的には、一番最近の未委託の期間について、研修の案内の有無、児童相談所または里親支援機関からの連絡頻度、未委託の理由についての説明の有無とそれに納得できたか否か、説明者が誰であったのかなどを尋ねた。

第二に、里親登録前、委託後の支援について、児童相談所と里親支援機関を区別し、それぞれの支援の状況を尋ねた点である。具体的には、児童相談所と里親支援機関について、里親登録前に里親制度について気軽に問合せできるか否か、里親登録にいたるまで、検討段階に応じた情報提供や説明があるか否かを尋ねた。また、子どもを受託後に、マッチング時の希望の考慮、委託後の家庭訪問・電話等のフォロー、困ったときの相談、連絡のつきやすさなど、12 項目にわたって尋ねた。

第三に、委託変更・委託解除時の支援について、里親の意見が尊重されているか尋ねている点である。具体的には、里親側から児童相談所あるいは里親支援機関に意見を述べる機会があったか否か、その意見は尊重されたかを尋ねた。

3.3. 倫理的配慮

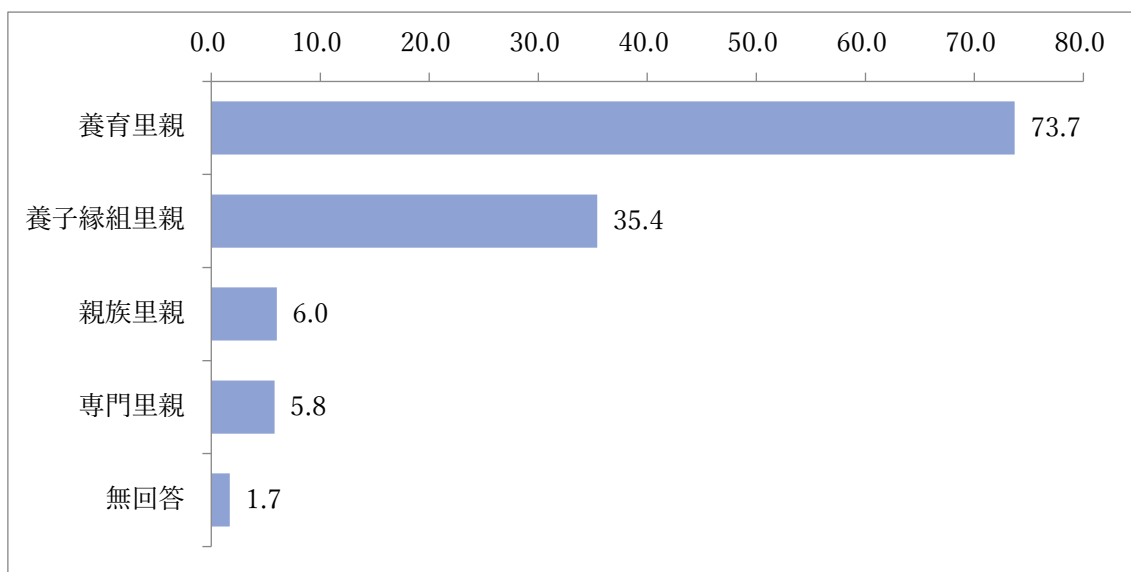
本調査の実施に当たっては、事前に明治学院大学の研究倫理審査委員会に研究倫理審査

を申請し、許可を得た（承認番号：SW18-03）。また、対象者への依頼文書、自治体への依頼文書において、対象者には、いかなる義務も発生しないこと、調査で回答した情報がそのほかの目的で使用されることは一切ないこと、個人情報を守られることを明記した。さらに、対象者が安心して回答に臨めるよう、想定される疑問点を「Q&A」の形でまとめ、依頼文の裏面に書き加えた。このように、本調査は、十分な倫理的配慮を行って実施している。

3.4. 里親への質問紙調査結果

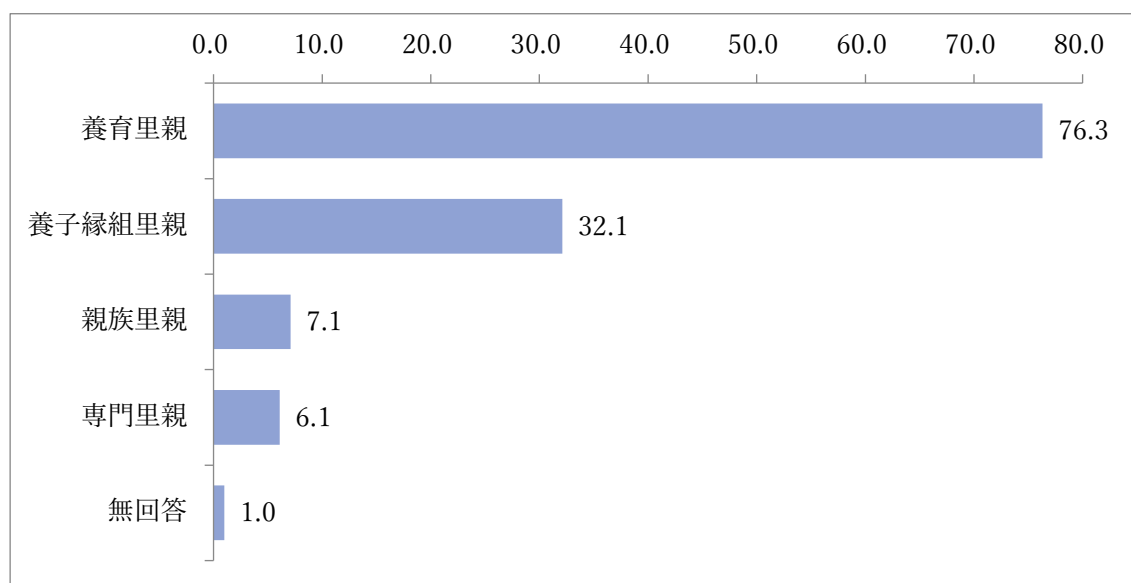
〈登録している里親の種類〉

登録している里親の種類を尋ねた。2018年度調査と2021年度調査で、あまり差はなく、里親の種別については、ほぼ同様の里親が回答していた。「養育里親」と「養子縁組里親」に重複し登録している回答も見られた。



(n=415、単位%)

図1. 【2018年度調査】登録している里親の種類 (問1-1)

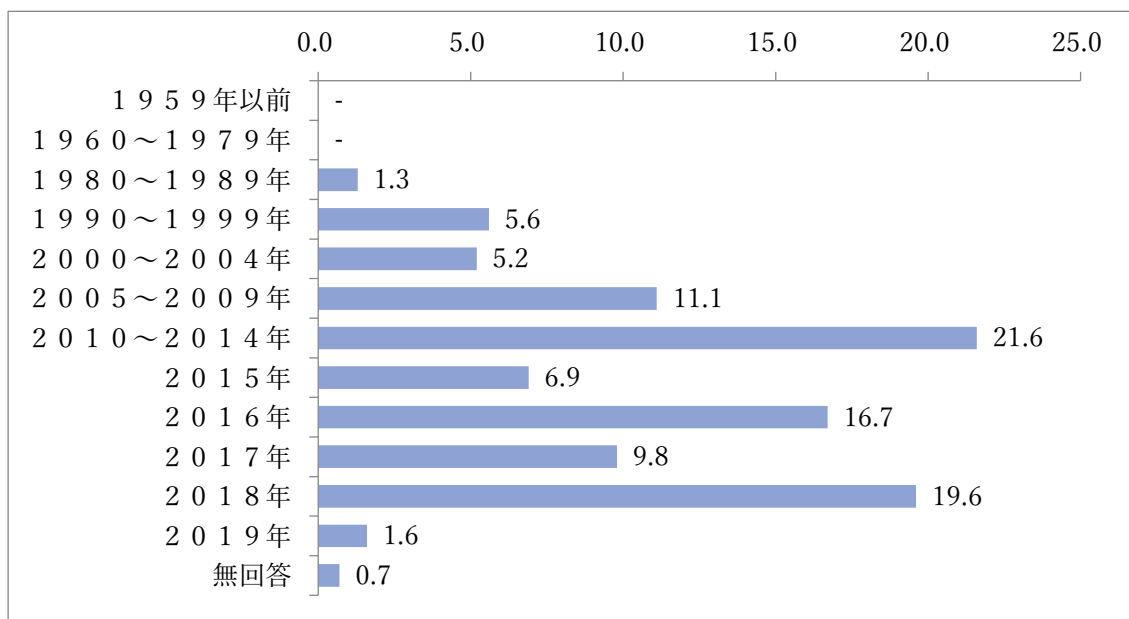


(n=396、単位%)

図2. 【2021年度調査】登録している里親の種類 (問1-1)

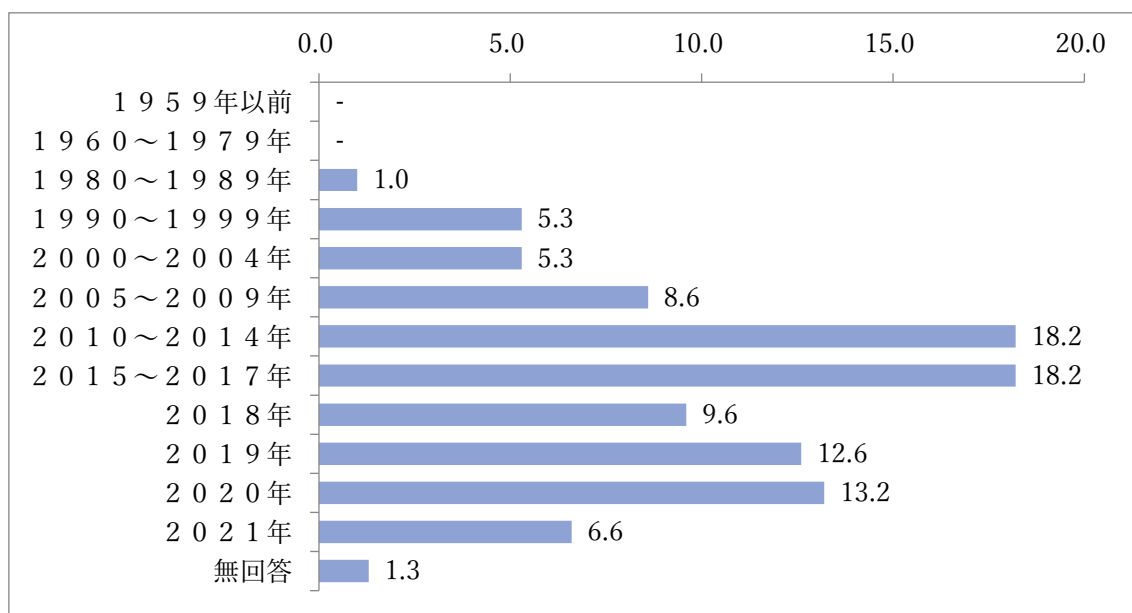
〈里親登録年～養育里親〉

里親の登録年を尋ねた。養育里親に登録している里親においては、近年の登録が多い。2009年以前の登録者は、2018年度も2021年度も2割程度であり、2010年以降の登録者が、多かった。2018年度調査以後の登録者も3割程度、回答していた。



(n=306、単位%)

図3. 【2018年度調査】里親登録年～養育里親～（問1-2）

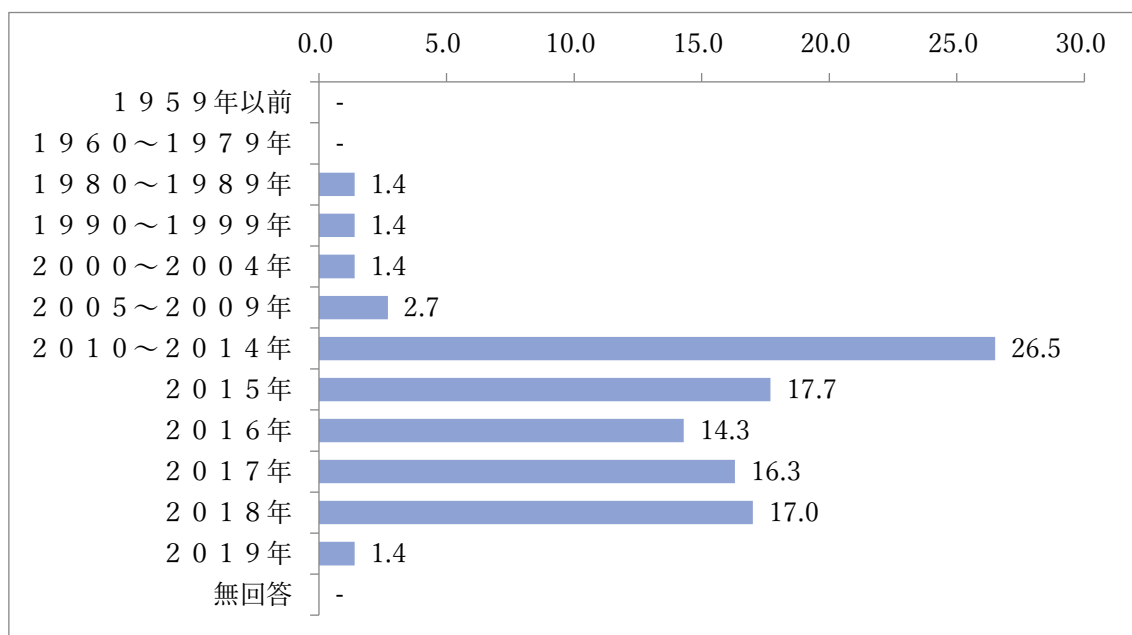


(n=302、単位%)

図4. 【2021年度調査】里親登録年～養育里親～（問1-2）

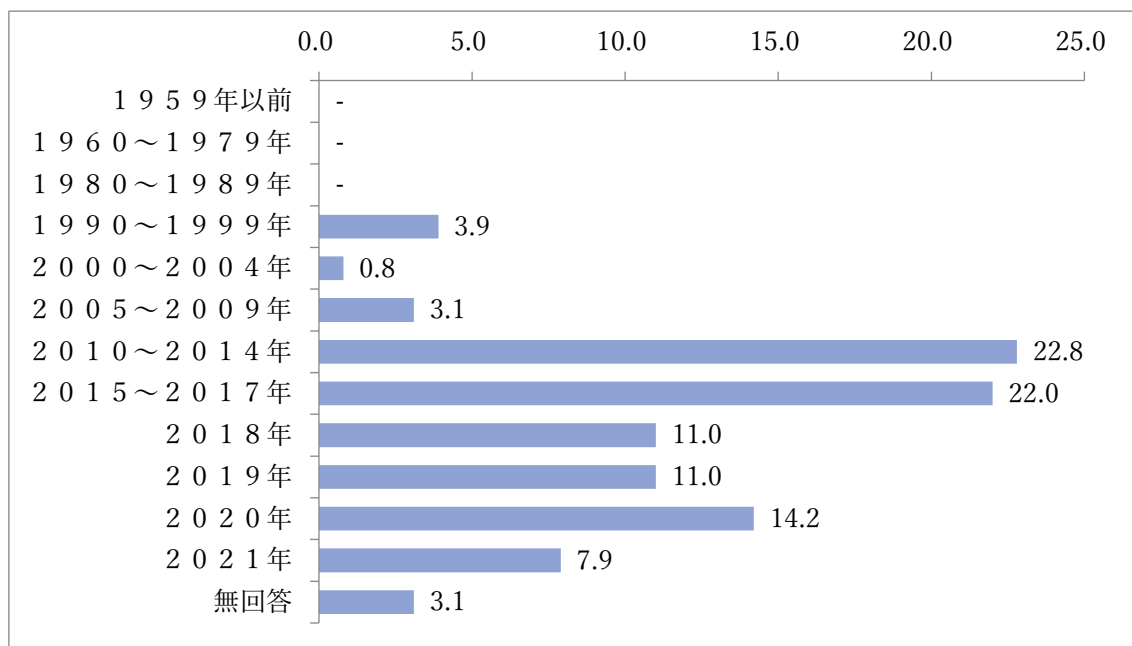
〈里親登録年～養子縁組里親〉

養子縁組里親に尋ねた里親登録年においても、近年の登録が多かった。2018年度調査以後の登録は、養育里親と同様に3割程度あった。



(n=147、単位%)

図5. 【2018年度調査】里親登録年～養子縁組里親～（問1-3）

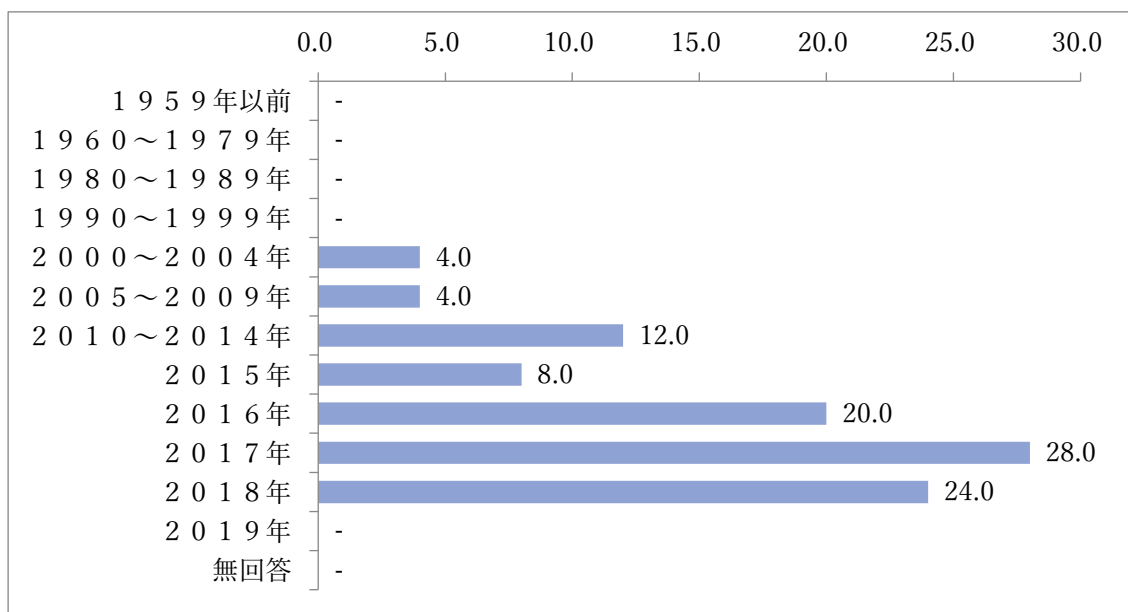


(n=127、単位%)

図6. 【2021年度調査】里親登録年～養子縁組里親～（問1-3）

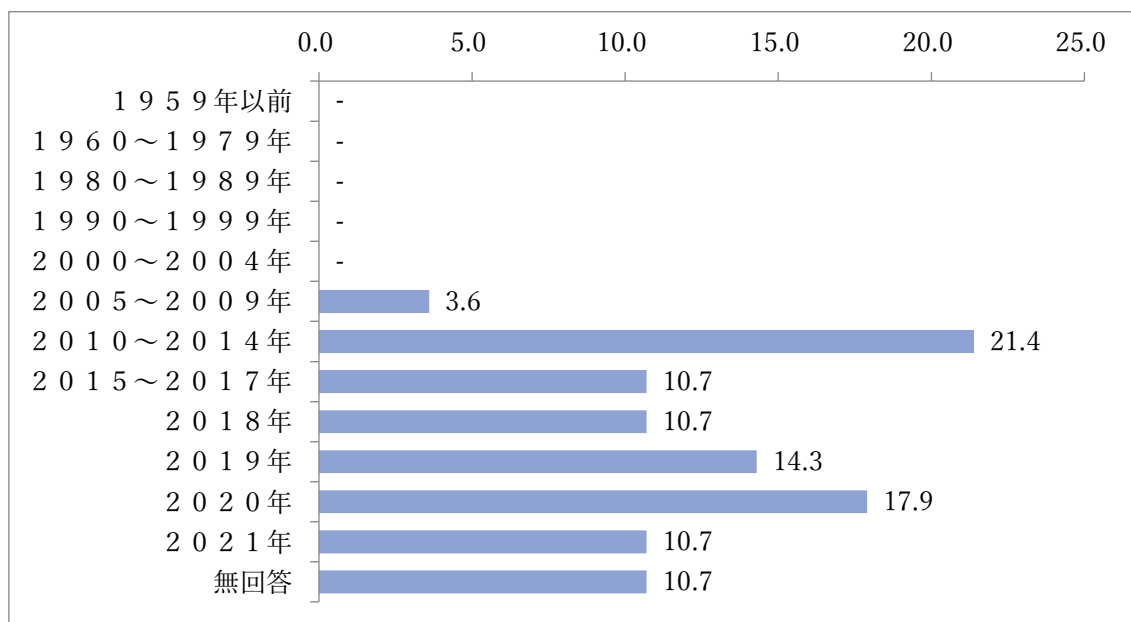
〈里親登録年～親族里親〉

里親登録年を親族里親に尋ねた。親族里親が創設されたのは、2002年の里親制度の改正時であるため、2018年度調査では、2010年以前は8.0%だった。2021年度調査の回答者は、3.6%のみだった。2018年度調査以後の回答者は、4割程度だった。



(n=25、単位%)

図7. 【2018年度調査】里親登録年～親族里親～（問1-4）

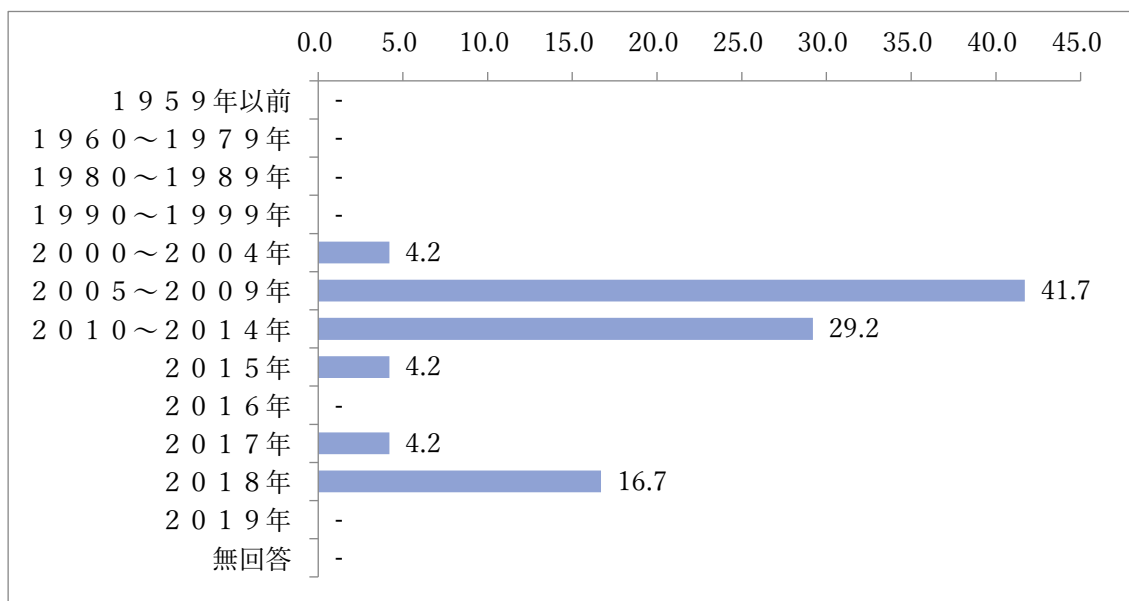


(n=28、単位%)

図8. 【2021年度調査】里親登録年～親族里親～（問1-4）

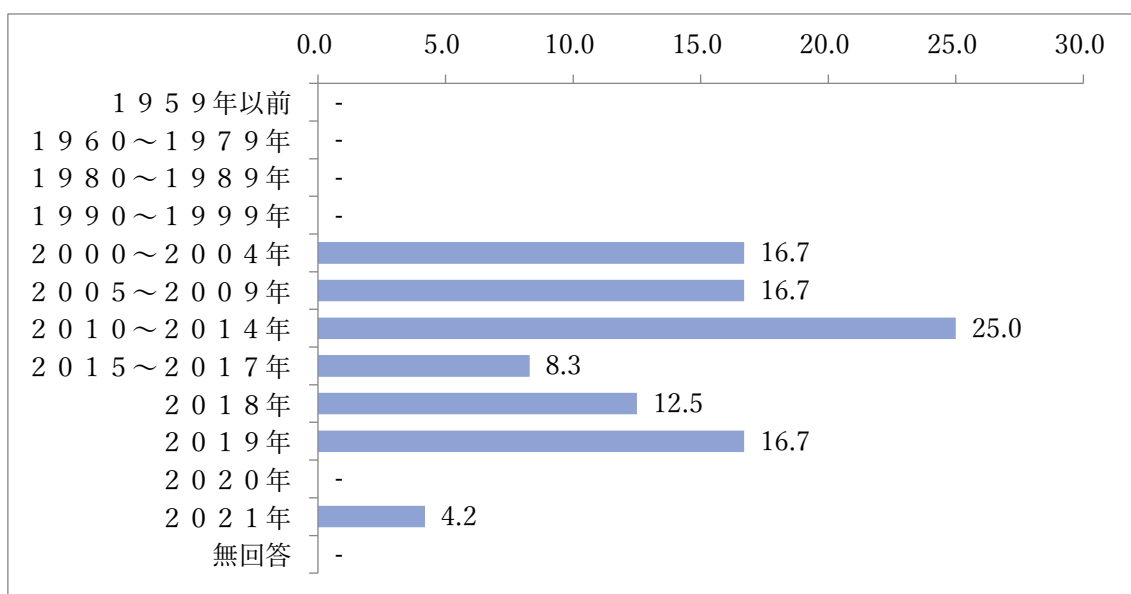
〈里親登録年～専門里親〉

専門里親の登録年を尋ねた。専門里親の創設も、親族里親と同時期の2002年だった。2018年度調査では、「2005～2009年」、「2010～2014年」登録の専門里親が多かった。2021年度調査では、2000年～2014年の登録者が過半数を占める。2020年度に登録した専門里親の回答者は0人だった。



(n=24, 単位%)

図9. 【2018年度調査】里親登録年～専門里親～ (問1-5)

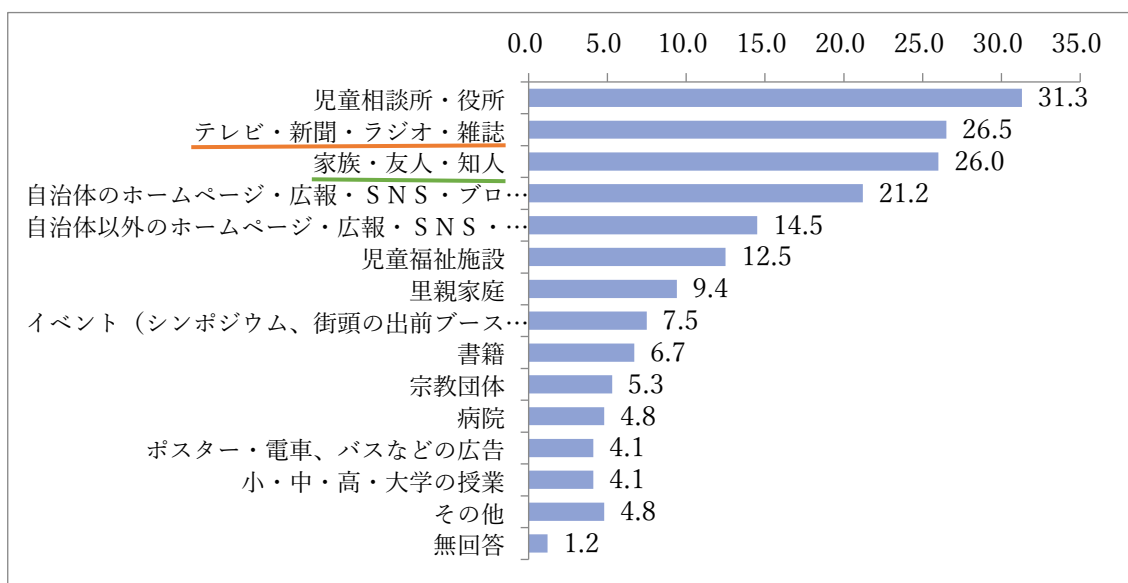


(n=24, 単位%)

図10. 【2021年度調査】里親登録年～専門里親～ (問1-5)

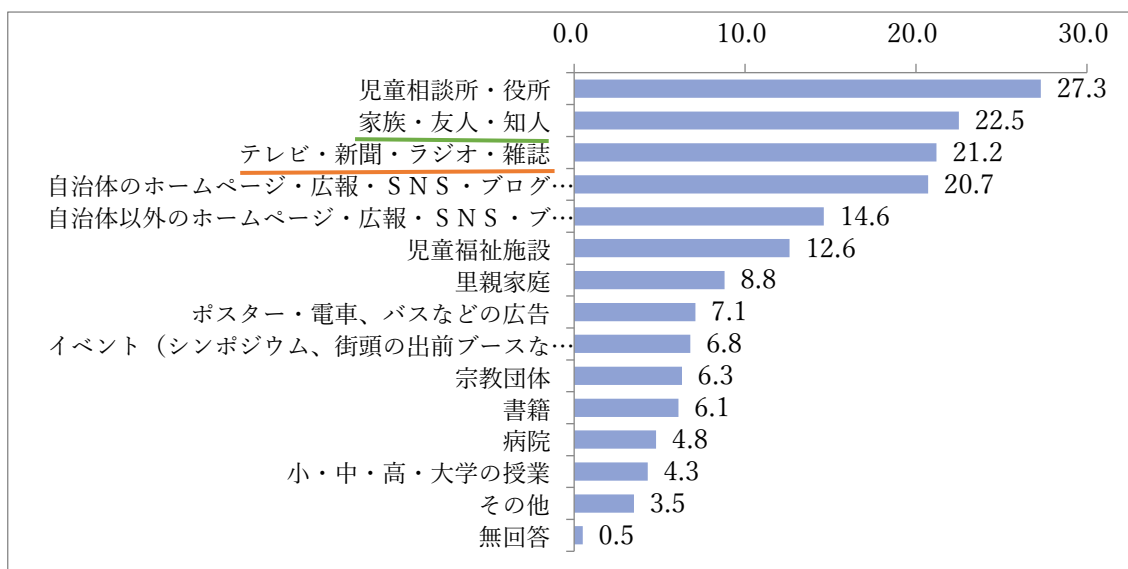
〈里親の情報入手方法〉

里親に申請する以前、里親についての情報が何から得られたか尋ねた。2018 年度調査、2021 年度調査ともに、「児童相談所・役所」が最も回答が多かった。2018 年度調査では、2 番目に「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌など」、次いで「家族・友人・知人」の順だったが、2021 年度調査では、2 番目に「家族・友人・知人」、次いで「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌など」だった。



(n=415、単位%)

図 11. 【2018 年度調査】里親の情報入手方法（問 2）

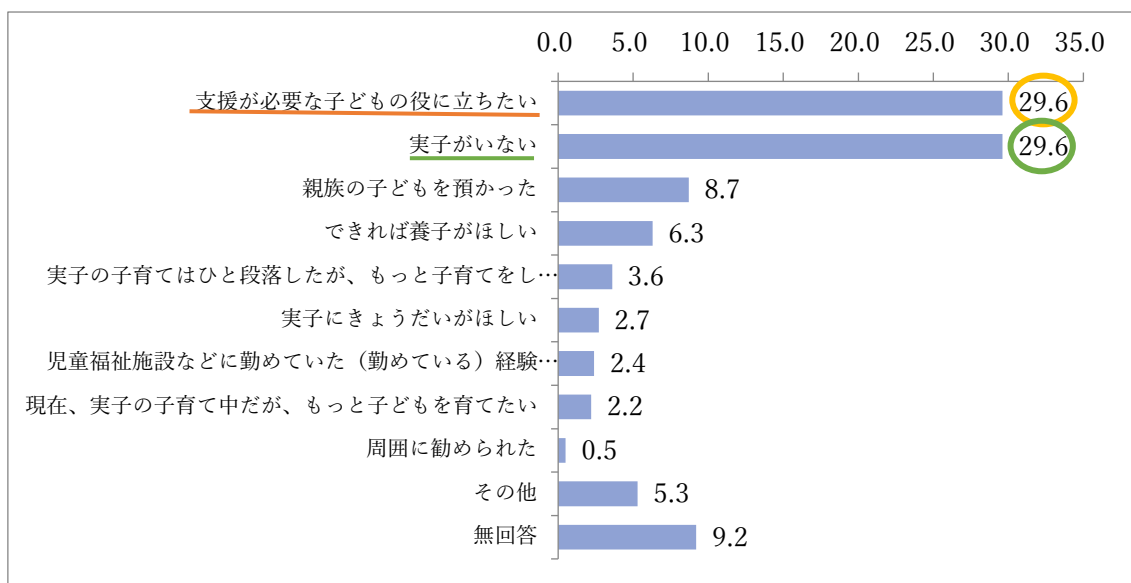


(n=396、単位%)

図 12. 【2021 年度調査】里親の情報入手方法（問 2）

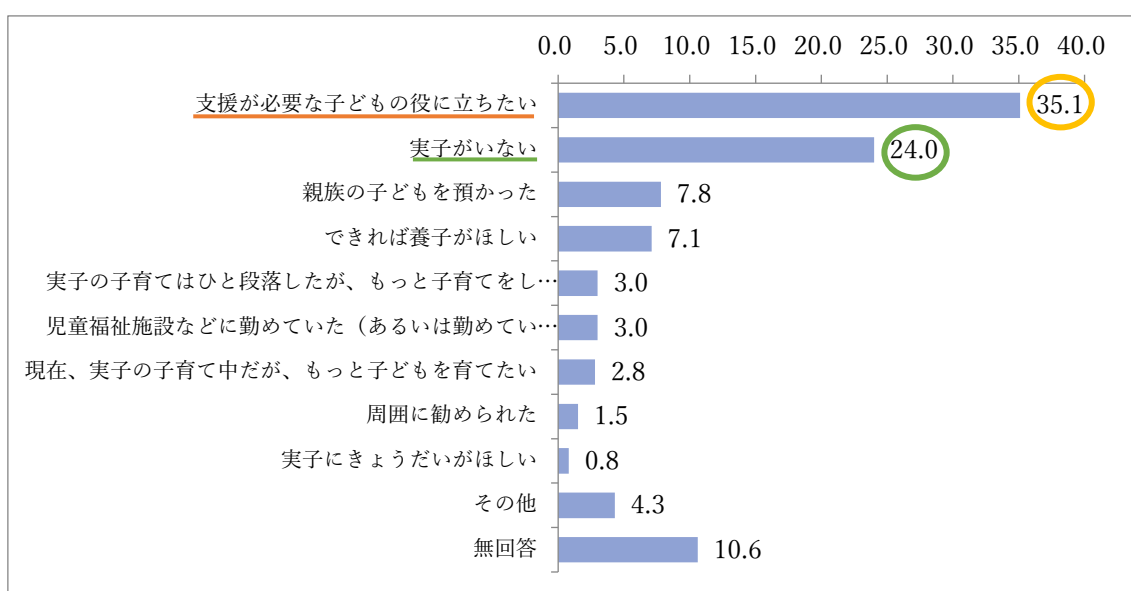
〈里親の志望理由〉

里親の志望理由については、2018年度調査では、「支援が必要な子どもの役に立ちたい」「実子がない」がともに最も多かった。2021年度調査でも同じ項目が上位に並ぶが、「支援が必要な子どもの役に立ちたい」は、2018年度調査と比較して5.5%ポイント増加し、「実子がない」という回答は5.6%ポイント減少した。



(n=415、単位%)

図 13. 【2018年度調査】里親の志望理由 (問3)

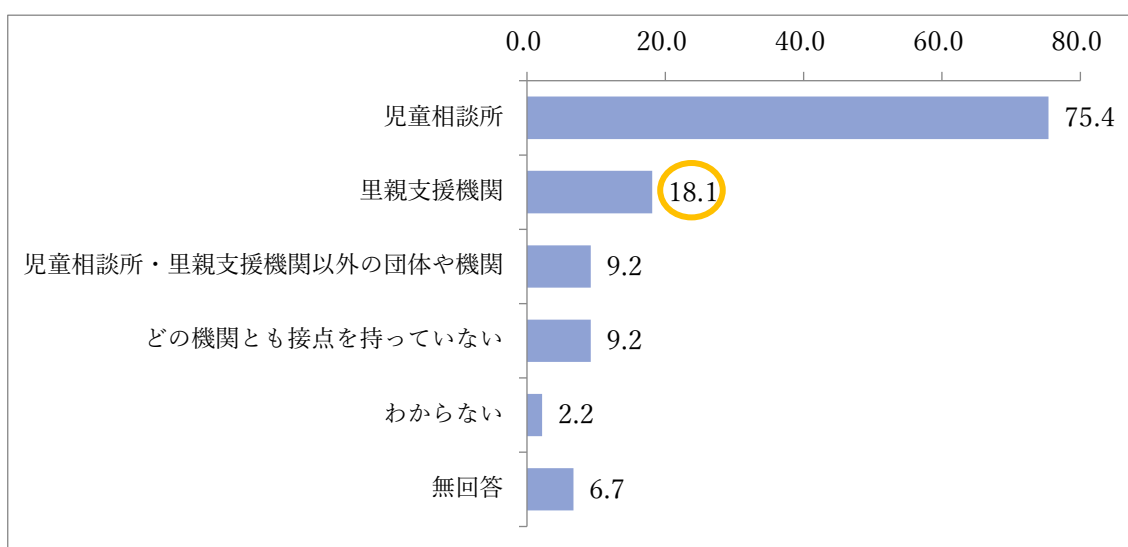


(n=396、単位%)

図 14. 【2021年度調査】里親の志望理由 (問3)

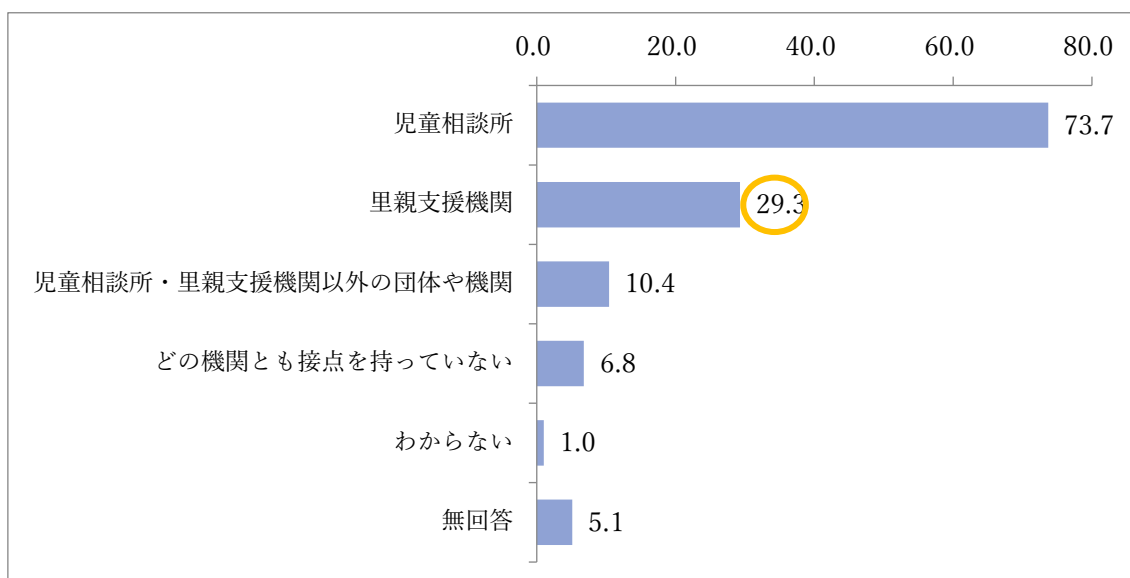
〈各機関との接触時点～A.里親制度の説明会・里親の募集～〉

里親制度の説明会・里親の募集があったとき、どの機関と接点を持ったか尋ねた。2018年度調査では、「児童相談所」が75.4%を占めており、「里親支援機関」は18.1%だった。2021年度調査では、「児童相談所」は73.7%で「里親支援機関」が29.3%と増加した。



(n=415、単位%)

図 15. 【2018 年度調査】各機関との接触時点～A.里親制度の説明会・里親の募集～
(問 4-1)

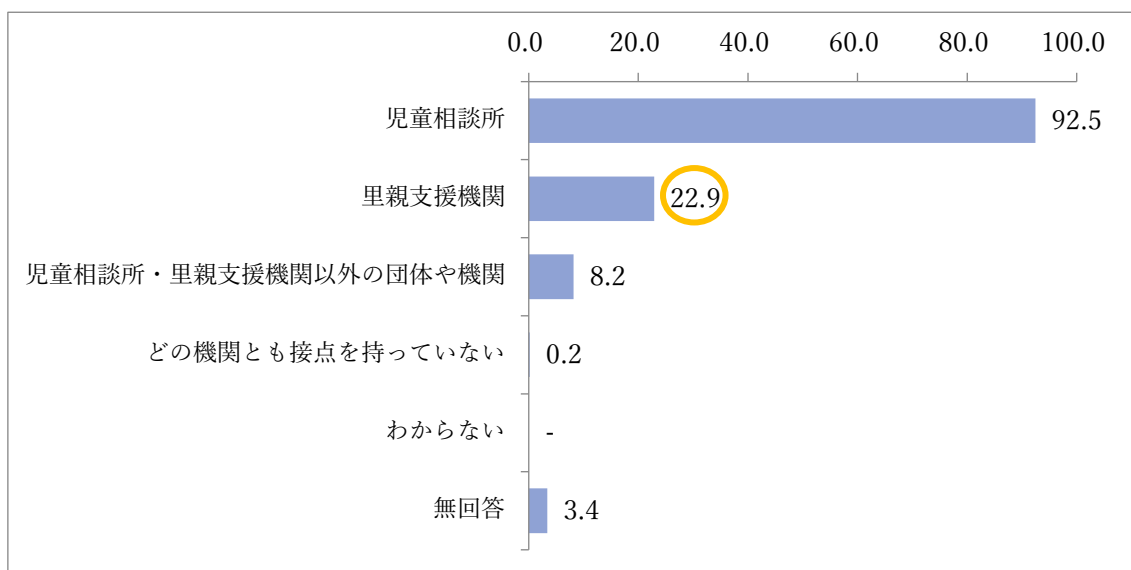


(n=396、単位%)

図 16. 【2021 年度調査】各機関との接触時点～A.里親制度の説明会・里親の募集～
(問 4-1)

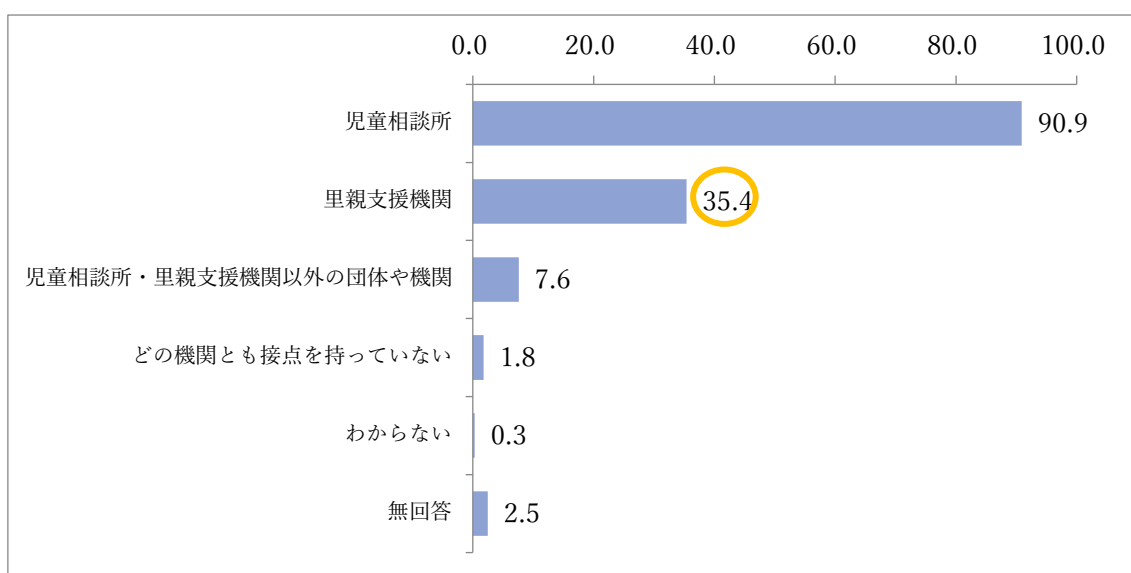
〈各機関との接触時点～B.里親登録にいたるまでの面談・家庭訪問～〉

里親登録にいたるまでの面談・家庭訪問の段階においても、2018年度調査では、「児童相談所」が92.5%を占めており、「里親支援機関」は22.9%だった。2021年度調査では、「児童相談所」が90.9%を占めていたが、「里親支援機関」も35.4%と増加していた。



(n=415、単位%)

図 17. 【2018年度調査】各機関との接触時点～B.里親登録にいたるまでの面談・家庭訪問～ (問 4-2)

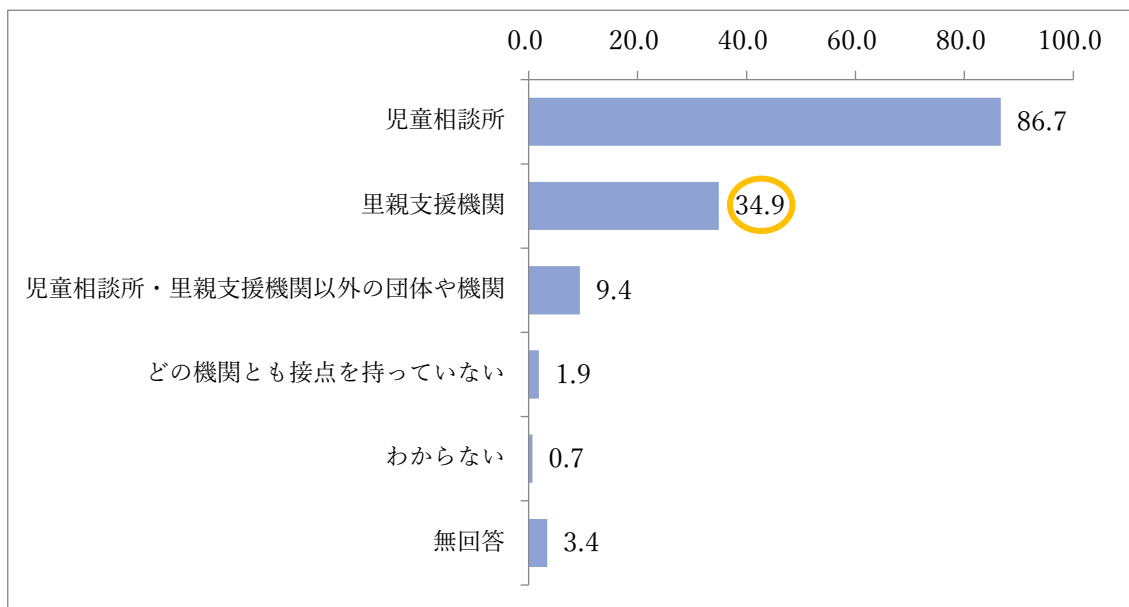


(n=396、単位%)

図 18. 【2021年度調査】各機関との接触時点～B.里親登録にいたるまでの面談・家庭訪問～ (問 4-2)

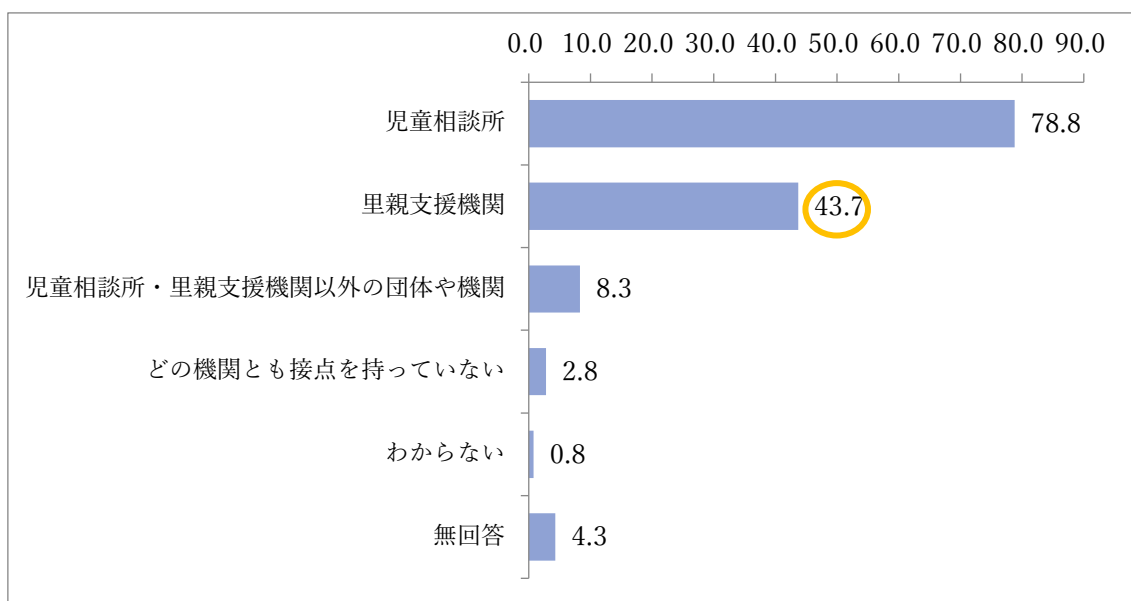
〈各機関との接触時点～C.里親登録の研修～〉

里親登録の研修時点においては、接点を持った機関としては、2018年度調査では、「児童相談所」が86.7%だったが、「里親支援機関」も34.9%が実施していた。2021年度調査では、「児童相談所」は78.8%で、「里親支援機関」は43.7%に上昇した。



(n=415、単位%)

図 19. 【2018年度調査】各機関との接触時点～C.里親登録の研修～ (問 4-3)

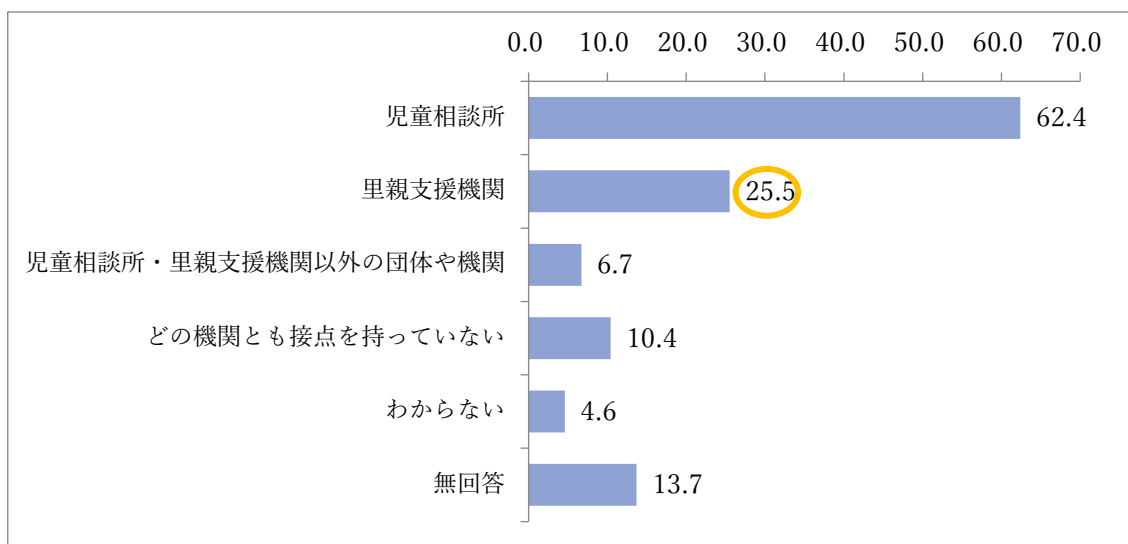


(n=396、単位%)

図 20. 【2021年度調査】各機関との接触時点～C.里親登録の研修～ (問 4-3)

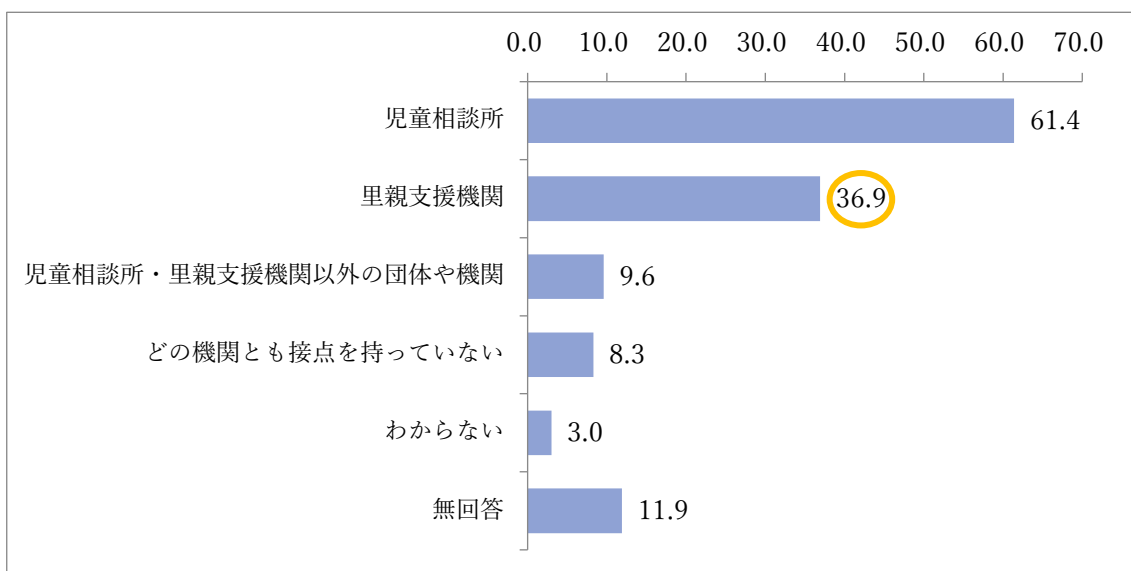
〈各機関との接触時点～D.未委託期間中の状況確認やフォロー～〉

未委託期間中の状況確認やフォローについては、「児童相談所」が62.4%であり、「里親支援機関」は25.5%だった。「どの機関とも接点を持っていない」という回答も10.4%あった。2021年度調査では、「児童相談所」が61.4%で、「里親支援機関」は36.9%と増加した。「どの機関とも接点を持っていない」という回答も8.3%あった。



(n=415、単位%)

図 21. 【2018 年度調査】各機関との接触時点～D.未委託期間中の状況確認やフォロー～
(問 4-4)

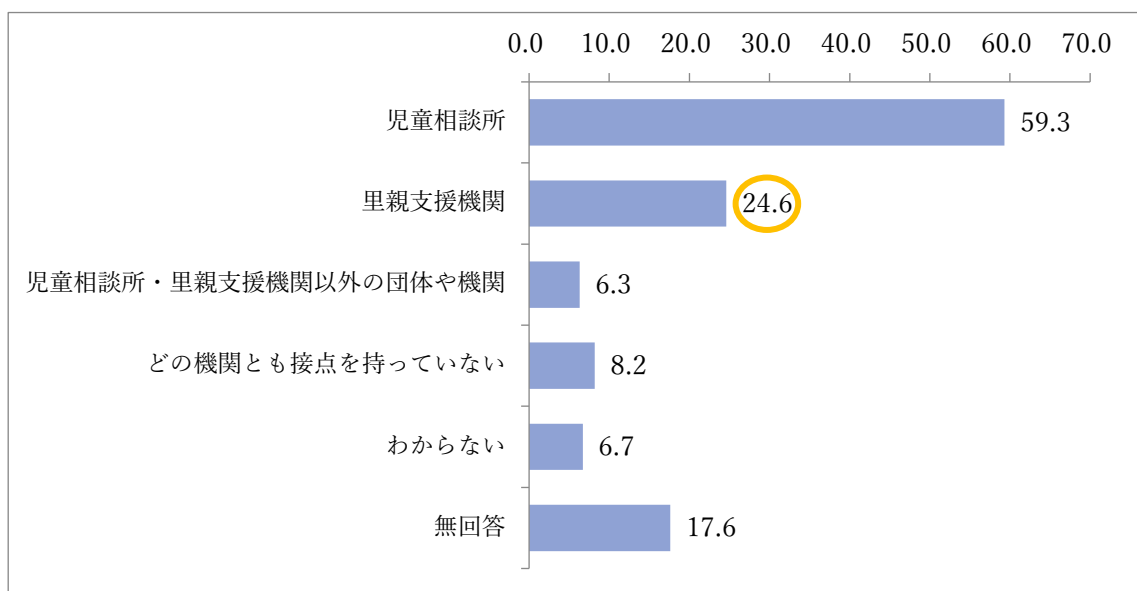


(n=396、単位%)

図 22. 【2021 年度調査】各機関との接触時点～D.未委託期間中の状況確認やフォロー～
(問 4-4)

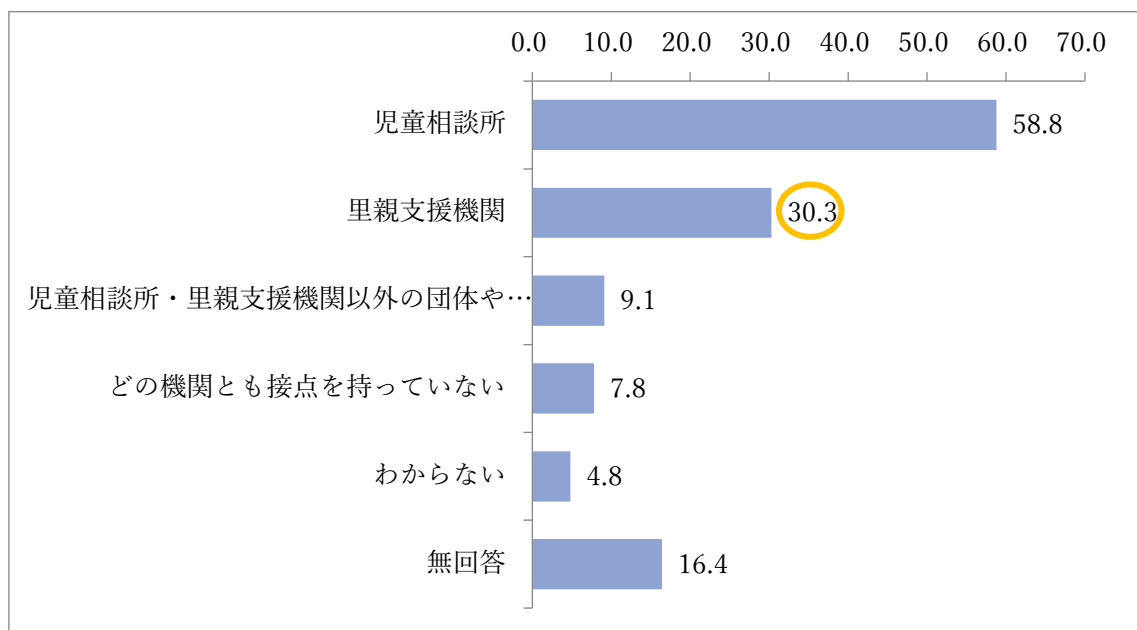
〈各機関との接触時点～E.子どもとのマッチング～〉

子どもとのマッチング段階においては、2018年度調査では、「児童相談所」は59.3%で、「里親支援機関」は24.6%だった。無回答が17.6%と目立った。2021年度調査では、「児童相談所」は58.8%で、「里親支援機関」は30.3%に増加した。無回答は7.8%に減少した。



(n=415、単位%)

図 23. 【2018年度調査】各機関との接触時点～E.子どもとのマッチング～ (問 4-5)

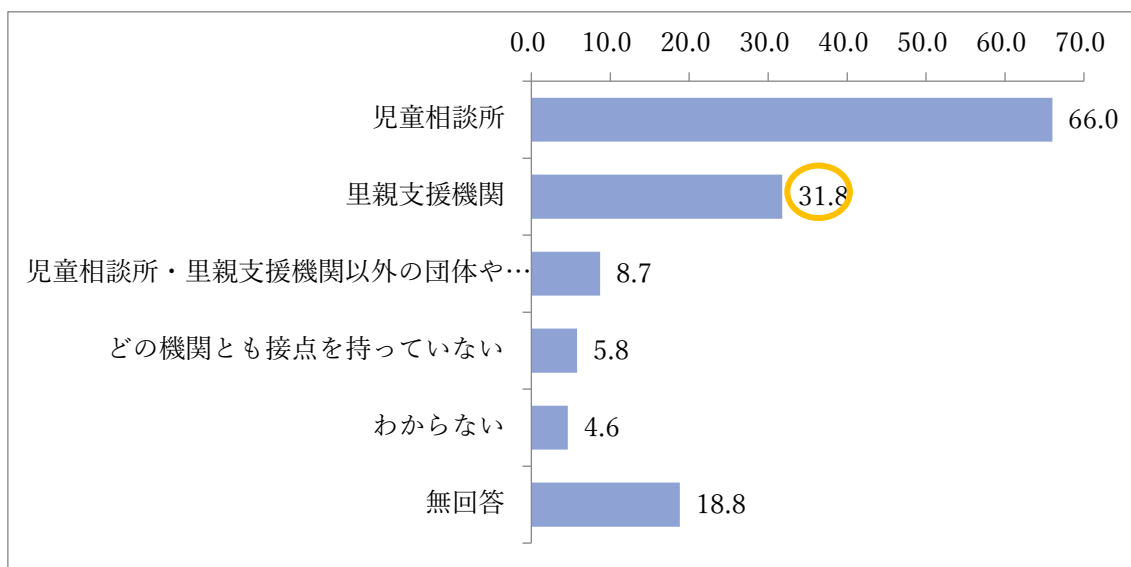


(n=396、単位%)

図 24. 【2021年度調査】各機関との接触時点～E.子どもとのマッチング～ (問 4-5)

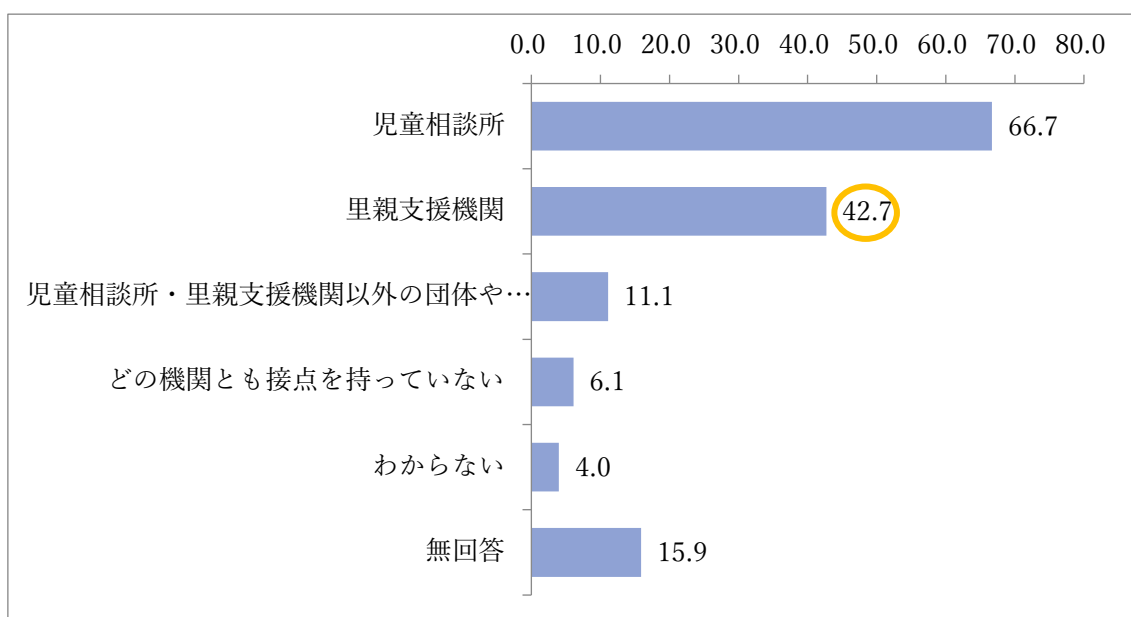
〈各機関との接触時点～F.委託後の訪問やフォロー～〉

委託後の訪問やフォローの段階においては、「児童相談所」が66.0%と多いものの、「里親支援機関」も31.8%の回答があった。無回答が18.8%だった。2021年度調査では、「児童相談所」が66.7%と2018年度調査とほぼ同様だったが、「里親支援機関」は42.7%と10%ポイント以上増加した。無回答は15.9%あった。



(n=415、単位%)

図 25. 【2018 年度調査】各機関との接触時点～F.委託後の訪問やフォロー～ (問 4-6)

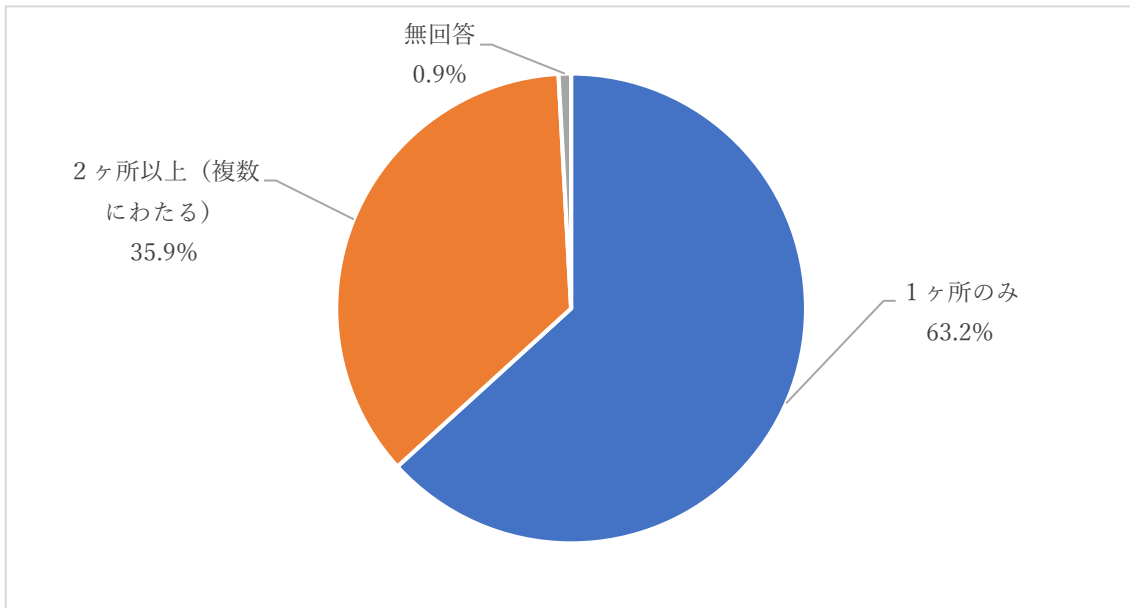


(n=396、単位%)

図 26. 【2021 年度調査】各機関との接触時点～F.委託後の訪問やフォロー～ (問 4-6)

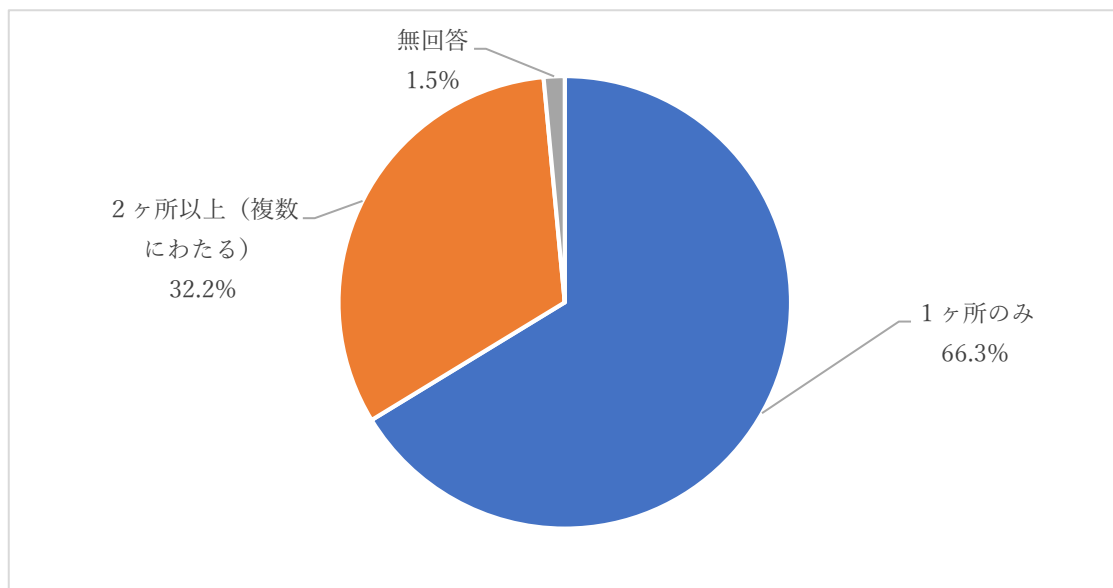
〈接点を持った里親支援機関数〉

A~F の各段階で、ひとつでも「里親支援機関」と回答した人に、接点を持った里親支援機関の数を尋ねた。2018 年度調査では、「1 か所のみ」が 63.2% で多かったが、「2 か所以上（複数にわたる）」という回答も 35.9% あった。2021 年度調査では「1 ヶ所のみ」が 66.3% で若干増加し、「2 か所以上（複数にわたる）」が 32.2% だった。



(n=234、単位%)

図 27. 【2018 年度調査】接点を持った里親支援機関数（問 5）

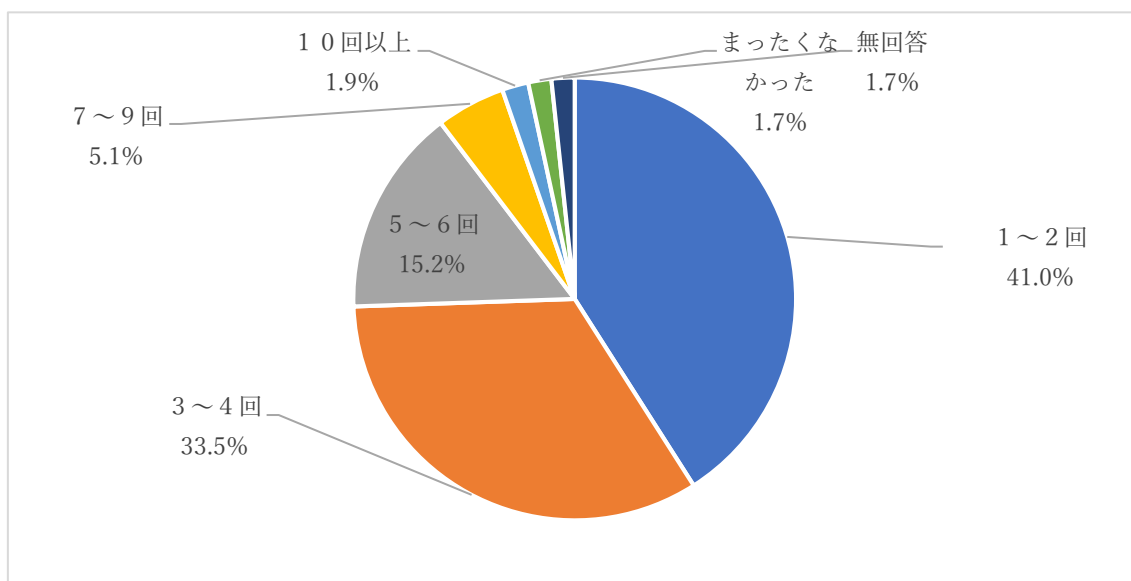


(n=267、単位%)

図 28. 【2021 年度調査】接点を持った里親支援機関数（問 5）

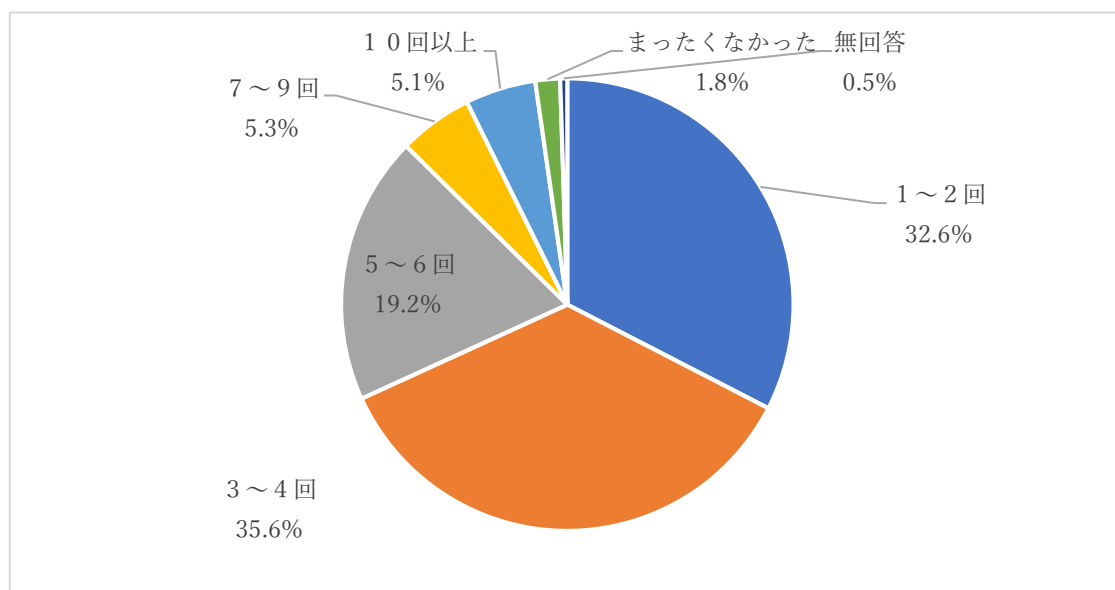
〈里親登録前の面談・面接・家庭訪問数〉

回答者全員に、里親登録前の面談・面接・家庭訪問の回数について尋ねた。2018 年度調査では、「1~2 回」が最も多く 41.0%、次に、「3~4 回」が 33.5%だった。2021 年度調査では「3~4 回」が最も多くなっており 35.6%、次いで「1~2 回」が 32.6%だった。「5~6 回」も 4%ポイント増加した。



(n=415、単位%)

図 29. 【2018 年度調査】里親登録前の面談・面接・家庭訪問 (問 6)

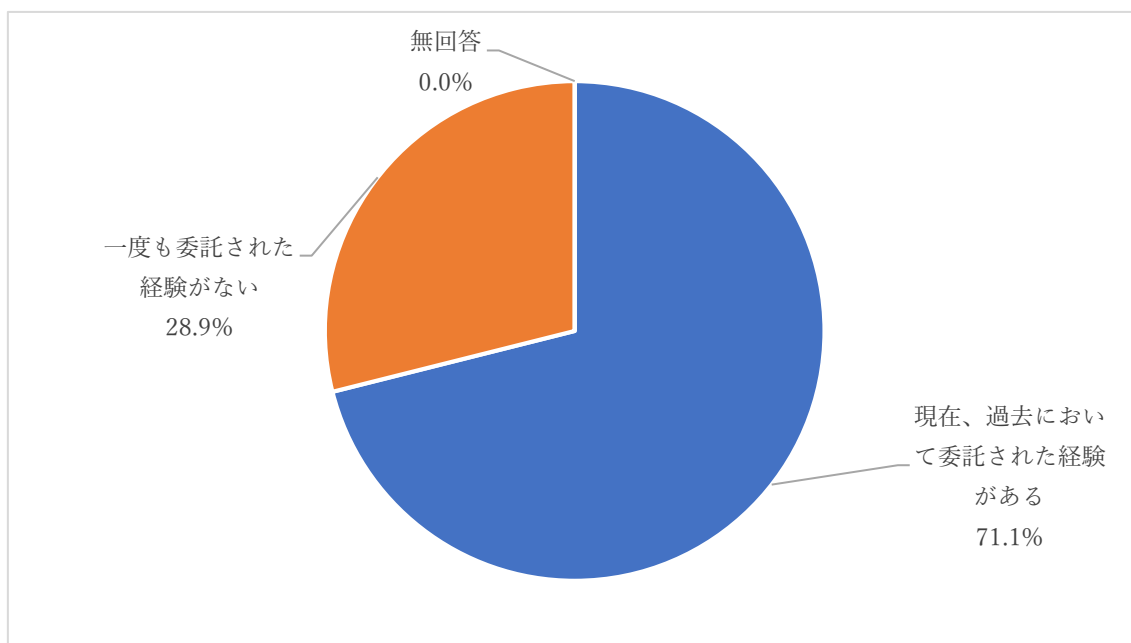


(n=396、単位%)

図 30. 【2021 年度調査】里親登録前の面談・面接・家庭訪問 (問 6)

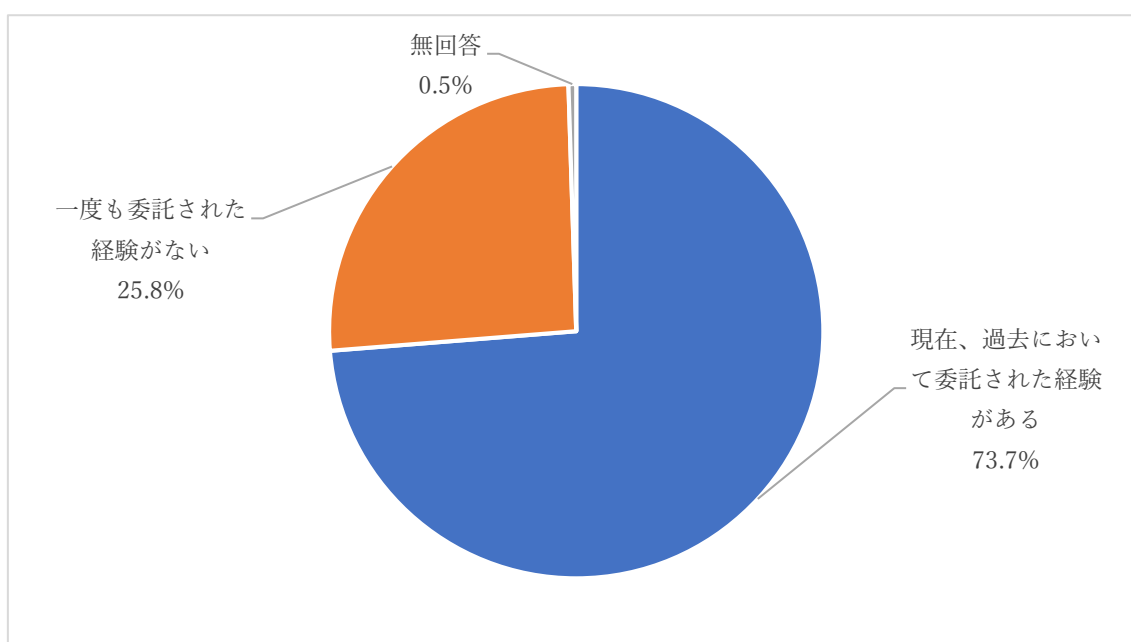
〈委託された経験の有無〉

委託された経験の有無について尋ねた。2018 年度調査では「一度も委託された経験がない」とした回答者は 28.9%で、2021 年度調査では 25.8%であり、わずかに減少した。



(n=415、単位%)

図 31. 【2018 年度調査】委託された経験の有無 (問 7)

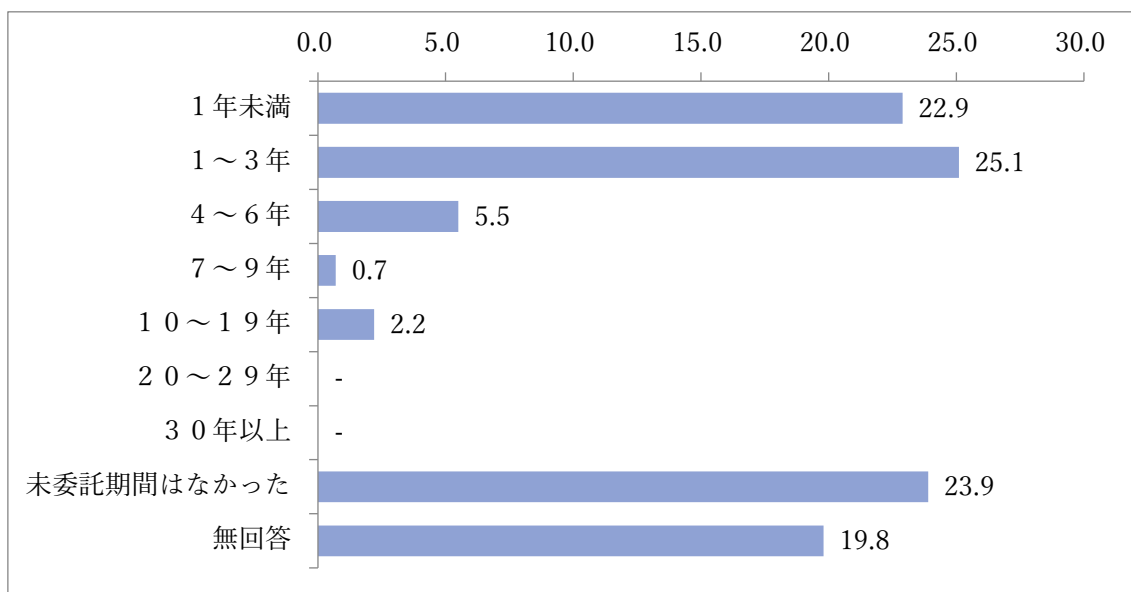


(n=396、単位%)

図 32. 【2021 年度調査】委託された経験の有無 (問 7)

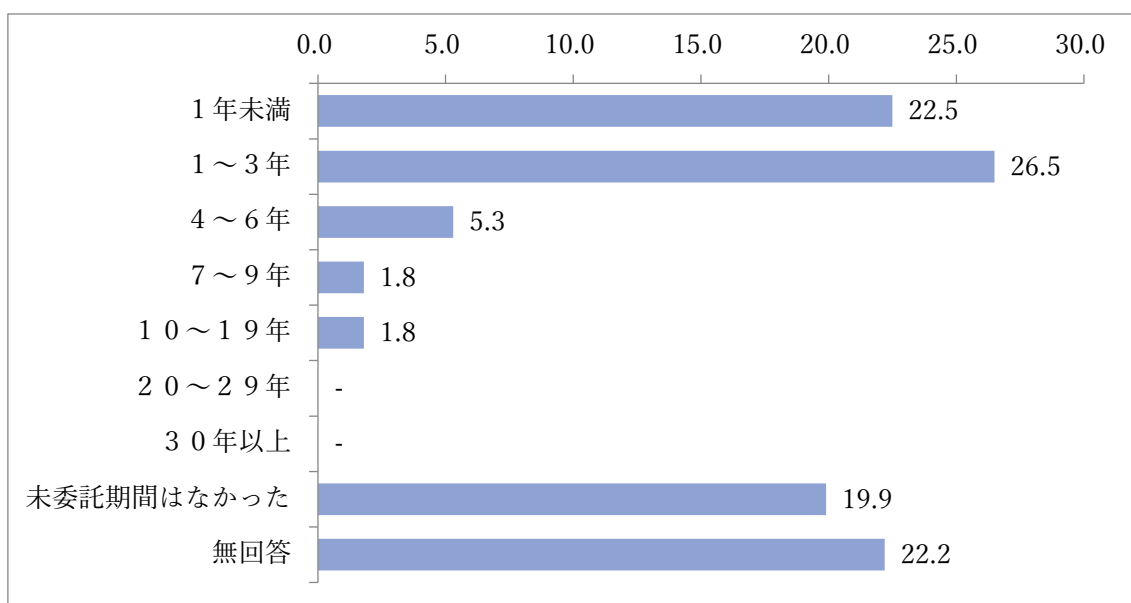
〈一番最近の未委託期間〉

一番最近の未委託の期間はどのくらいあったか尋ねた。2018年度調査では、「1～3年」が最も多く25.1%、次いで「1年未満」が22.9%だった。「未委託期間はなかった」とした回答者も23.9%いた。2021年度調査では、同様に「1～3年」が最も多く26.5%、次いで「1年未満」が22.5%だった。「未委託期間はなかった」という回答は19.9%だった。



(n=415、単位%)

図 33. 【2018年度調査】一番最近の未委託期間 (問 8)



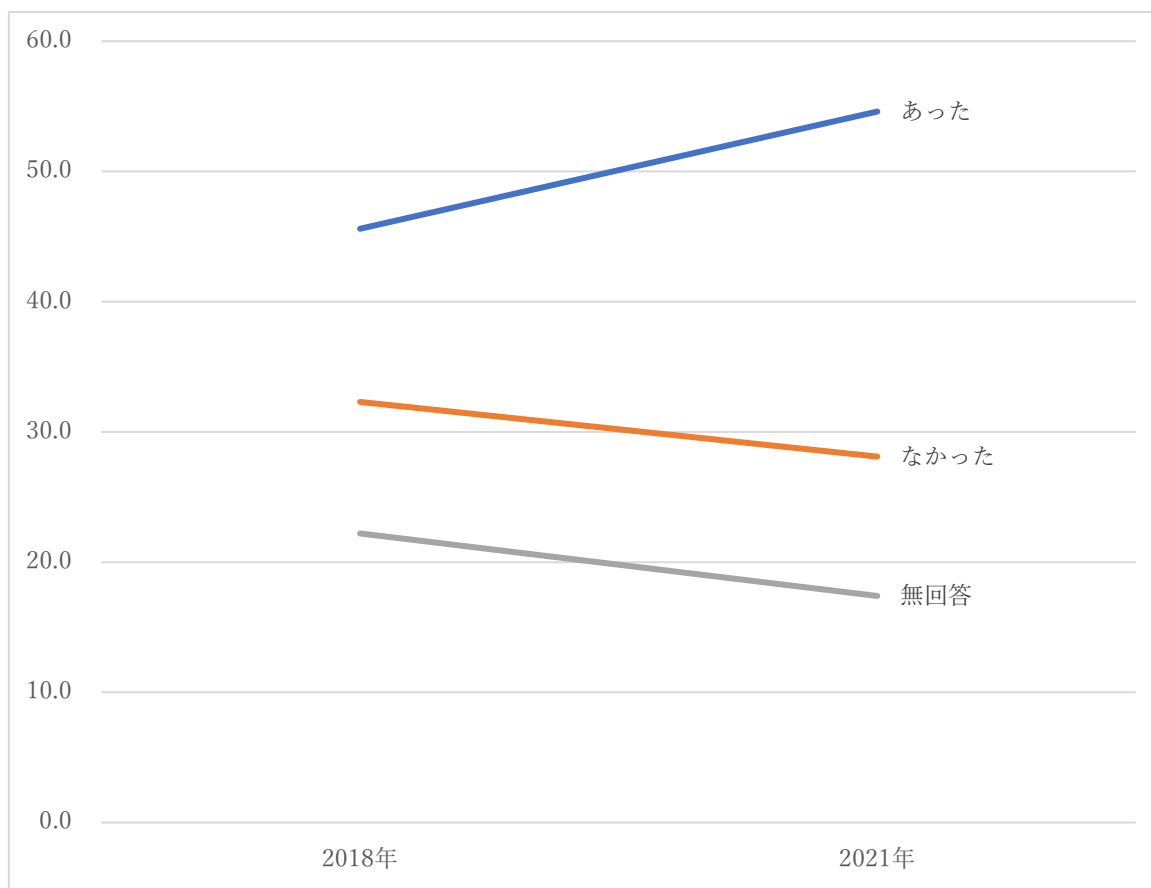
(n=396、単位%)

図 34. 【2021年度調査】一番最近の未委託期間 (問 8)

〈法定外任意研修の有無〉

未委託期間についての回答で「未委託期間はなかった」と回答した人を除いて、一番最近の未委託期間中に、法定外の任意の研修の案内があったか否か尋ねた。2018年度調査よりも2021年度調査のほうが「あった」とする回答者が9%ポイント（45.6%から54.6%へ）増加した。「なかった」はやや減少した（32.3%から28.1%へ）。

[2018年度調査と2021年度調査]



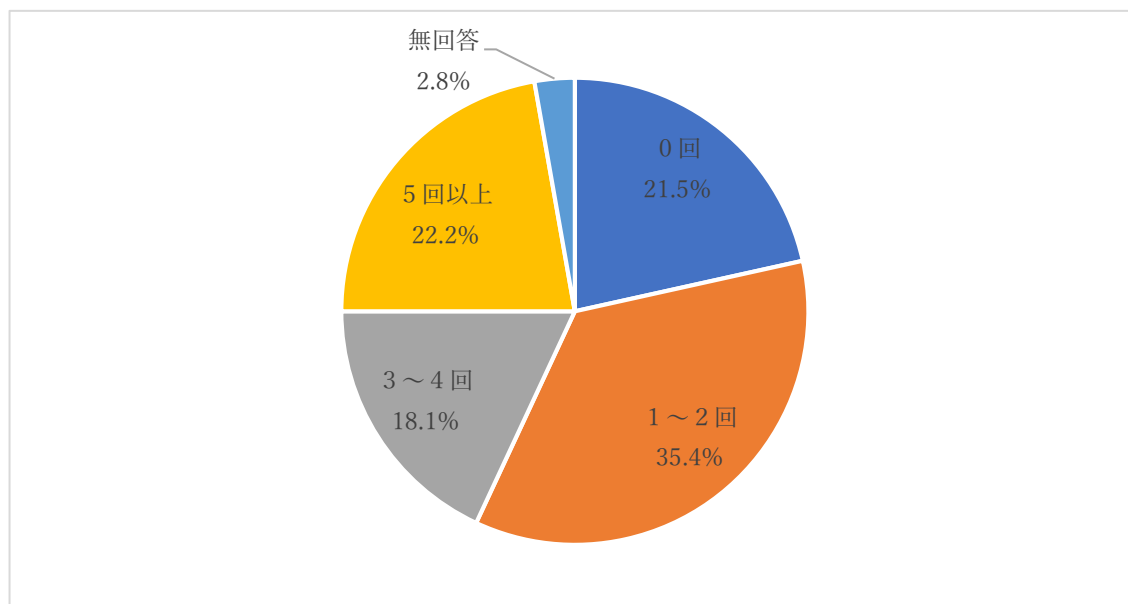
(n=316、単位%)

(n=317、単位%)

図 35. 【2018年度調査】【2021年度調査】法定外任意研修の有無（問9）

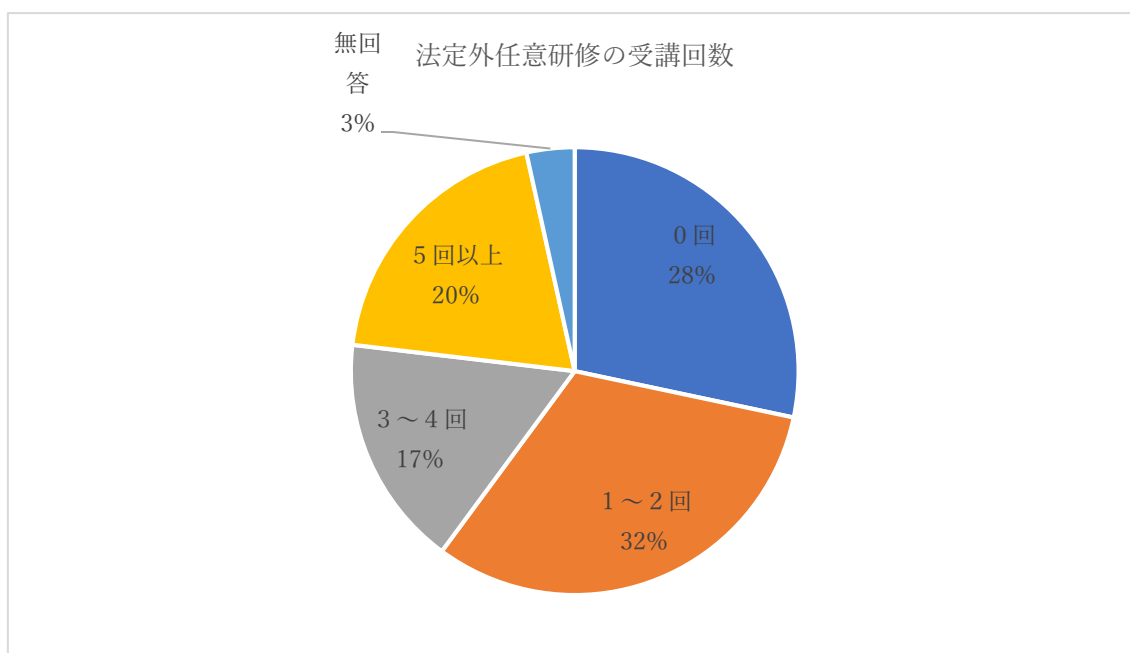
〈法定外任意研修の受講回数〉

法定外任意研修について「あった」とした回答者に、何回受講したかを尋ねた。いずれも「1~2回」が最も多かった。



(n=144、単位%)

図 36. 【2018 年度調査】法定外任意研修の受講回数 (問 10)

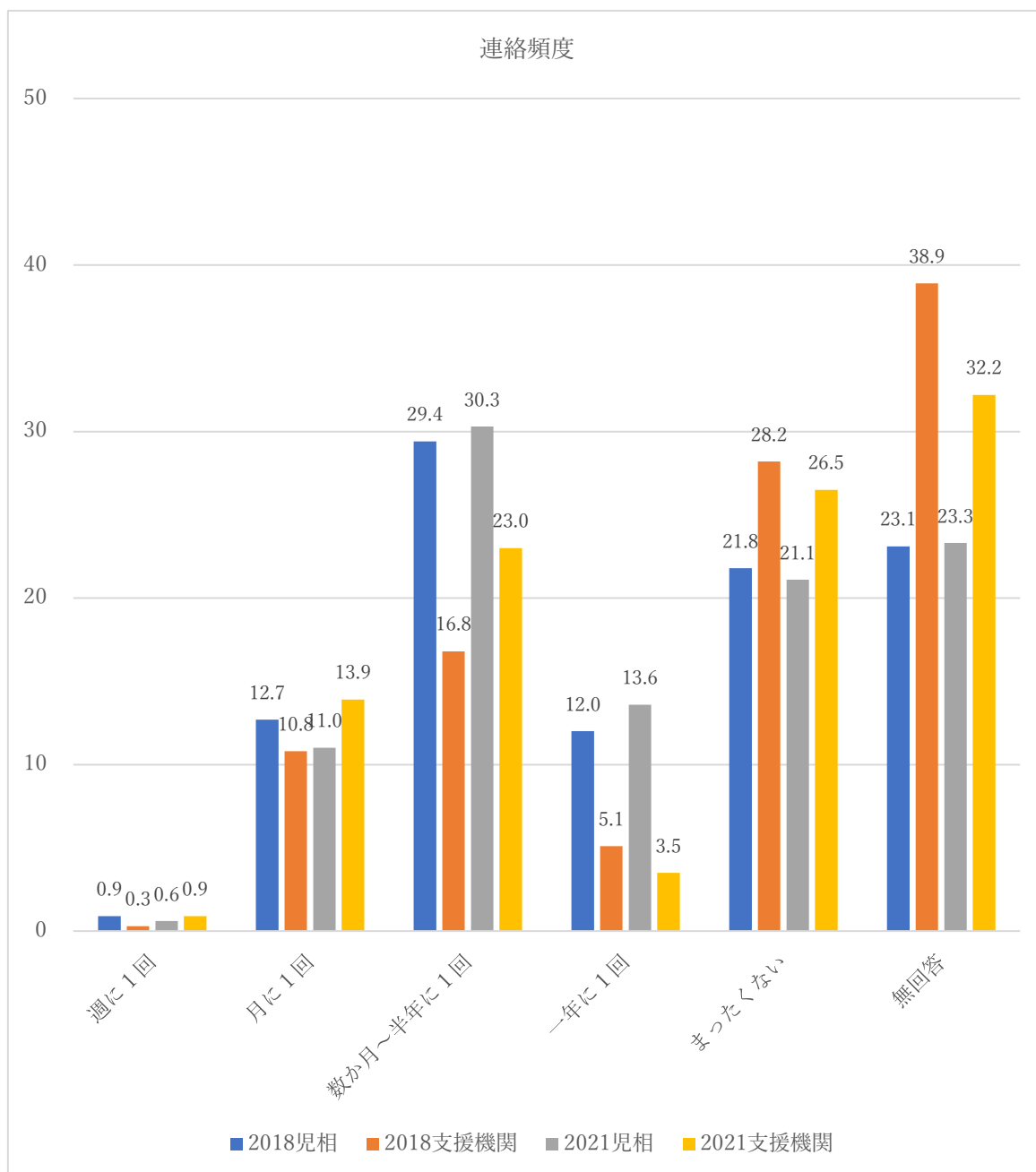


(n=173、単位%)

図 37. 【2021 年度調査】法定外任意研修の受講回数 (問 10)

〈連絡頻度〉

未委託期間が「あった」とした回答者全員に、一番最近の未委託期間中、児童相談所または里親支援機関からは、どのぐらいの頻度で連絡があったか尋ねた。両機関とも 2018 年度調査よりも 2021 年度調査のほうが、「数か月～半年に 1 回」がわずかに増加していた。全般的に、「全くない」という回答、あるいは無回答が多かった。



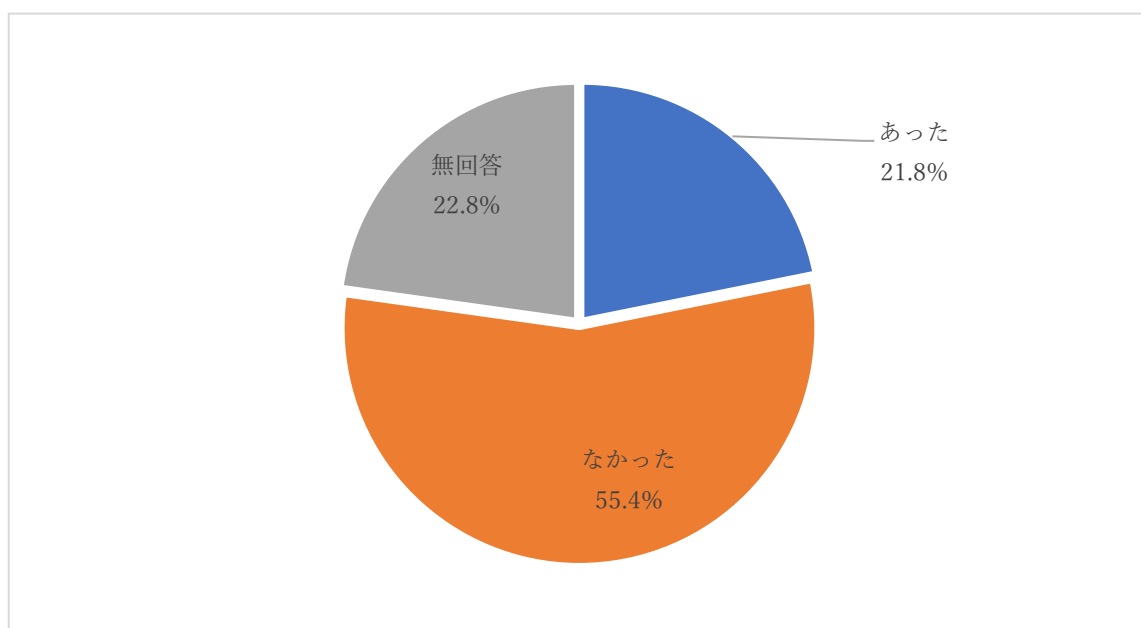
2018 年度調査 (n=316、単位%)

2021 年度調査 (n=317、単位%)

図 38. 【2018 年度調査】【2021 年度調査】連絡頻度 (問 11)

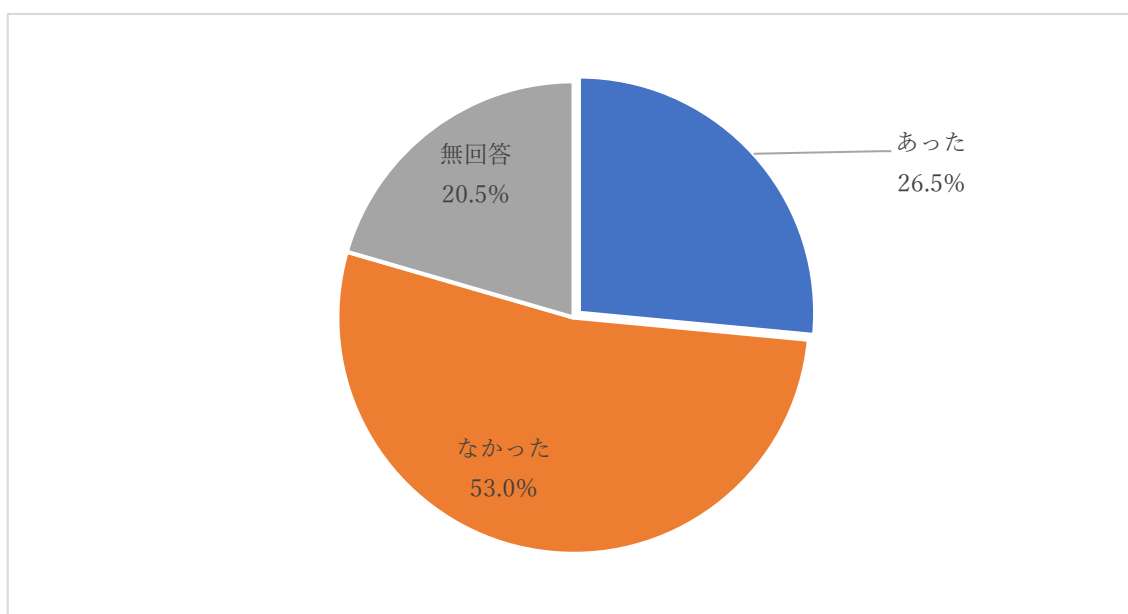
〈未委託理由の説明の有無〉 [2018年度調査]

一番最近の未委託の期間中、未委託の理由について説明があったか否かを尋ねた。2018年度調査では「あった」は21.8%、「なかった」が55.4%、無回答が22.8%だった。2021年度調査では「あった」は26.5%となり、約5%ポイント増加した。



(n=316、単位%)

図 39. 【2018年度調査】未委託理由の説明の有無 (問 12)

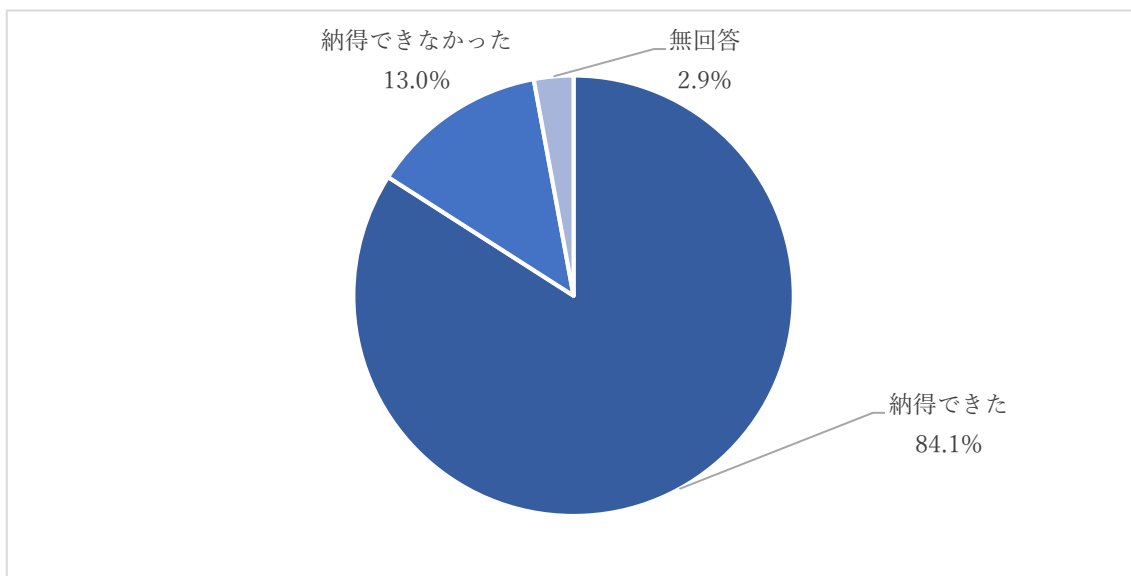


(n=317、単位%)

図 40. 【2021年度調査】未委託理由の説明の有無 (問 12)

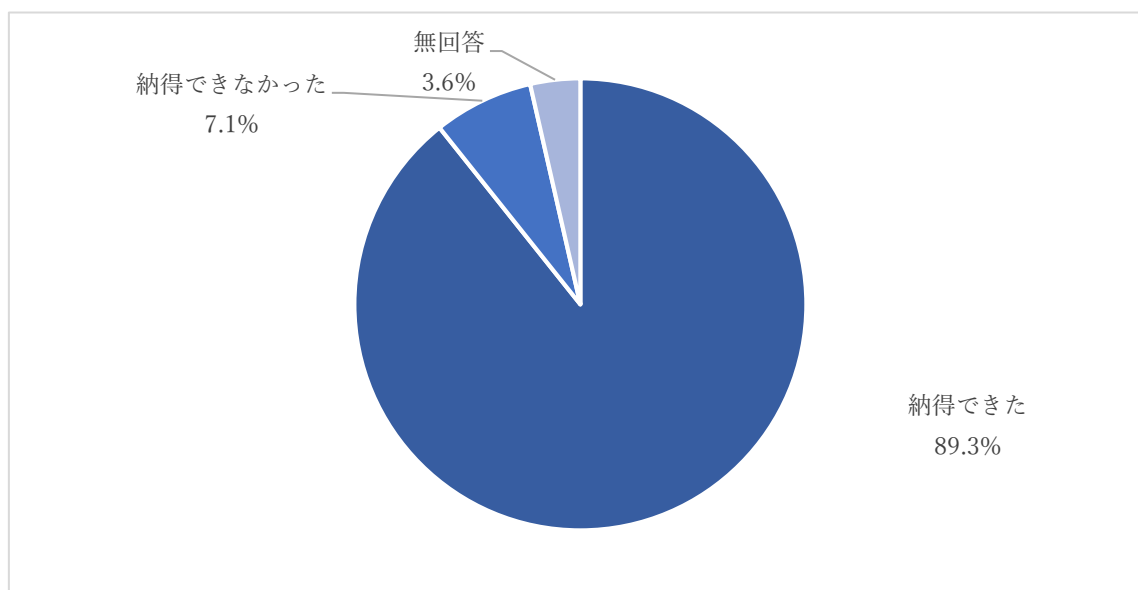
〈未委託理由に納得できたか〉

未委託理由の説明が「あった」とした回答者（2018年度調査では69人、2021年度調査では84人）に、その説明は納得できるものだったか否かを尋ねた。2018年度調査では、「納得できた」とした回答者は84.1%いたが、13.0%が「納得できなかった」と回答しており、2021年度調査では、「納得できた」は89.3%にのぼった。「納得できなかった」は7.1%だった。



(n=69、単位%)

図 41. 【2018 年度調査】未委託理由に納得できたか（問 13）



(n=84、単位%)

図 42. 【2021 年度調査】未委託理由に納得できたか（問 13）

〈未委託理由の説明者〉

未委託理由の説明が「あった」とした回答者に、未委託理由の説明者を尋ねた。2018年度調査では、「児童相談所の児童福祉司（職員）」が88.4%を占めたが、「里親支援機関」という回答も21.7%あった。2021年度調査では「児童相談所の児童福祉司（職員）」が61.0%に減少し、「里親支援機関」が36.0%であり、「里親支援機関」が16.5%ポイント増加した。

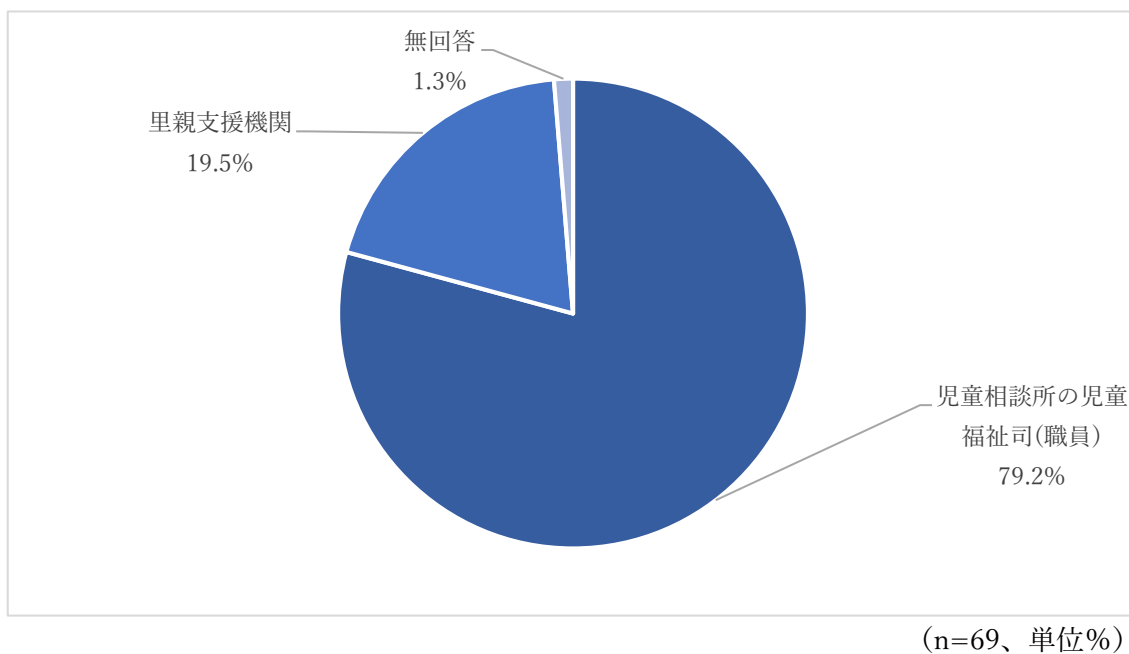


図 43. 【2018 年度調査】未委託理由の説明者（問 14）

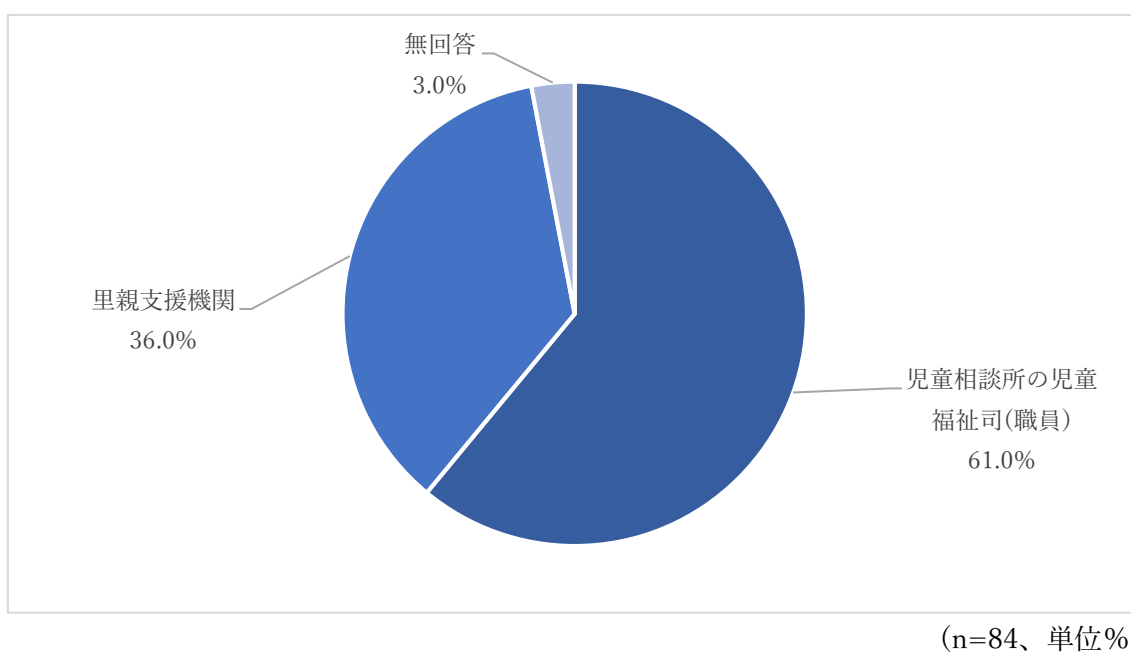
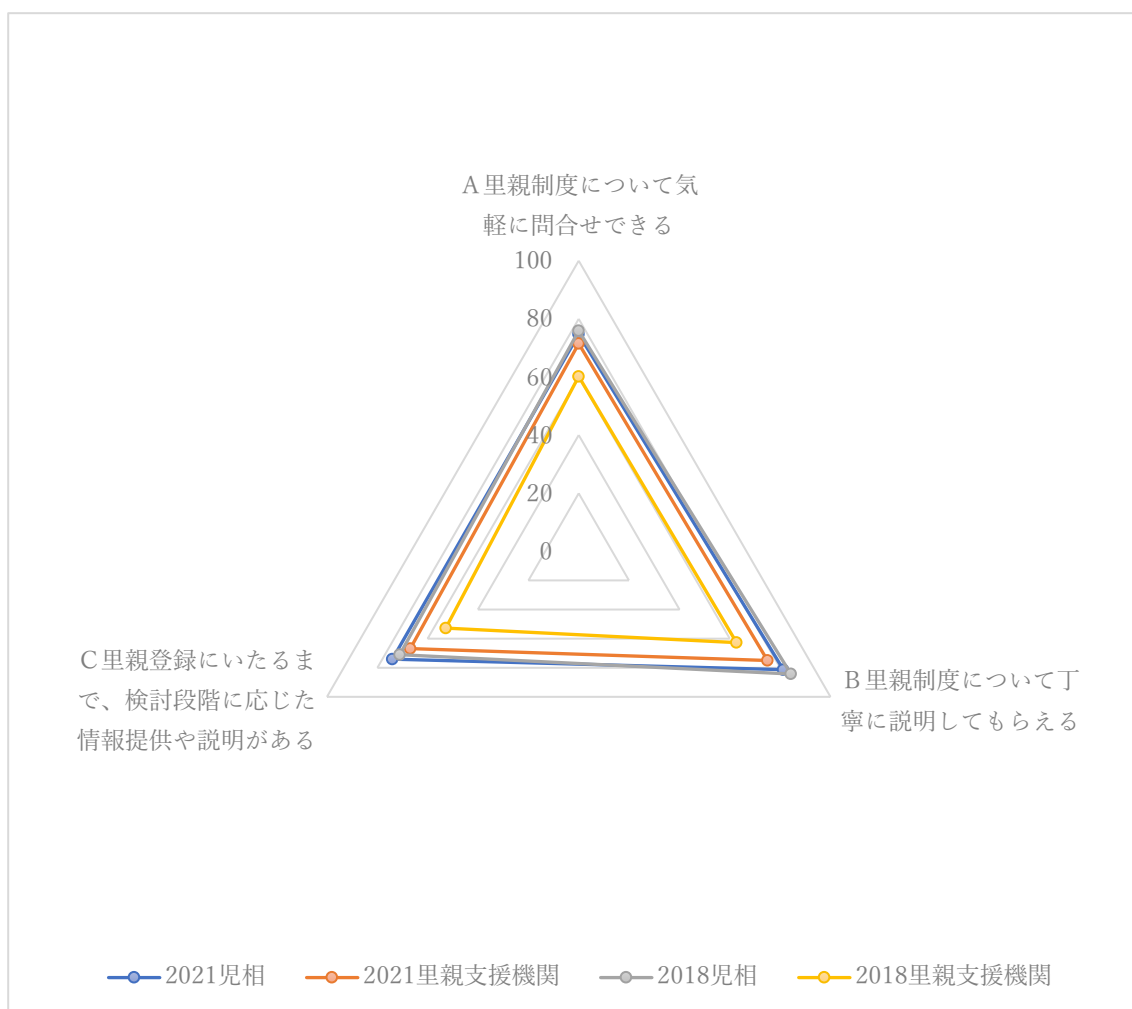


図 44. 【2021 年度調査】未委託理由の説明者（問 14）

〈児童相談所・里親支援機関について思うこと①〉

回答者全員を対象に、「A.里親制度について気軽に問合せできる」「B.里親制度について丁寧に説明してもらえる」「C.里親登録にいたるまで、検討段階に応じた情報提供や説明がある」について、児童相談所（問 15）と里親支援機関（問 16）をどのように思っているかを「とてもそう思う」「そう思う」「そう思わない」「まったくそう思わない」「児童相談所とは接点がないのでわからない」の 5 件法で尋ねた。下記のグラフは、そのうち「とてもそう思う」「そう思う」を合計し、レーダーグラフで表したものである。児童相談所（2018 年度調査は灰色、2021 年度調査は青色）はあまり変化がなかった。一方、里親支援機関は 2018 年度調査（黄色）よりも 2021 年度調査（オレンジ色）のほうがいずれの項目 20%ポイント近く増加しており、2021 年度調査は児童相談所に近い形となっている。



(2018 年度調査：n=415、単位%)

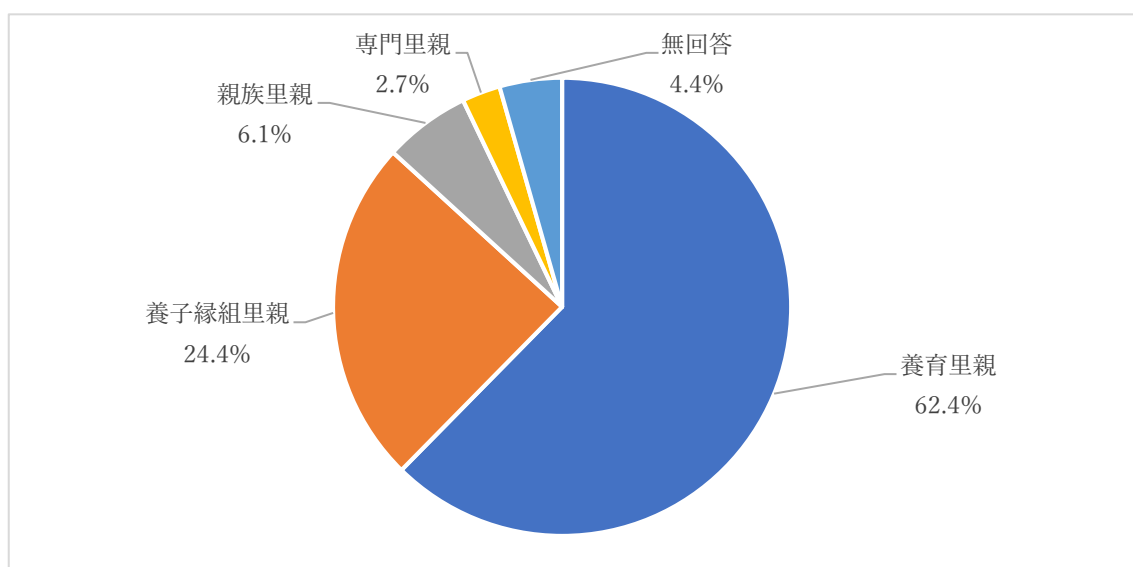
(2021 年度調査：n=415、単位%)

図 45. 【2018 年度調査】【2021 年度調査】

児童相談所（問 15）・里親支援機関（問 16）について思うこと①

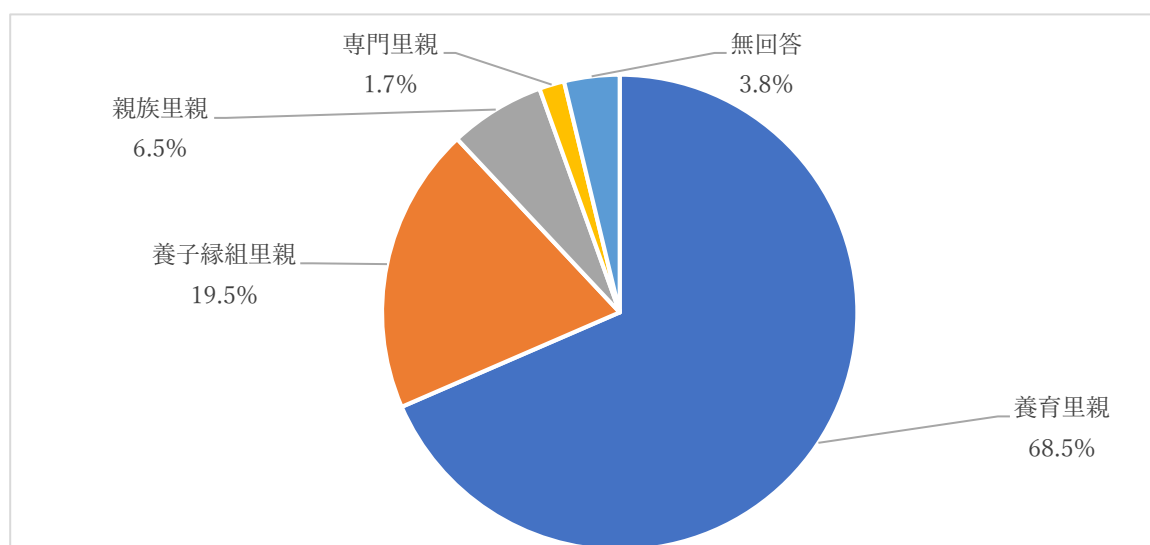
〈受託立場〉

委託経験のある回答者に、一番最近の委託経験について、どの立場で受託しているかを尋ねた。一番最近に委託された子どもが複数いる場合は、一番上の年齢の子どもについて尋ねた。2018年度調査では、「養育里親」が62.4%、「養子縁組里親」が24.4%、「親族里親」が6.1%、「専門里親」が2.7%、無回答が4.4%だった。2021年度調査では、「養育里親」が68.5%、「養子縁組里親」が19.5%、「親族里親」が6.5%、「専門里親」が1.7%、無回答が3.8%だった。



(n=295、単位%)

図 46. 【2018年度調査】受託立場 (問 17)

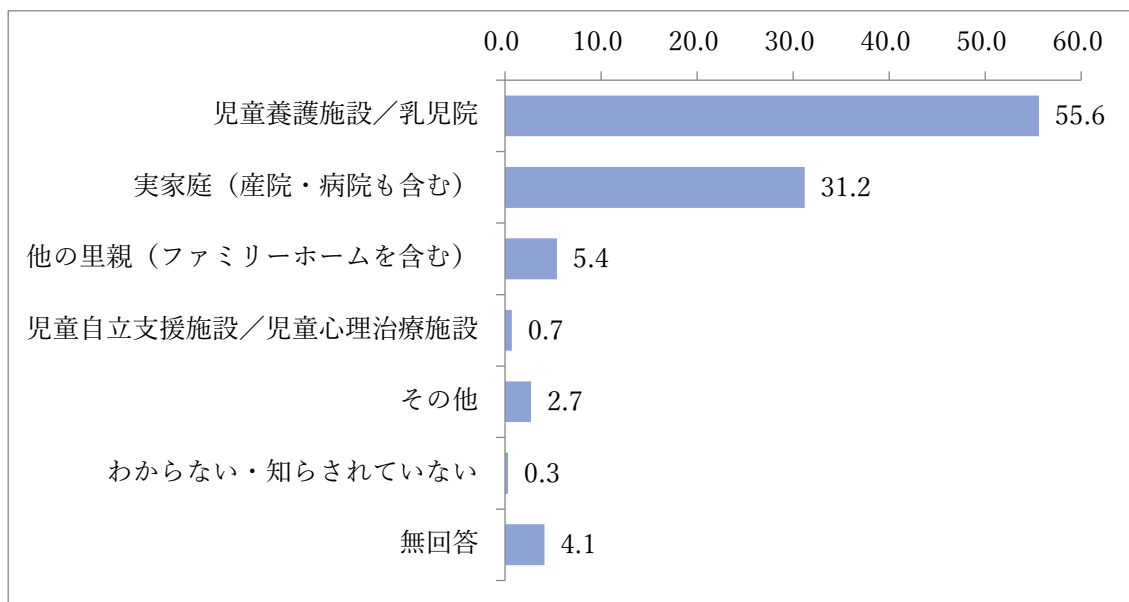


(n=292、単位%)

図 47. 【2021年度調査】受託立場 (問 17)

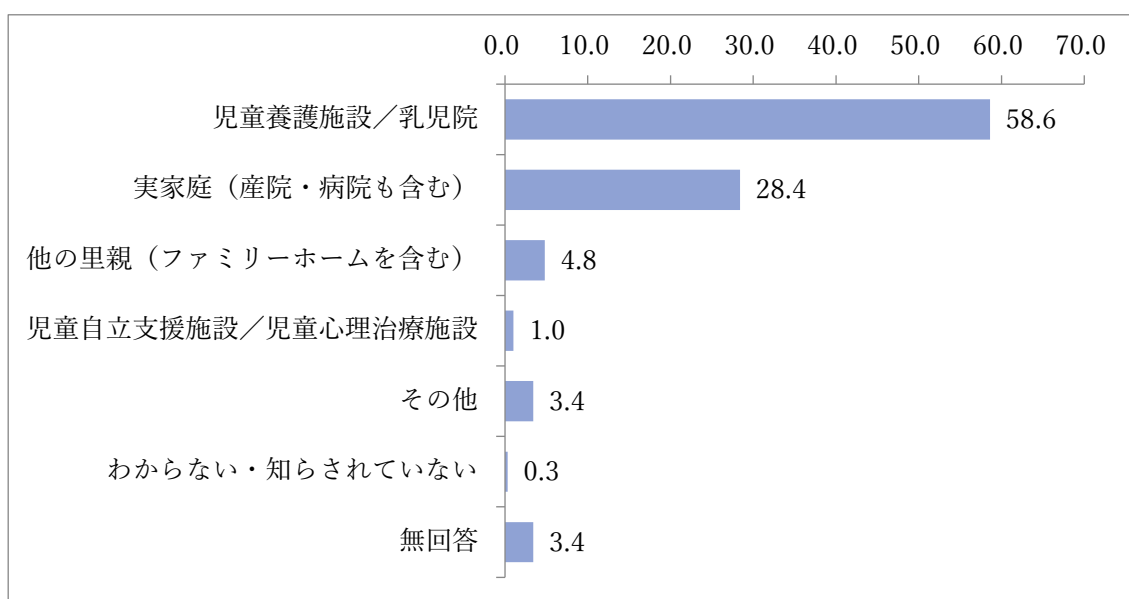
〈委託直前にいた場所〉

一番最近に委託された子どもが委託直前にいた場所について尋ねた。委託直前にいた場所が、一時保護所である場合は、一時保護所の前にいた場所について尋ねた。両調査ともは、「児童養護施設／乳児院」が最も多く、次いで「実家庭（産院・病院も含む）」だった。



(n=295、単位%)

図 48. 【2018 年度調査】受託直前にいた場所（問 18）

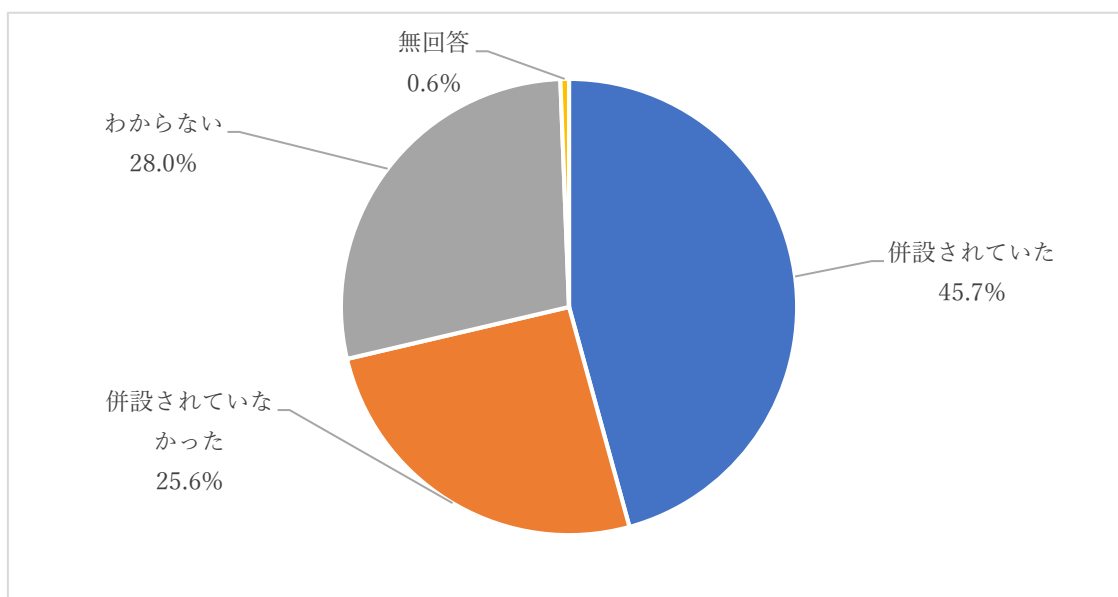


(n=292、単位%)

図 49. 【2021 年度調査】受託直前にいた場所（問 18）

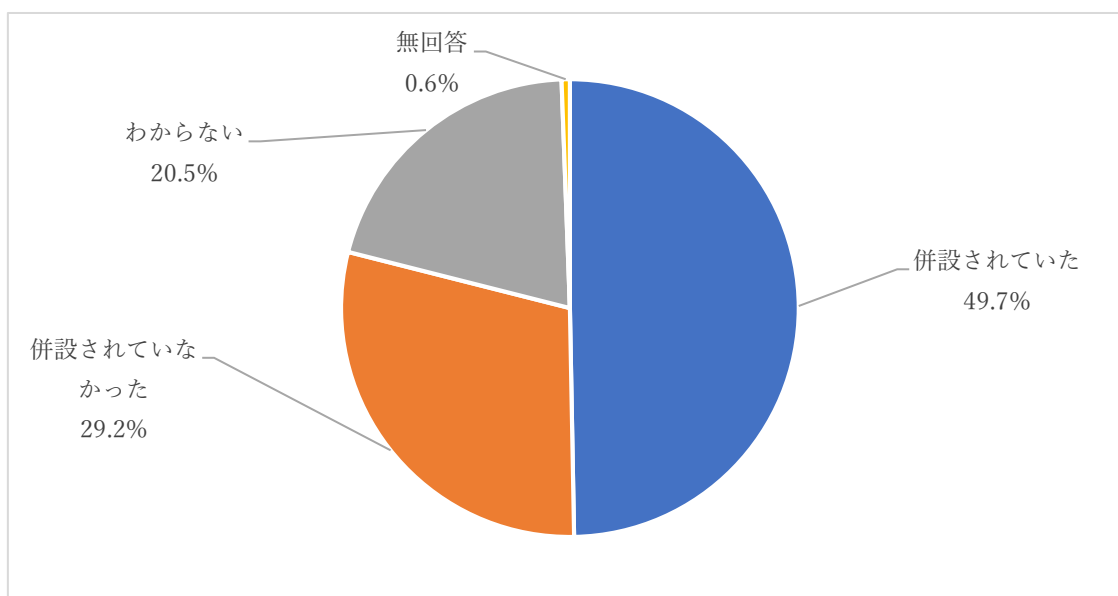
〈里親支援機関併設の有無〉

一番最近に委託された子どもが委託直前にいた場所が「児童養護施設／乳児院」だったとした回答者に、当該の「児童養護施設／乳児院」には、里親支援機関が併設されていたか（または、同じ法人であったか）、否かを尋ねた。両調査とも「併設されていた」という回答が半数近くあった。



(n=164、単位%)

図 50. 【2018 年度調査】里親支援機関併設の有無 (問 19)

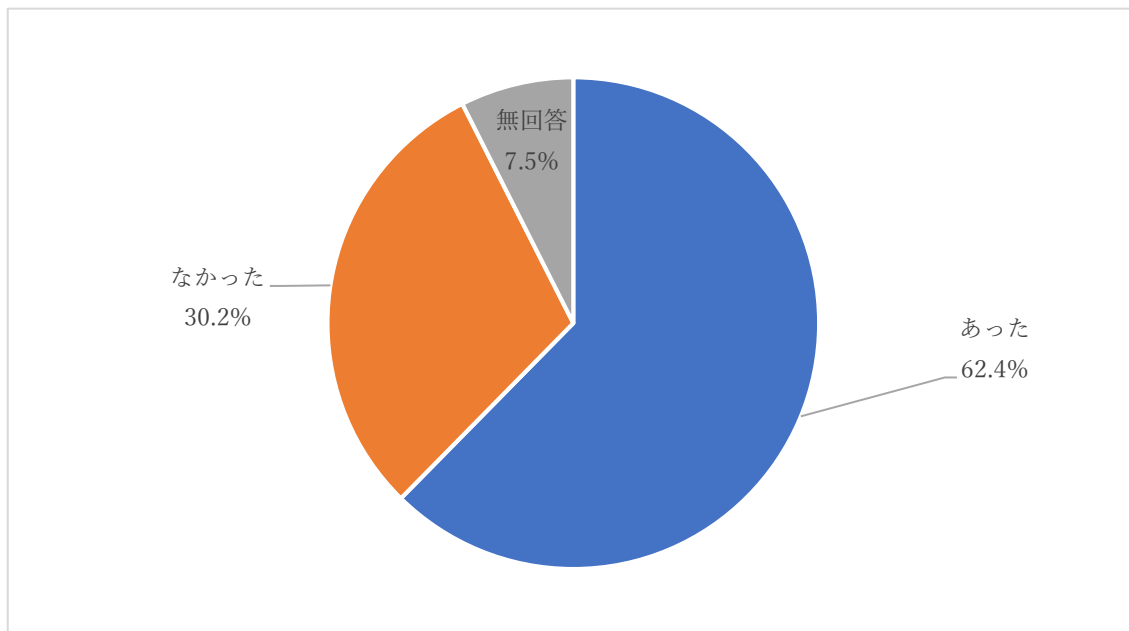


(n=171、単位%)

図 51. 【2021 年度調査】里親支援機関併設の有無 (問 19)

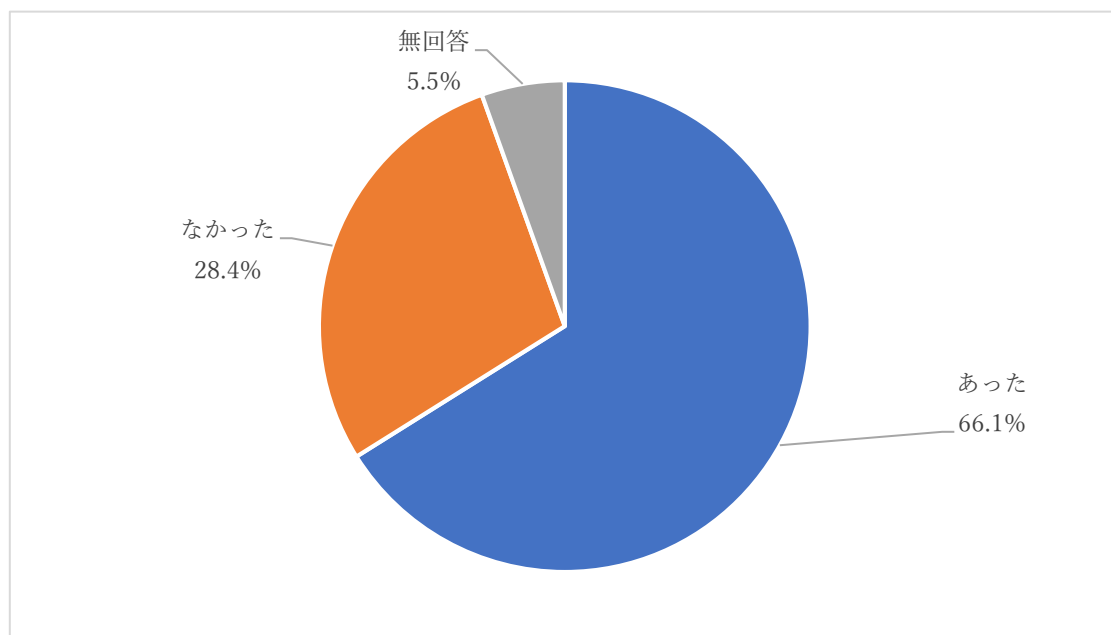
〈委託後の法定外任意研修の有無〉

一番最近に子どもを委託されてから、法定外の任意の研修の案内の有無を尋ねた。2018年度調査では、「あった」が62.4%、2021年度調査では66.1%だった。



(n=295、単位%)

図 52. 【2018 年度調査】委託後の法定外任意研修の有無 (問 20)

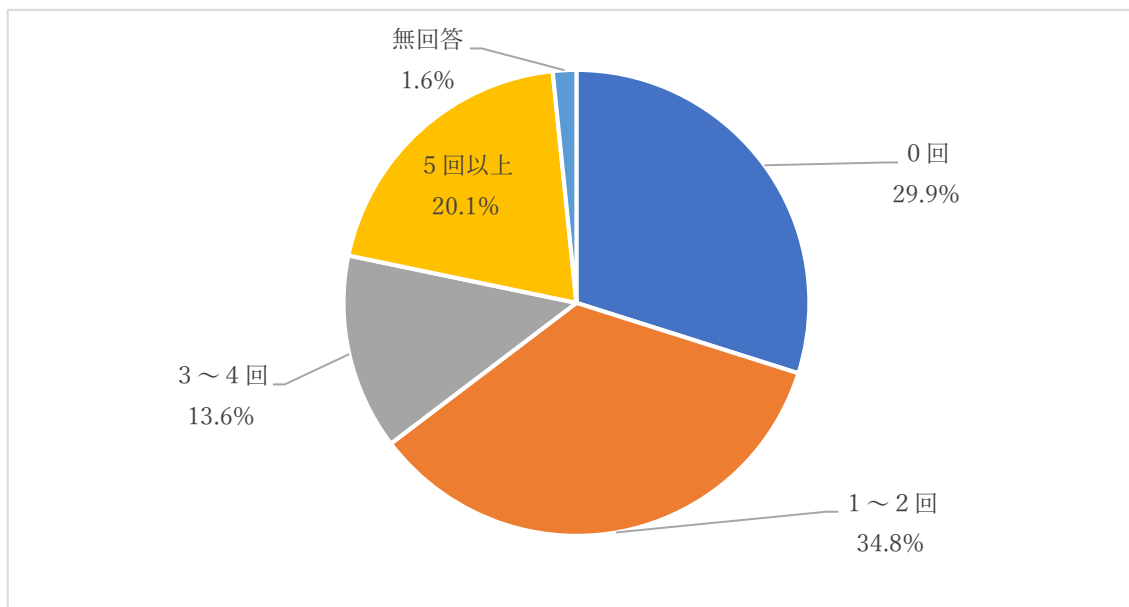


(n=292、単位%)

図 53. 【2021 年度調査】委託後の法定外任意研修の有無 (問 20)

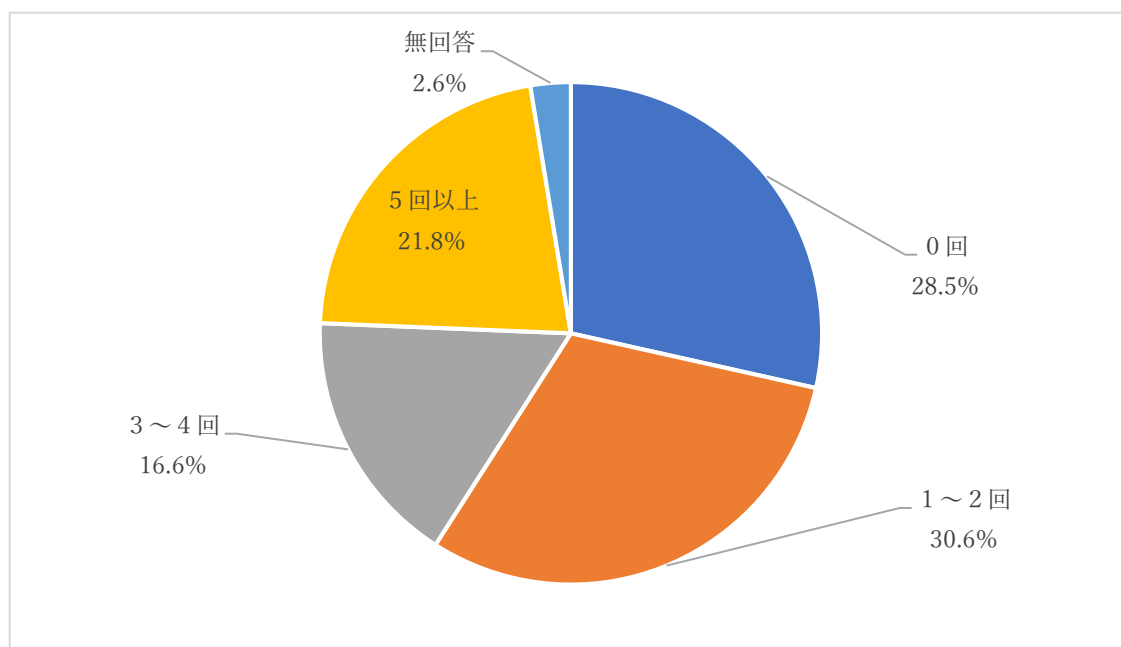
〈委託後の法定外任意研修の受講回数〉

法定外の任意の研修案内が「あった」とした回答者に、研修を何回受講したかを尋ねた。両調査とも、「0回」が3割近くあったが、5回以上受講した回答者も2割いた。



(n=184、単位%)

図 54. 【2018 年度調査】委託後の法定外任意研修の受講回数 (問 21)



(n=193、単位%)

図 55. 【2021 年度調査】委託後の法定外任意研修の受講回数 (問 21)

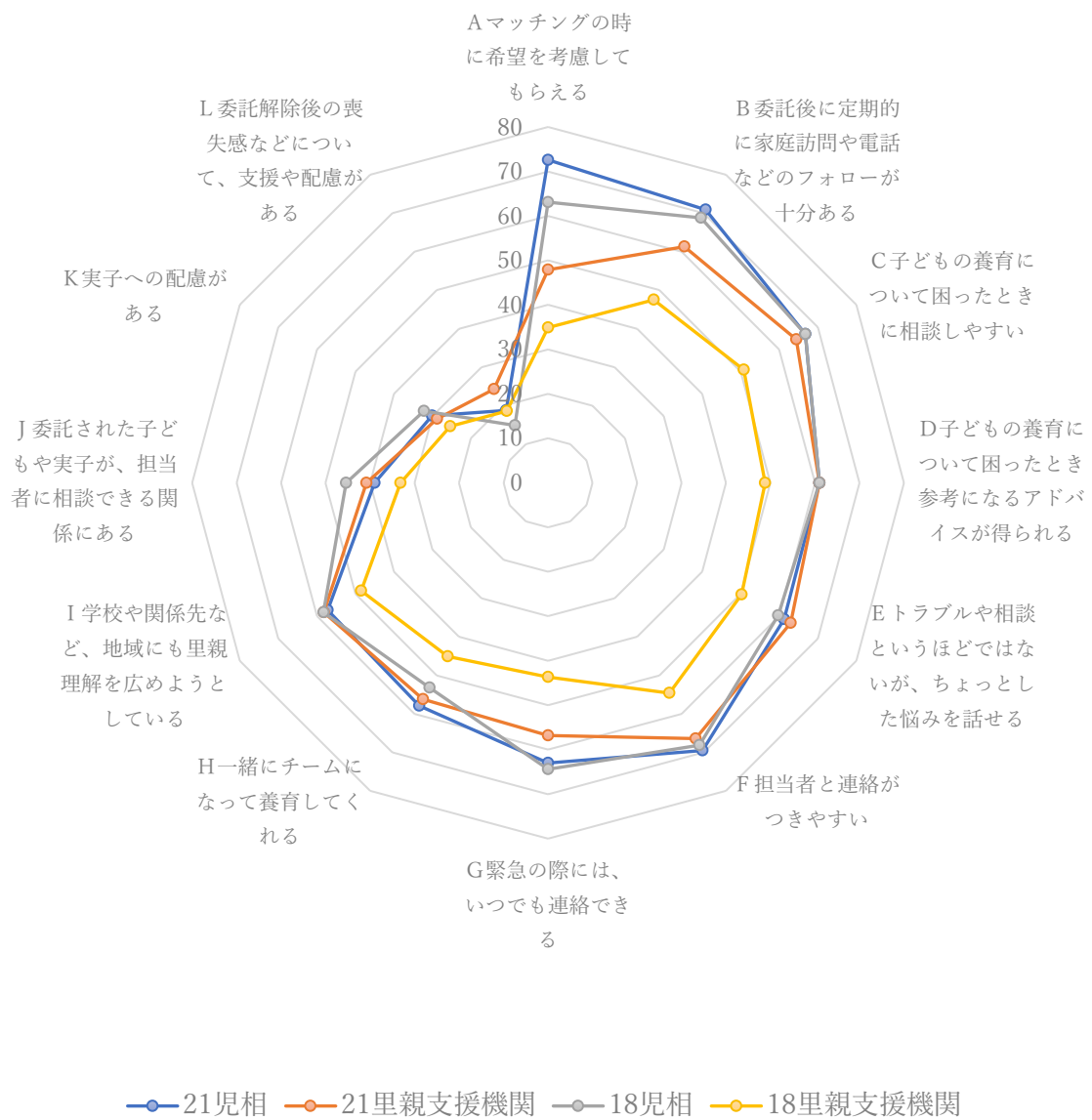
〈児童相談所・里親支援機関について思うこと②〉

委託経験のある回答者（2018年度調査 295人、2021年度調査 292人）を対象に以下の項目について、児童相談所（問22）と里親支援機関（問23）についてどのように思っているかを「とてもそう思う」「そう思う」「そう思わない」「まったくそう思わない」「支援を受けたことがない、そのような状況を経験していない」の5件法で尋ねた。下記のグラフは、そのうち「とてもそう思う」「そう思う」を合計し、レーダーグラフで表したものである。児童相談所（2018年度調査は灰色、2021年度調査は青色）はあまり変化がなかった。一方、里親支援機関は、2021年度調査（橙色）では2018年度調査（黄色）と比較して、ほぼすべての項目で10%ポイント以上増加しており、2021年度調査は児童相談所に近い形となっている。

「K.実子への配慮がある」「L.委託解除後の喪失感などについて支援や配慮がある」の項目については、いずれの機関も低い項目であるが、「支援を受けたことがない、そのような状況を経験していない」とする回答者が約半数だった。

[質問項目]

- A. マッチングの時に希望を考慮してもらえる
- B. 委託後に定期的に家庭訪問や電話などのフォローが十分ある
- C. 子どもの養育について困ったときに相談しやすい
- D. 子どもの養育について困ったときに、参考になるアドバイスが得られる
- E. トラブルや相談というほどではないが、ちょっとした悩みを話せる
- F. 担当者と連絡が付きやすい
- G. 緊急の際には、いつでも連絡できる
- H. 一緒にチームになって養育してくれる
- I. 学校や関係先など、地域にも里や理解を広めようとしている
- J. 委託された子どもや実子が、担当者に相談できる関係にある
- K. 実子への配慮がある
- L. 委託解除後の喪失感などについて支援や配慮がある



(2018 年度調査 : n=295、単位%)

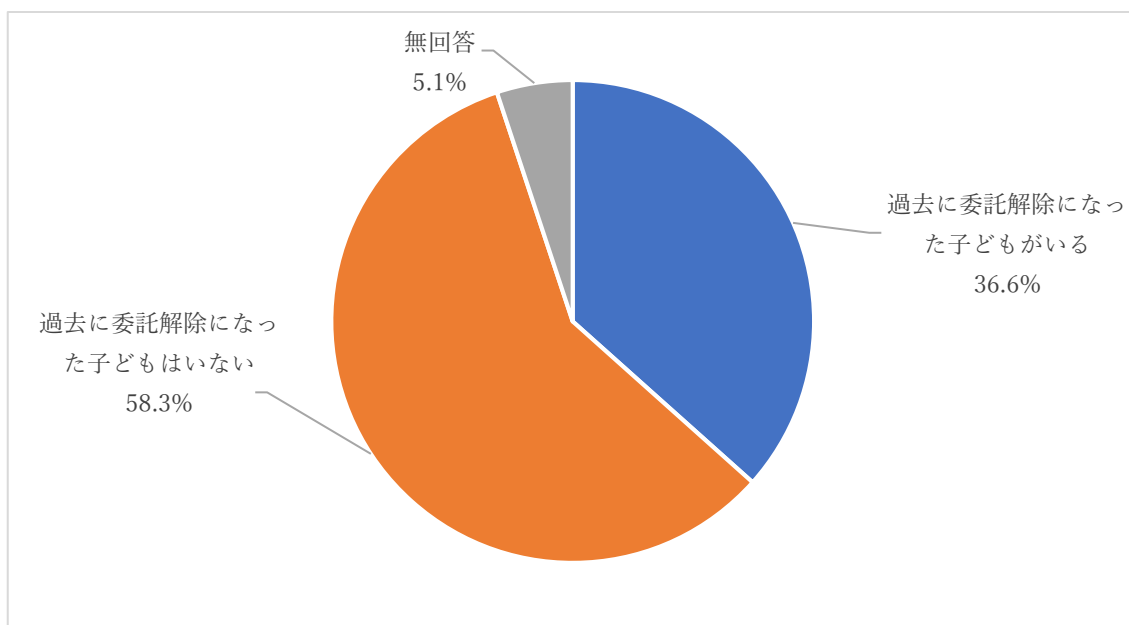
(2021 年度調査 : n=292、単位%)

図 56. 【2018 年度調査】【2021 年度調査】

児童相談所 (問 22)・里親支援機関 (問 23) について思うこと②

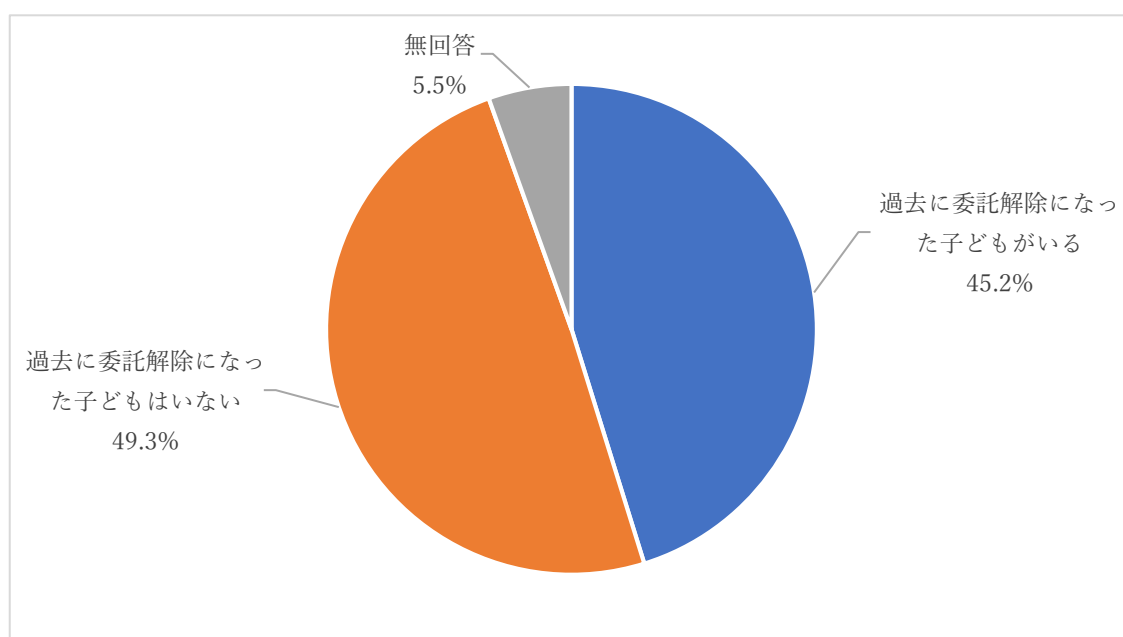
〈委託解除になった子どもの有無〉

委託経験のある回答者のうち、過去に委託解除になった子どもの有無を尋ねた。2018年度調査（295人）では、「過去に委託解除になった子どもがいる」という回答が36.6%であり、2021年度調査（292人）では、45.2%だった。



(n=295、単位%)

図 57. 【2018 年度調査】委託解除になった子どもの有無（問 24）

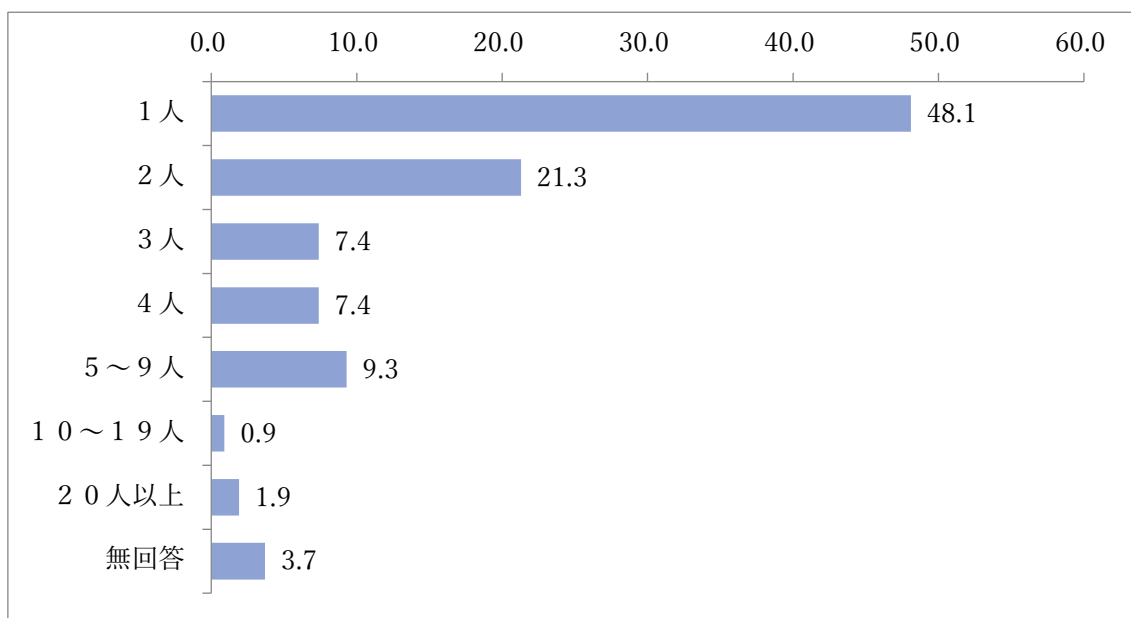


(n=292、単位%)

図 58. 【2021 年度調査】委託解除になった子どもの有無（問 24）

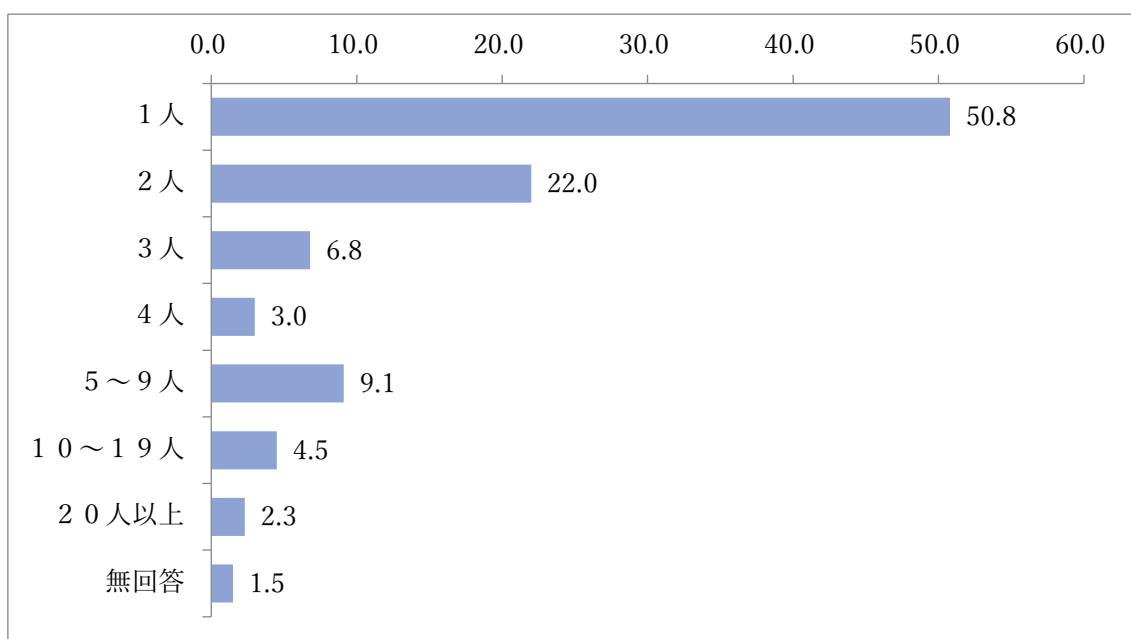
〈委託解除になった子どもの人数〉

「過去に委託解除になった子どもがいる」とした回答者に、委託解除になった子どもの人数を尋ねた。2018年度・2021年度調査とも「1人」は約50%、「2人」は約20%、「3人」は約7%だった。



(n=108、単位%)

図 59. 【2018年度調査】委託解除になった子どもの人数 (問 25)

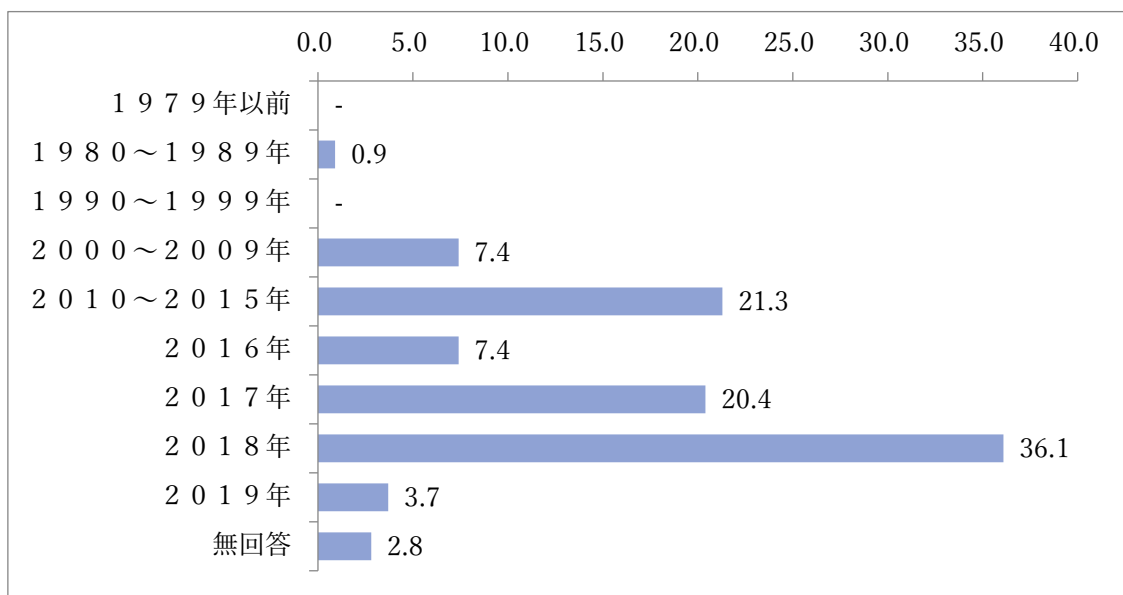


(n=132、単位%)

図 60. 【2021年度調査】委託解除になった子どもの人数 (問 25)

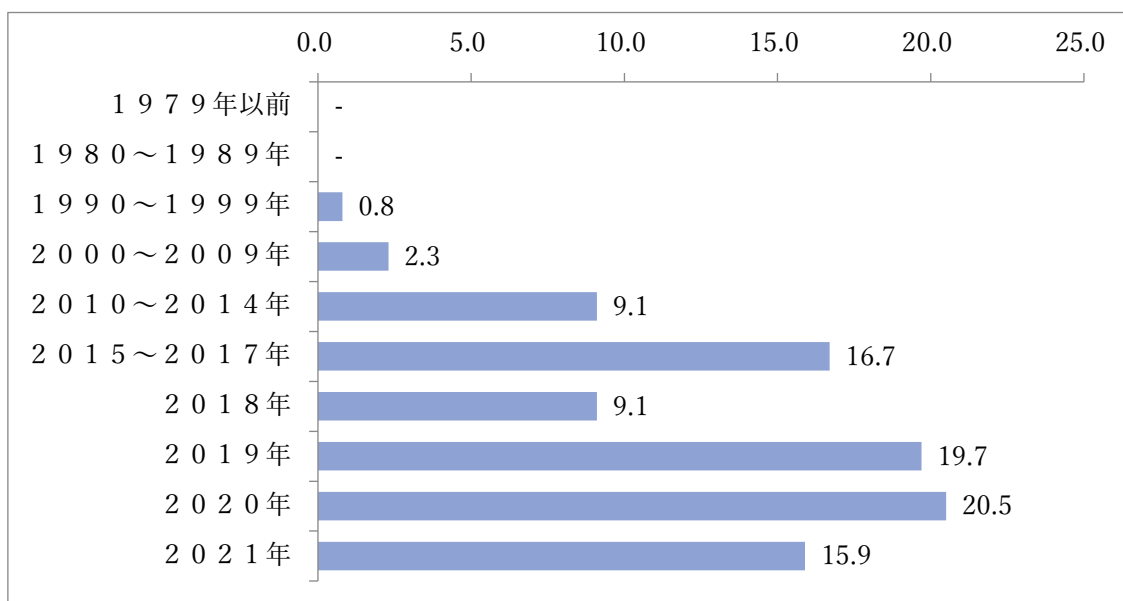
〈委託解除になった時期〉

「過去に委託解除になった子どもがいる」とした回答者に、一番最近に委託解除された子どもの委託解除になった時期を尋ねた。2018年度調査では、「2018年」が最も多く36.1%であり、2021年度調査では「2020年」が最も多く20.5%だった。2021年度調査では、「1989年以前」は0だった。



(n=108、単位%)

図 61. 【2018年度調査】委託解除になった時期 (問 26-1)

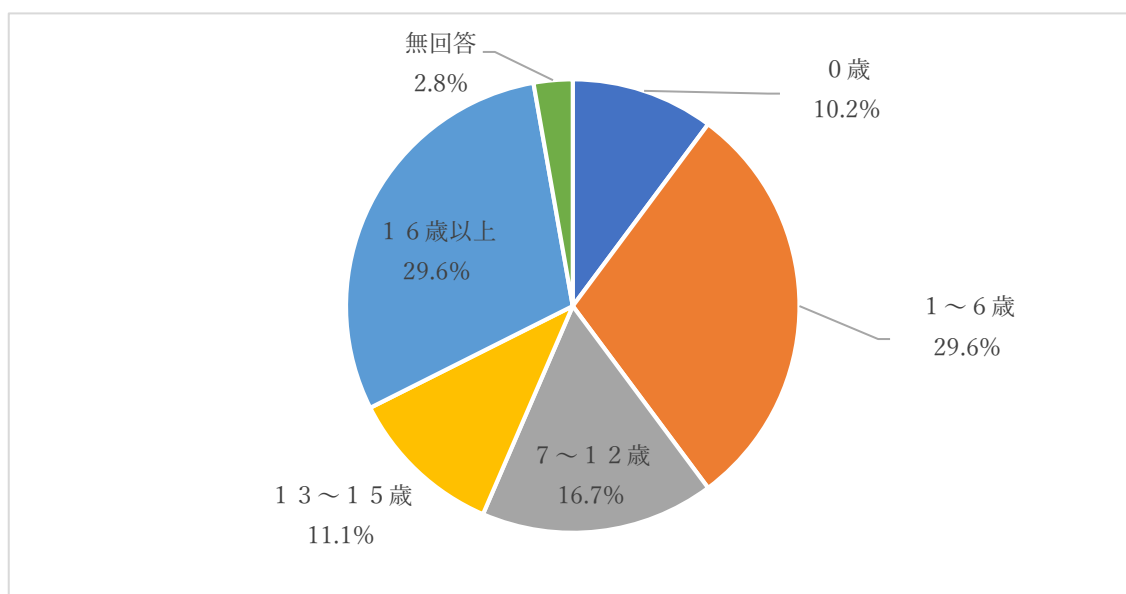


(n=132、単位%)

図 62. 【2021年度調査】委託解除になった時期 (問 26-1)

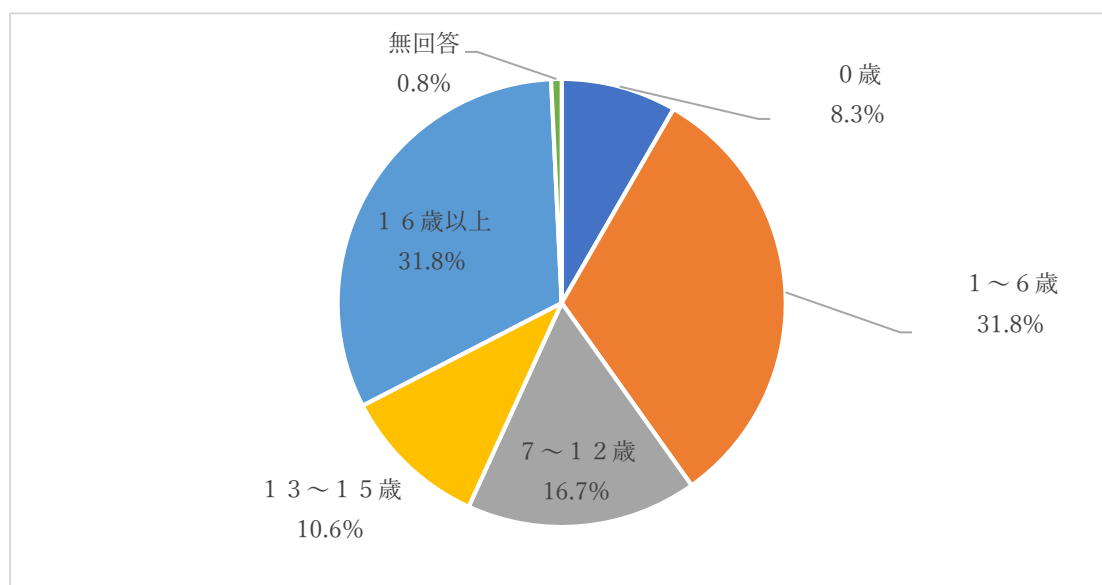
〈委託解除になった年齢〉

「過去に委託解除になった子どもがいる」とした回答者に、一番最近に委託解除された子どもの委託解除になった年齢を尋ねた。2018年度調査・2021年度調査ともに「1～6歳」と「16歳以上」が最も多く3割程度だった。



(n=108、単位%)

図 63. 【2018年度調査】委託解除になった年齢 (問 26-2)

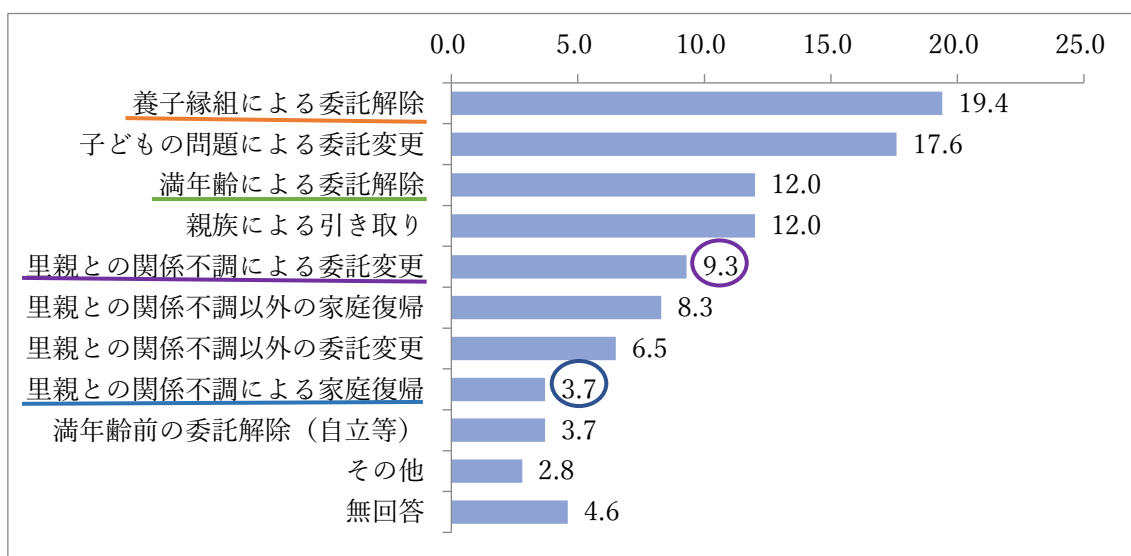


(n=132、単位%)

図 64. 【2021年度調査】委託解除になった年齢 (問 26-2)

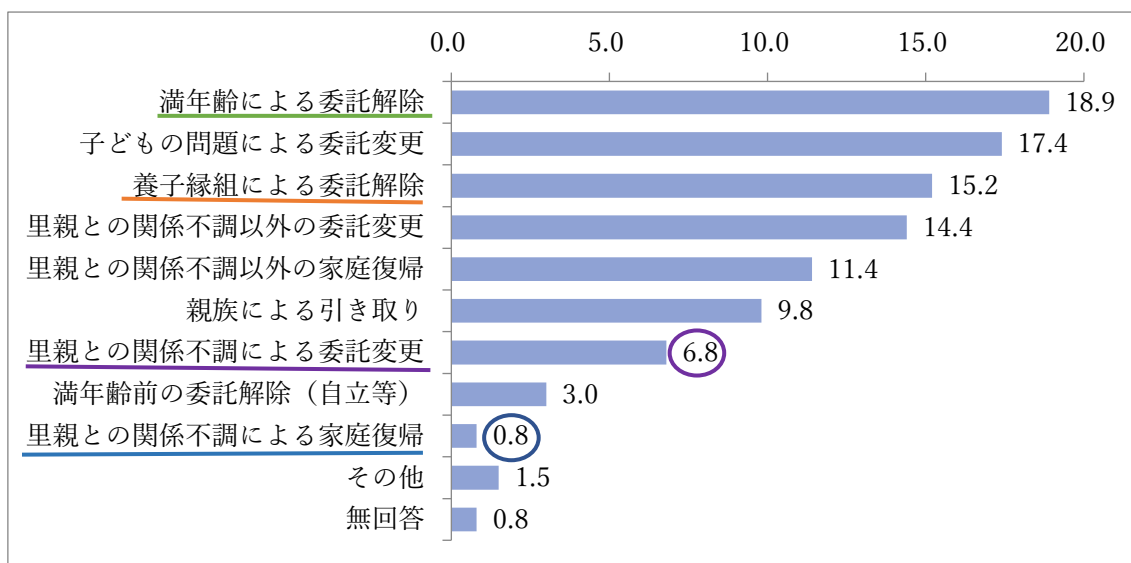
〈委託解除理由〉

「過去に委託解除になった子どもがいる」とした回答者に、一番最近に委託解除された子どもの委託解除になった理由を尋ねた。2018年度調査では、「養子縁組による委託解除」が最も多く19.4%、2021年度調査では、「満年齢による委託解除」が最も多く18.9%だった。「里親との関係不調による委託変更」は、2018年度調査では9.3%だったが、2021年度調査では6.8%に、「里親との関係不調による家庭復帰」は、2018年度調査では3.7%だったが、2021年度調査では0.8%に減少した。



(n=108、単位%)

図 65. 【2018 年度調査】委託解除理由 (問 27)



(n = 132、単位%)

図 66. 【2021 年度調査】委託解除理由 (問 27)

〈委託変更・解除時の意見を述べる機会の有無〉

「過去に委託解除になった子どもがいる」とした回答者に、一番最近に委託解除された子どもの委託変更または委託解除時において、児童相談所や里親支援機関などに、子どもの措置について意見を述べる機会があったか否かを尋ねた。2018年度調査（108人）では、「あった」という回答が69.4%であり、2021年度調査（132人）では、71.2%だった。

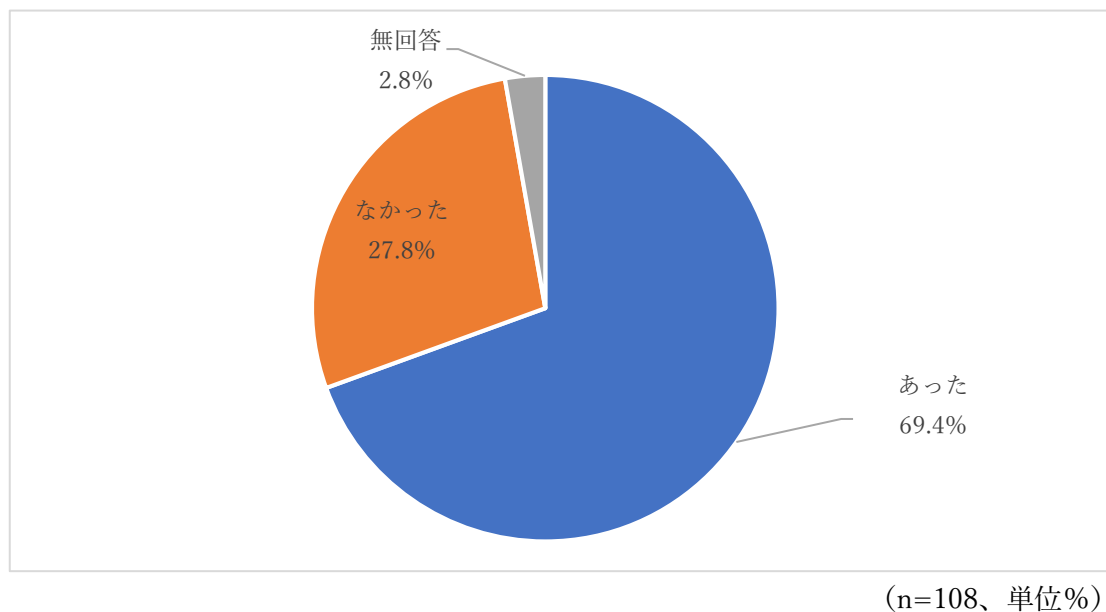


図 67. 【2018 年度調査】 委託変更・解除時の意見を述べる機会の有無（問 28）

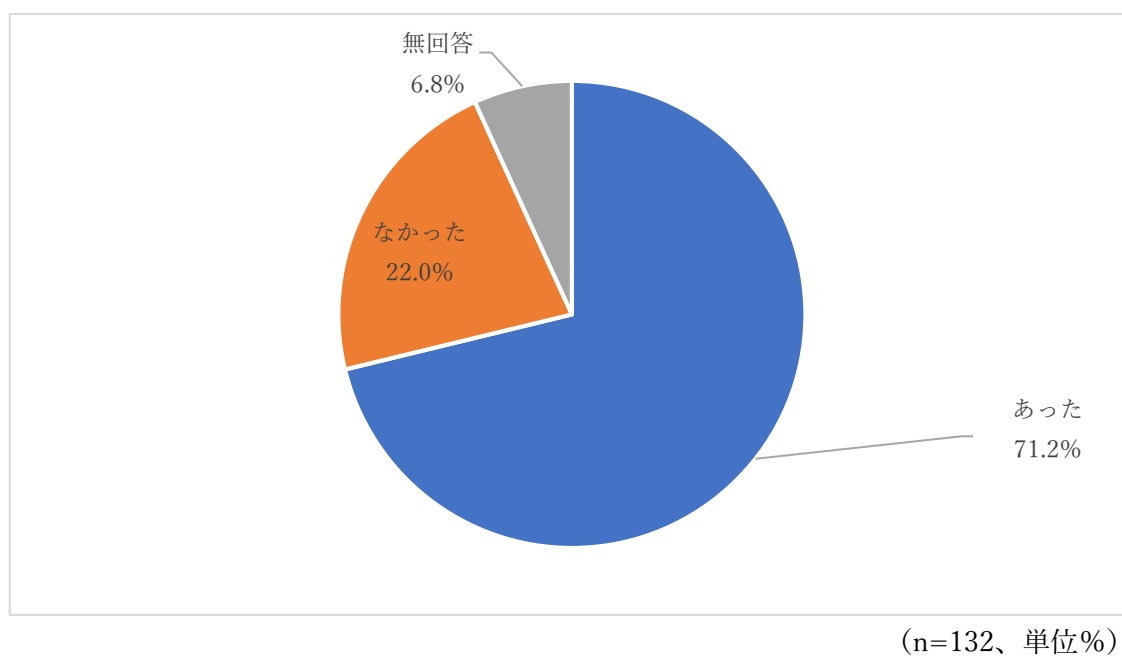
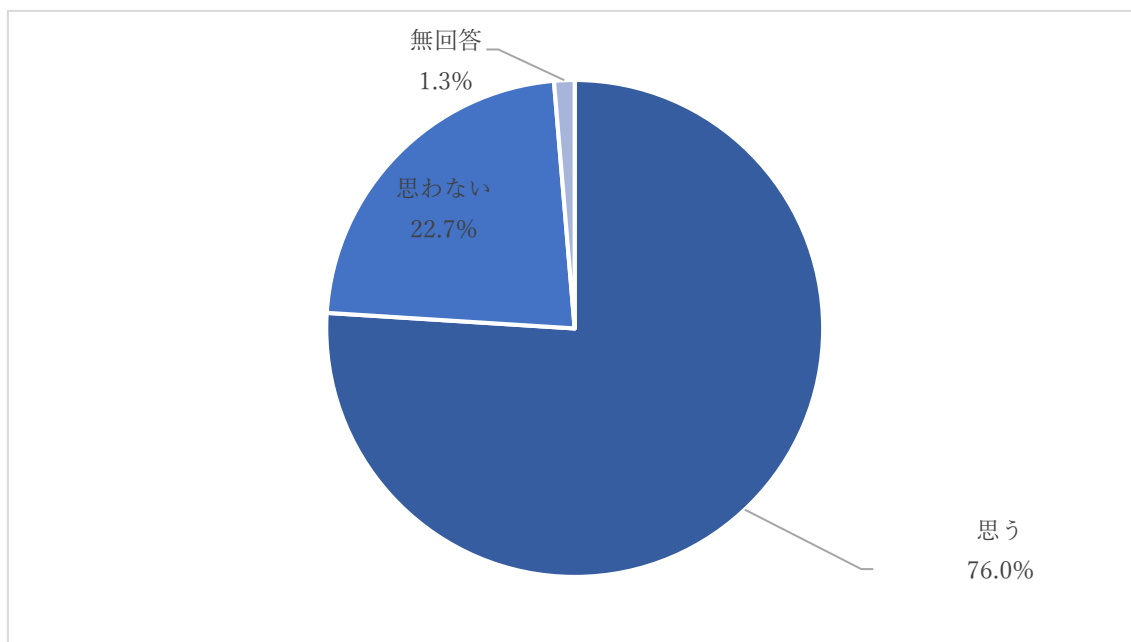


図 68. 【2021 年度調査】 委託変更・解除時の意見を述べる機会の有無（問 28）

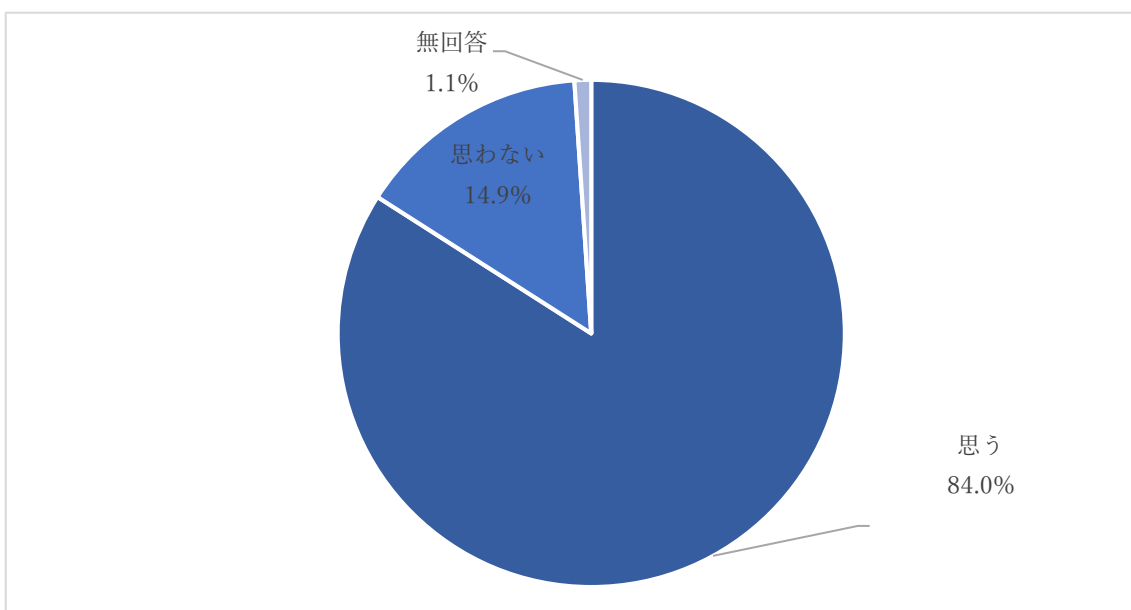
〈意見が尊重されたか〉

委託変更または委託解除に意見を述べる機会があったとした回答者に、その意見が尊重されたうえで意思決定がなされたと思うか否かを尋ねた。2018年度調査では、「思う」という回答は76.0%であったが、2021年度調査では、84.0%で8%ポイント増加した。



(n=75、単位%)

図 69. 【2018年度調査】意見が尊重されたか (問 29)

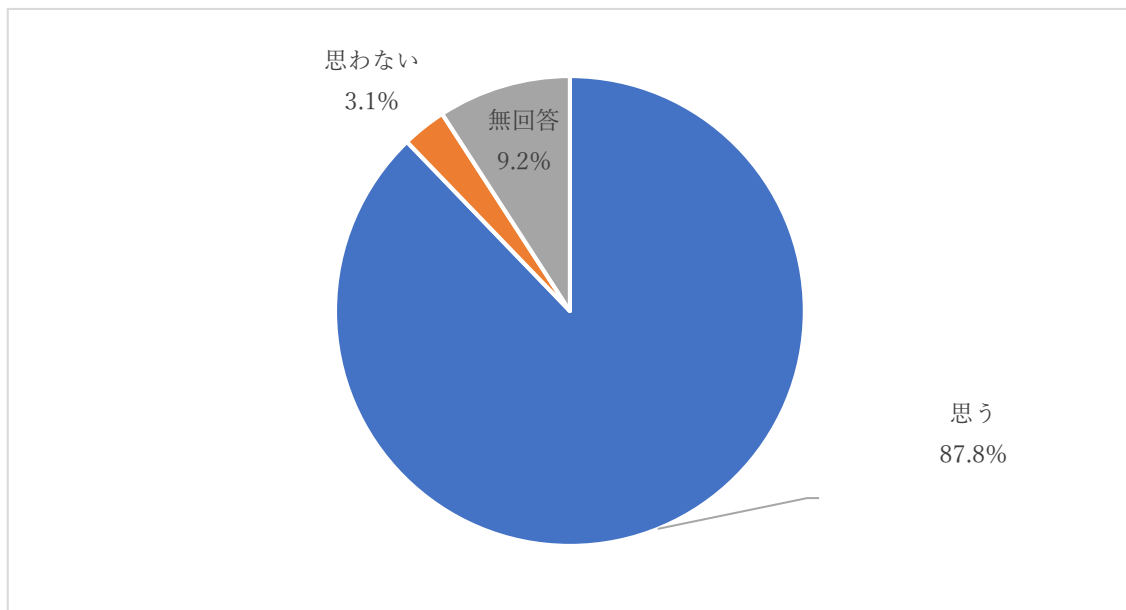


(n=94、単位%)

図 70. 【2021年度調査】意見が尊重されたか (問 29)

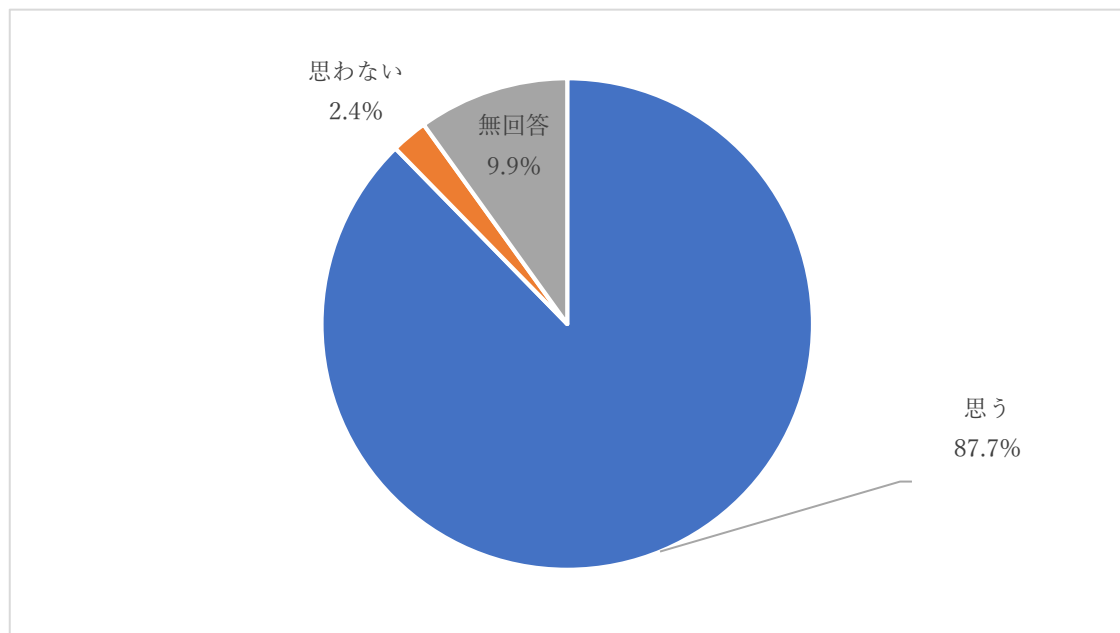
〈里親をやっていてよかったと思うか〉

過去に委託解除になった経験のある回答者全員に、これまでの里親経験を振り返って、里親をやっていてよかったと思うか否かを尋ねた。2018年度調査では、「思う」が87.8%で、2021年度調査では87.7%であり、ほぼ同率だった。



(n=295、単位%)

図 71. 【2018年度調査】里親をやっていてよかったと思うか (問 30)

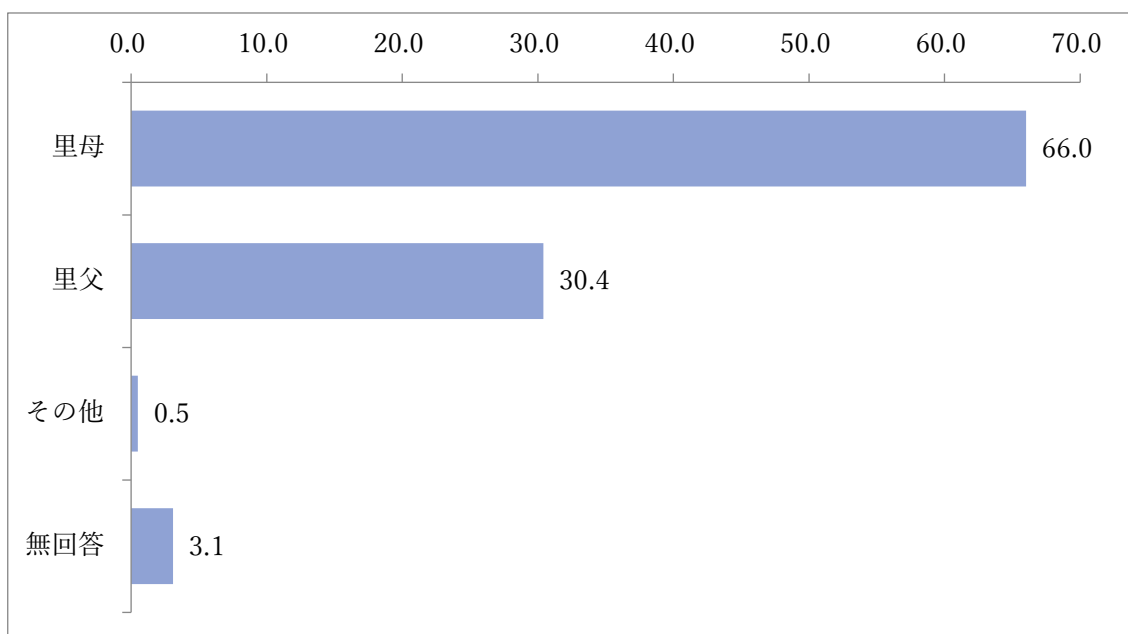


(n=292、単位%)

図 72. 【2021年度調査】里親をやっていてよかったと思うか (問 30)

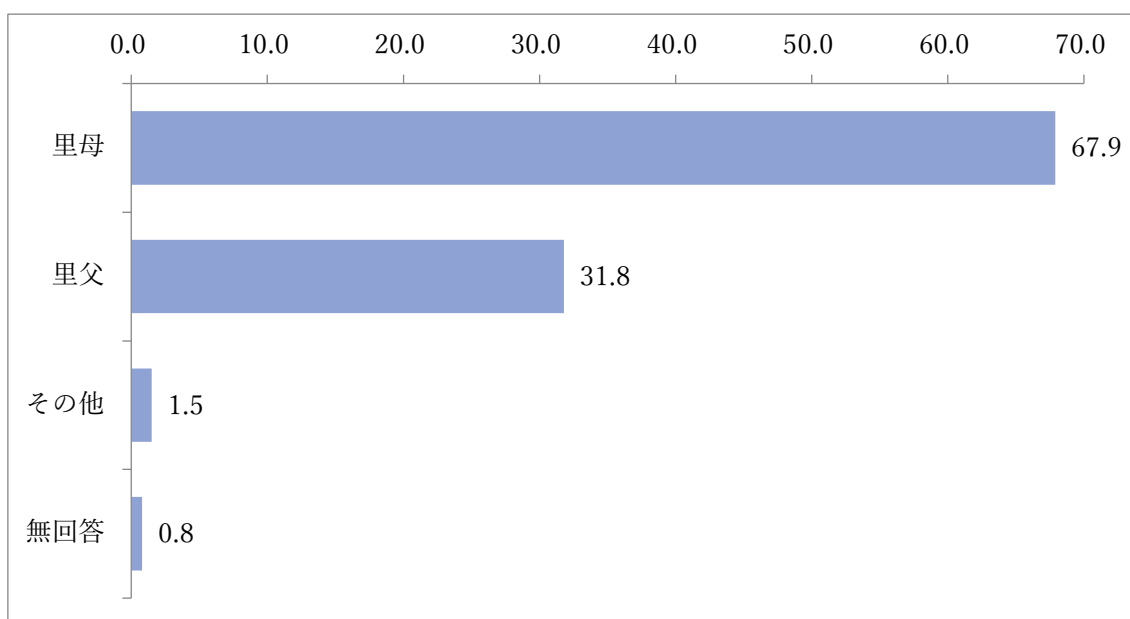
〈質問紙調査の回答者〉

回答者全員にアンケートの記入者を尋ねた。2018年度・2021年度調査とも「里母」の割合が多く約7割、「里父」が約3割だった。



(n=415、単位%)

図 73. 【2018年度調査】アンケートの回答者 (問 31)

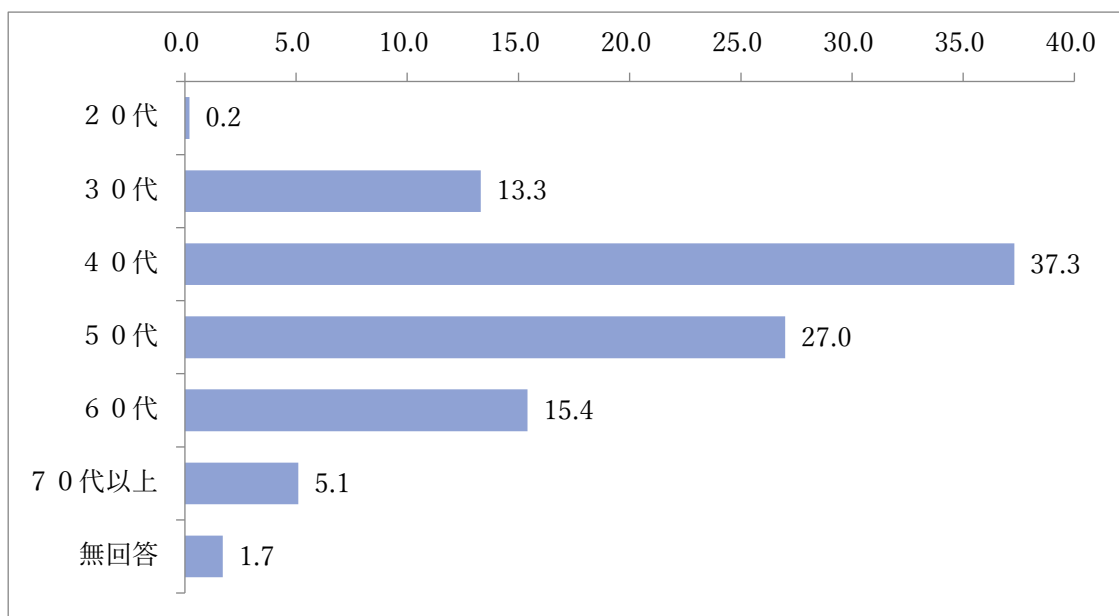


(n=396、単位%)

図 74. 【2021年度調査】アンケートの回答者 (問 31)

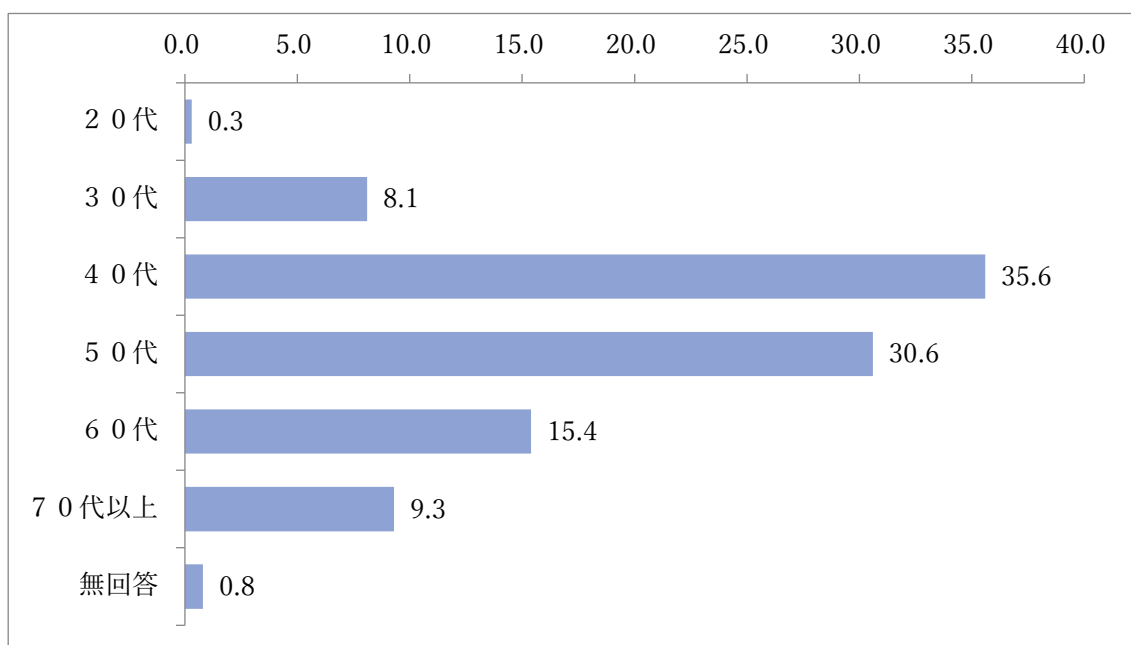
〈回答者の年齢〉

2018 年度調査・2021 年度調査ともアンケートの回答者の年齢は「40 代」が多く、次いで「50 代」だった。



(n=415、単位%)

図 75. 【2018 年度調査】回答者の年齢 (問 32)

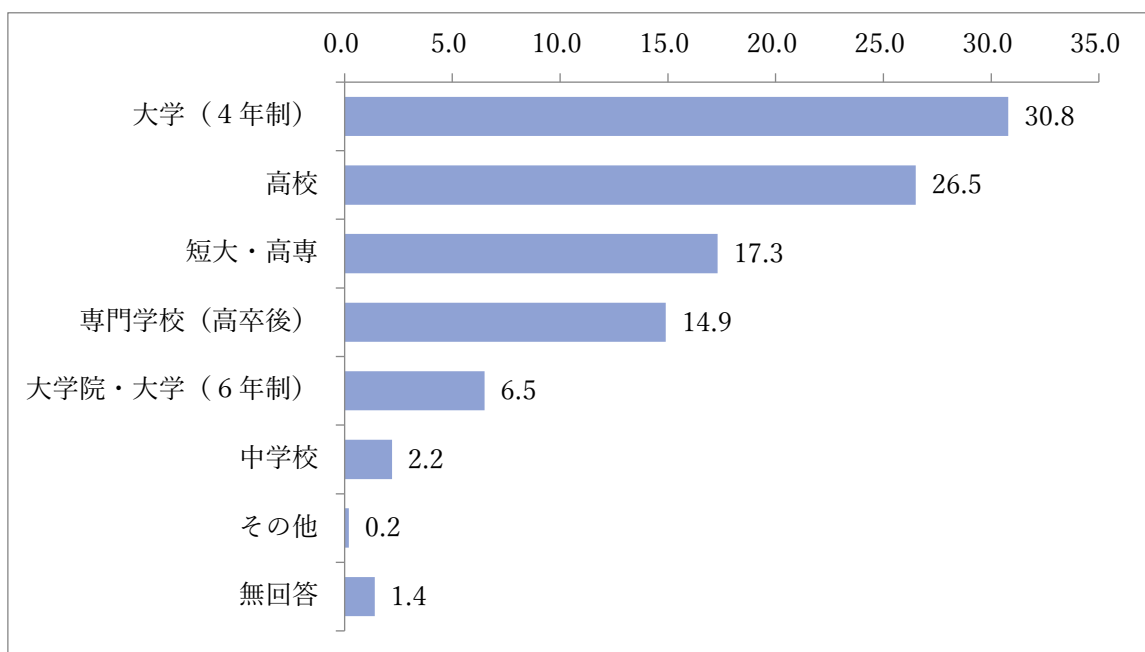


(n=396、単位%)

図 76. 【2021 年度調査】回答者の年齢 (問 32)

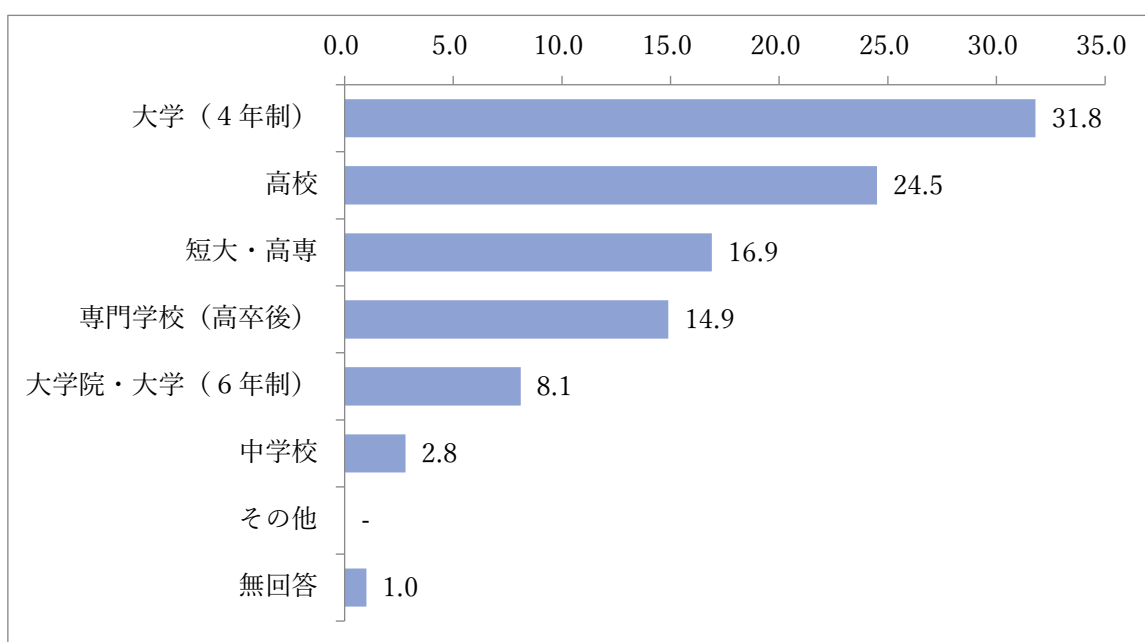
〈回答者の学歴〉

回答者が最後に行った（または在学中の）学校について尋ねた。2018年度調査・2021年度調査とも「大学（4年制）」が約3割、次いで「高校」が約2.5割だった。



(n=415、単位%)

図 77. 【2018年度調査】回答者の学歴（問 33）

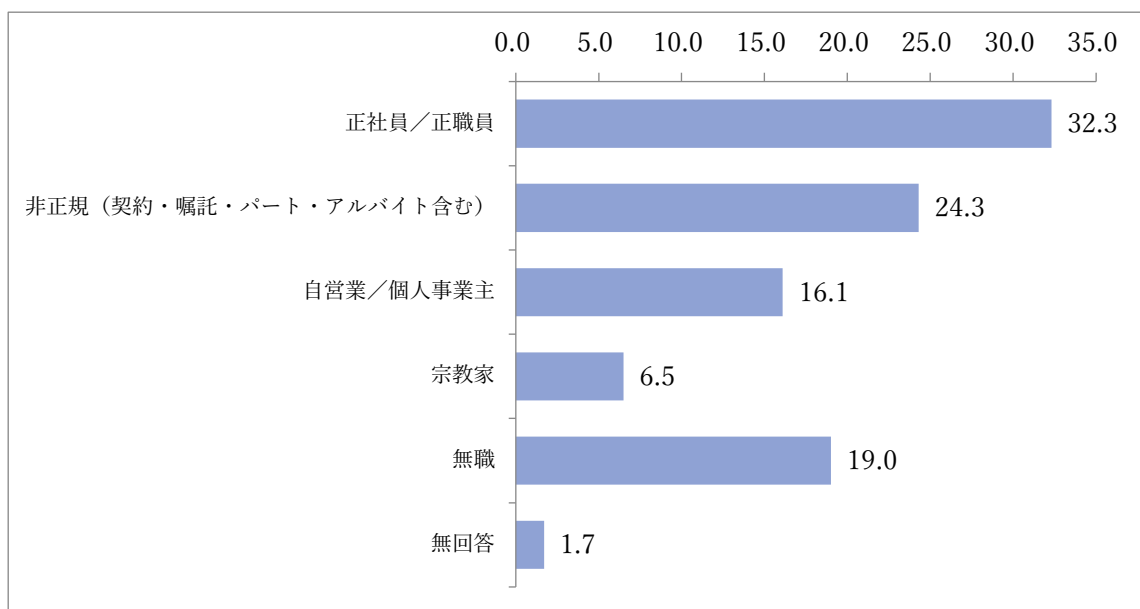


(n=396、単位%)

図 78. 【2021年度調査】回答者の学歴（問 33）

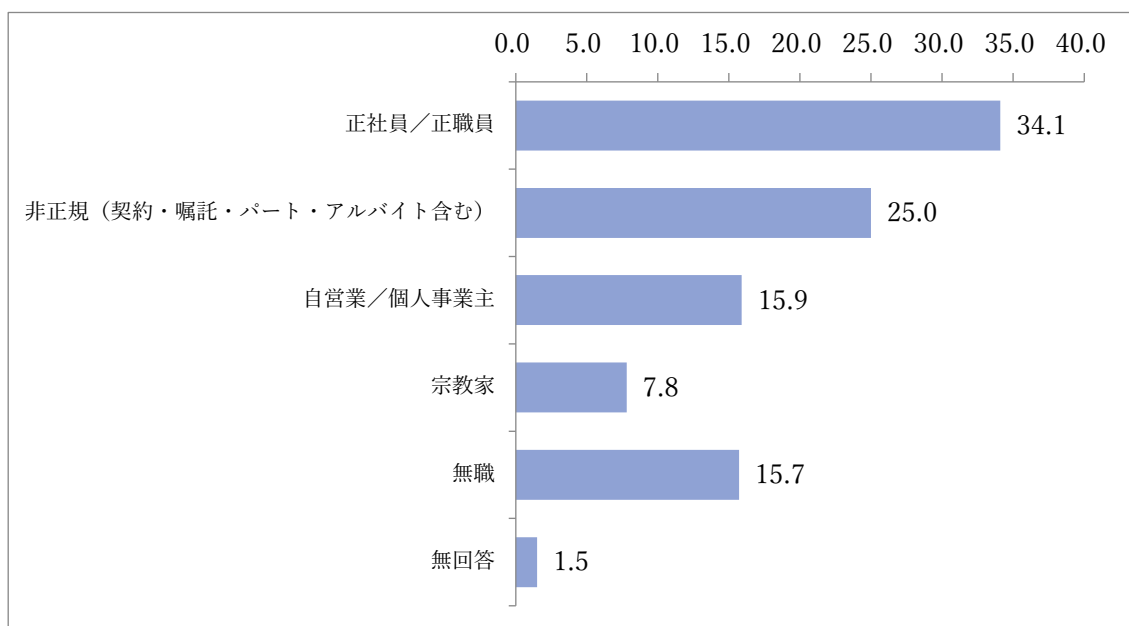
〈回答者の就労状況〉

回答者の就労状況について尋ねた。2018 年度調査・2021 年度調査とも、「正社員／正職員」が最も多く約 3 割、次いで「非正規（契約・嘱託・パート・アルバイト含む）」が約 2.5 割だった。



(n=415、単位%)

図 79. 【2018 年度調査】回答者の就労状況（問 34）

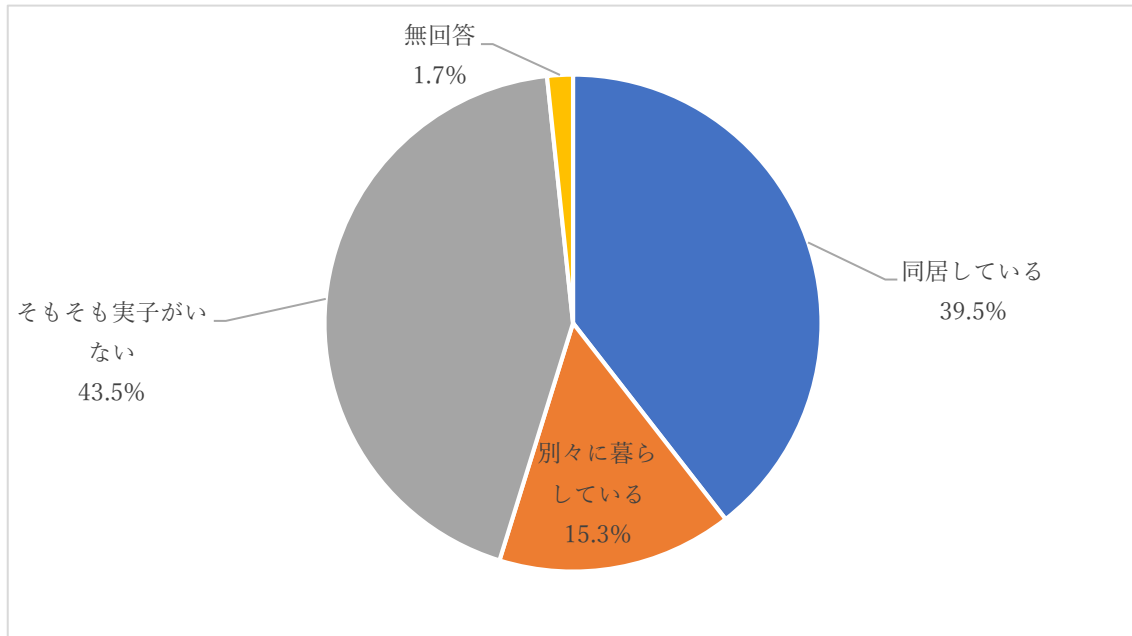


(n=396、単位%)

図 80. 【2021 年度調査】回答者の就労状況（問 34）

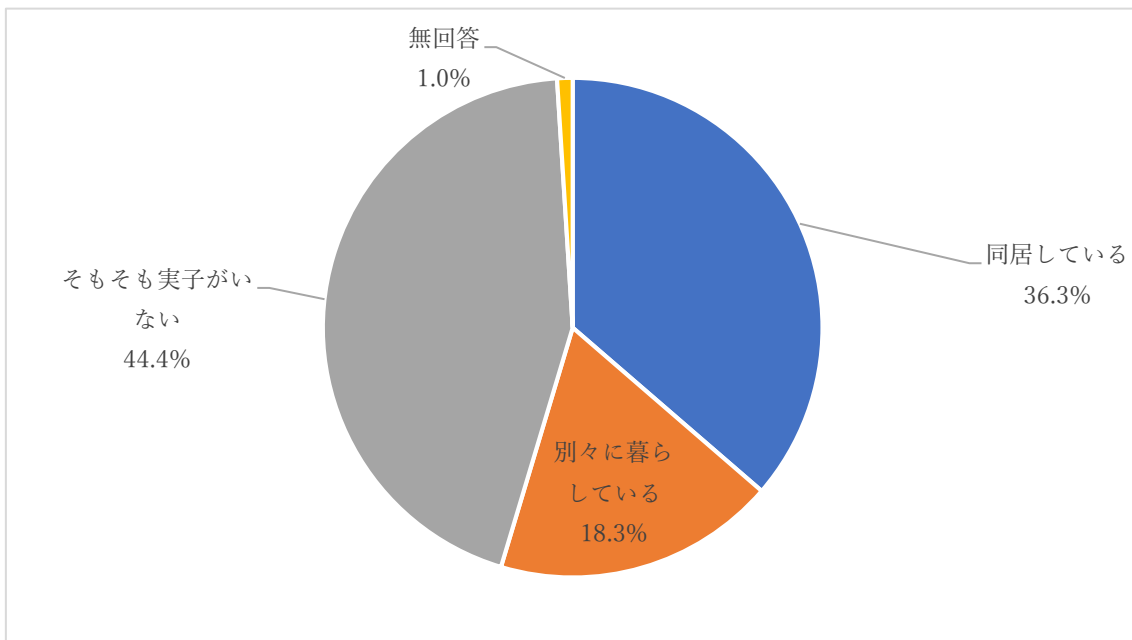
〈回答者と実子の同居について〉

回答者と実子の同居について尋ねた。2018 年度調査では「同居している」が 39.5%、2021 年度調査では 36.3% だった。



(n=415、単位%)

図 81. 【2018 年度調査】回答者と実子の同居について (問 35-1)

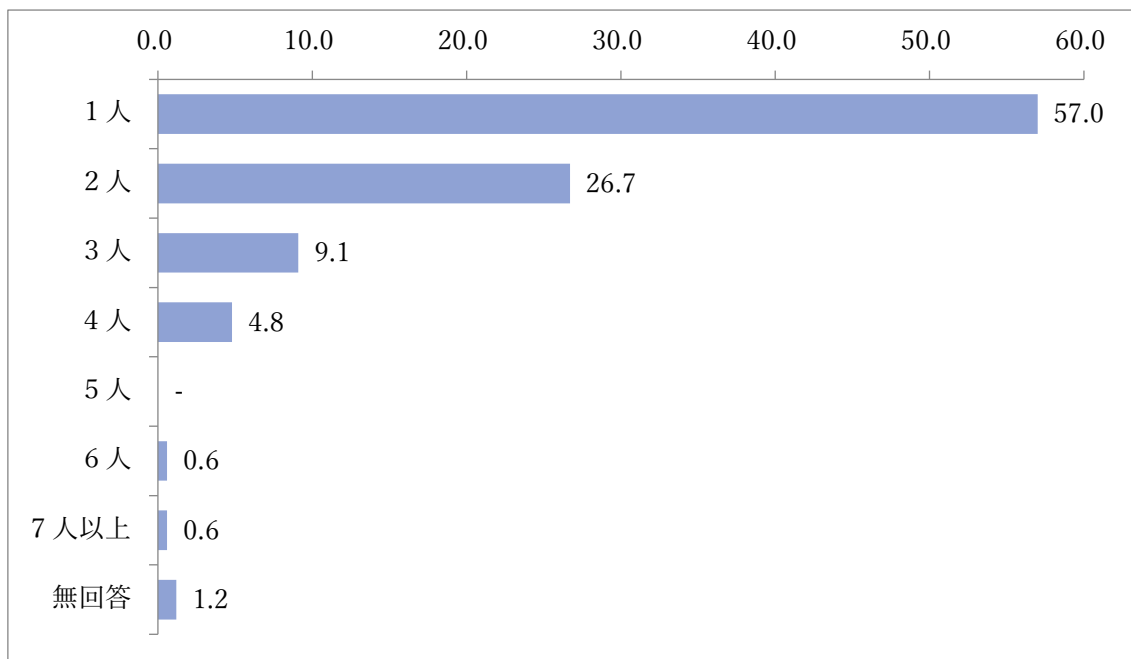


(n=396、単位%)

図 82. 【2021 年度調査】回答者と実子の同居について (問 35-1)

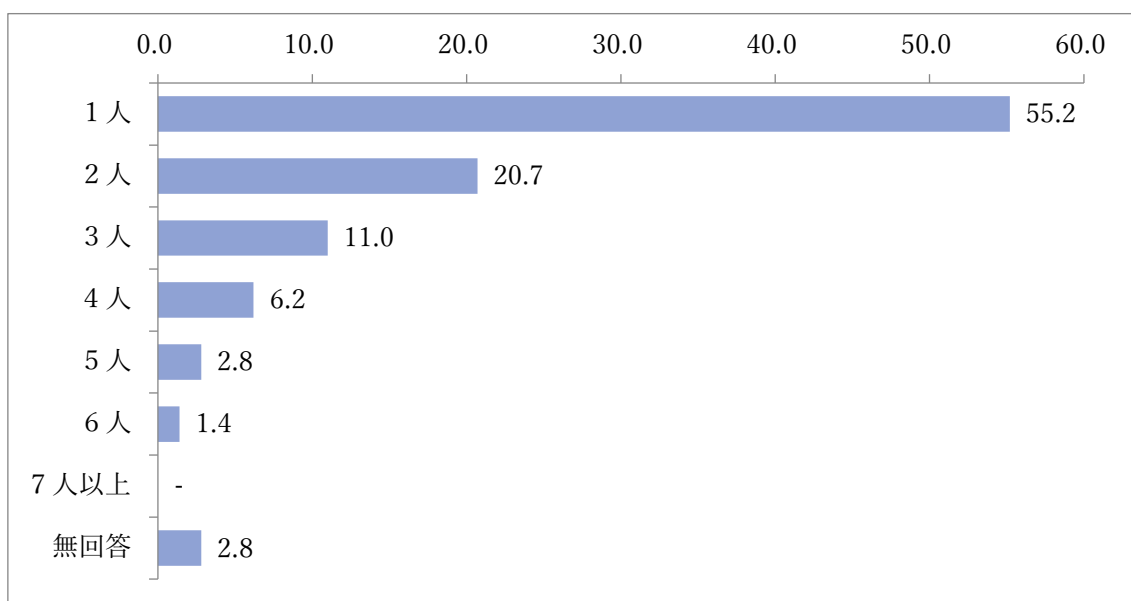
〈回答者と実子の同居について～同居実子の人数～〉

実子が「同居している」とした回答者に、同居している実子の人数を尋ねた。2018年度調査では、「1人」が57.0%、「2人」が26.7%だった。2021年度調査では、「1人」が55.2%、「2人」が20.7%だった。



(n=165、単位%)

図 83. 【2018年度調査】回答者と実子の同居について～同居実子の人数～ (問 35-2)



(n=145、単位%)

図 84. 【2021年度調査】回答者と実子の同居について～同居実子の人数～ (問 35-2)

3.5. 里親支援機関の成果としてわかること

ここでは、里親への質問紙調査結果から里親支援機関の成果としてわかることをまとめたい。

各地域の調査結果からは、2018年度調査と2021年度調査を比較すると、おおむね大きな成果を得られていることがわかる結果となった。すなわち、多くの項目で、少し、もしくは大幅な進歩がみられ、後退はごくわずかだった。ただし、各地域での結果は、母数が少なくなり個人が特定されるおそれがあるため、ここでは触れることはせず、全体的な結果としてわかる傾向を把握するに留めたい。

なお、本調査で、里親をやっていてよかったと「思う」と回答した人は、2018年度調査では87.8%、2021年度調査では、87.7%だった（図71、図72）。「無回答」が1割近くいることにも留意する必要があるが、当該地域では、民間団体が支援に入る前も入った後も里親という経験について肯定的な意見が多くあった。

3.5.1. 回答者の属性

2018年度調査では、配布された調査票は663票であり、最終的な回収数は414票、回収率は62.4%だった。2021年度調査では、配布された調査票は601票であり、最終的な回収数は、396票、回収率は65.9%だった。2018年度調査では助成対象だった地域（団体）が助成対象ではなくなったため、それに伴い配布数も減少している。しかし、回収率は増加しており、助成対象地域の里親の関心が多少なりともあがっている可能性が考えられる。

調査票の回収数は、2018年度調査と2021年度調査では18票程度の差だった。また、里親の種別ごとにみると、養育里親が7.5割前後、養子縁組里親が3割強、親族里親が6～7%、専門里親が6%前後だった（図1、図2）。里親の種別については、ほぼ同様の里親が回答していた。委託経験のある回答者は、2018年度調査では295人、2021年度調査では292人だった（図46、図47）。また、回答者は里母が多く両調査とも7割程度だった。回答者の年齢は、両調査とも「40代」が多く3割強、次いで「50代」が3割程度だった（図75、図76）。また学歴は、「大学（4年制）」が約3割、次いで「高校」が約2.5割であり（図77、図78）、就労状況は、両調査とも、「正社員／正職員」が最も多く約3割、次いで「非正規（契約・嘱託・パート・アルバイト含む）」が約2.5割だった（図79、図80）。実子との同居の状況は、両調査とも「同居している」が4割弱だった（図81、図82）。

つまり、2018年度調査と2021年度調査では、回答者数、回答者の属性とも非常に近似している。それぞれの調査の回答者自体は、同一人物であるとは限らず、必ずしも厳密な比較対象となるとはいえないが、回答者数、回答者の属性が近似していることから、一つの参考とすることはできる。本報告では、参考までにそれぞれの調査を比較することで、里親支援機関の成果を検討したい。

3.5.2. 里親リクルート

里親の情報入手方法（図 11、図 12）を尋ねた質問から最も多かったのは、2018 年度調査、2021 年度調査ともに、「児童相談所・役所」だった。次いで、2018 年度調査では、「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌など」だったが、2021 年度調査では、2 番目に「家族・友人・知人」と逆転していた。

いずれもインターネットによる検索よりも多い結果とはなったが、インターネットは「自治体のホームページ・広報・SNS・ブログなど」（2018 年度調査：21.2%、2021 年度調査：20.7%）、「自治体以外のホームページ・広報・SNS・ブログなど」（2018 年度調査：14.5%、2021 年度調査：14.6%）の 2 項目ある。2 項目の値を考慮すれば、決して小さくない値である。インターネットを通じた広報も重要な里親リクルートの手段であるといえるだろう。

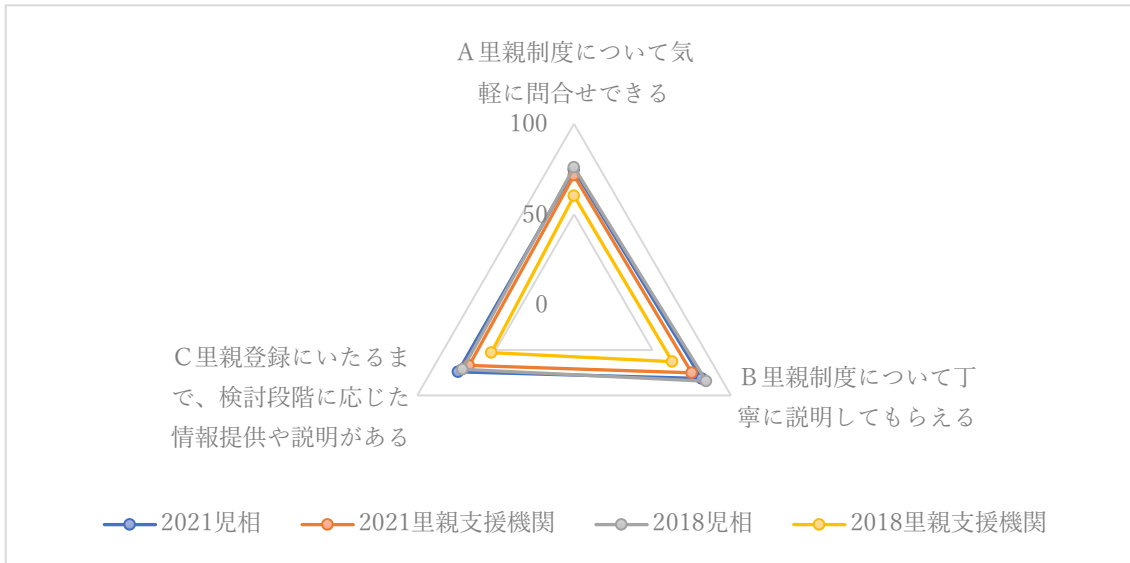
里親の志望理由（図 13、図 14）については、2018 年度調査では、「支援が必要な子どもの役に立ちたい」「実子がない」がともに最も多かった。2021 年度調査でも同じ項目が上位に並ぶものの、「支援が必要な子どもの役に立ちたい」は、2018 年度調査と比較して 5.5%ポイント増加し、「実子がない」という回答は 5.6%ポイント減少した。このことは、民間団体が地域での里親支援を受託したことで、里親のリクルート時点で、社会的養護を受ける子どもを養育する意味や社会的養護が子どものための制度であることを強調した丁寧な面接等が実施されている成果を意味すると考えられる。

3.5.3. 里親登録前の支援

各機関との接触時点は、2018 年度調査・2021 年度調査とも、児童相談所は同等程度、もしくは減少したが、里親支援機関は、いずれも増加し、多くの項目で 10%ポイント以上増加した（図 15～図 26）。里親支援機関は、助成を受け始めた 2018 年度当初と比較して、2021 年度には着実に地域の里親の認知度を上げ接点を持っていることが明らかになった。

里親登録前の面談・面接・家庭訪問（図 29、図 30）については、2018 年度調査では、1～2 回が最も多く 41.0%、次に、3～4 回が 33.5%だった。2021 年度調査では 3～4 回が最も多くなっており 35.6%、次いで 1～2 回が 32.6%だった。5～6 回も 4%ポイント増加した。2021 年度調査では、相対的にわずかではあるが、里親登録前の面談・面接・家庭訪問の頻度があがっていることが見て取れる。

また里親登録前の支援として尋ねた児童相談所・里親支援機関について思うこと①では、里親支援機関は、2018 年度調査と比較して 2021 年度調査ではいずれの項目も 20%ポイント近い伸びを見せており、児童相談所とほぼ同等の値を示した。里親登録前の支援において、民間団体が活躍する場を多くもらい、またその機会を十分に生かしていることがわかる結果となった。



(2018 年度調査：n=415、単位%)

(2021 年度調査：n=415、単位%)

【再掲】 図 45. 【2018 年度調査】 【2021 年度調査】

児童相談所（問 15）・里親支援機関（問 16）について思うこと①

3.5.4. 未委託期間の支援

一番最近の未委託期間については、大きな変化はなかったが、「未委託期間はなかった」が 4%ポイント増加した（図 33、図 34）。

また、未委託期間中の法定外の任意研修の有無については、「あった」とする回答が 9%ポイント増加し、法定外の任意研修が増加していることが考えられた。ただし、受講の回数はあまり変化がなく、任意の研修の受講を促す難しさがうかがわれた。

未委託期間の連絡頻度については、2018 年度調査と比較して 2021 年度調査では、児童相談所だけでなく里親支援機関が連絡を取ることが増加したことも見て取れる（図 38）。特に「数か月～半年に 1 回」という回答は、児童相談所も里親支援機関も伸びていた。

以下に若干、簡略化した図（図 85、図 86）を掲載したが、未委託期間中に未委託である理由の説明が「あった」という回答は、2021 年度調査では 5%ポイント増加した（結果の本文中では、図 39～図 44）。2018 年度調査では、未委託理由に 84.1%の回答者が、2021 年度調査では 89.3%が「納得できた」と回答している。未委託である説明を丁寧に実施する重要性がわかるとともに、民間団体が参入したことで未委託理由を説明する機会が増加したとみることができる。

未委託理由の説明の有無（2018年度）

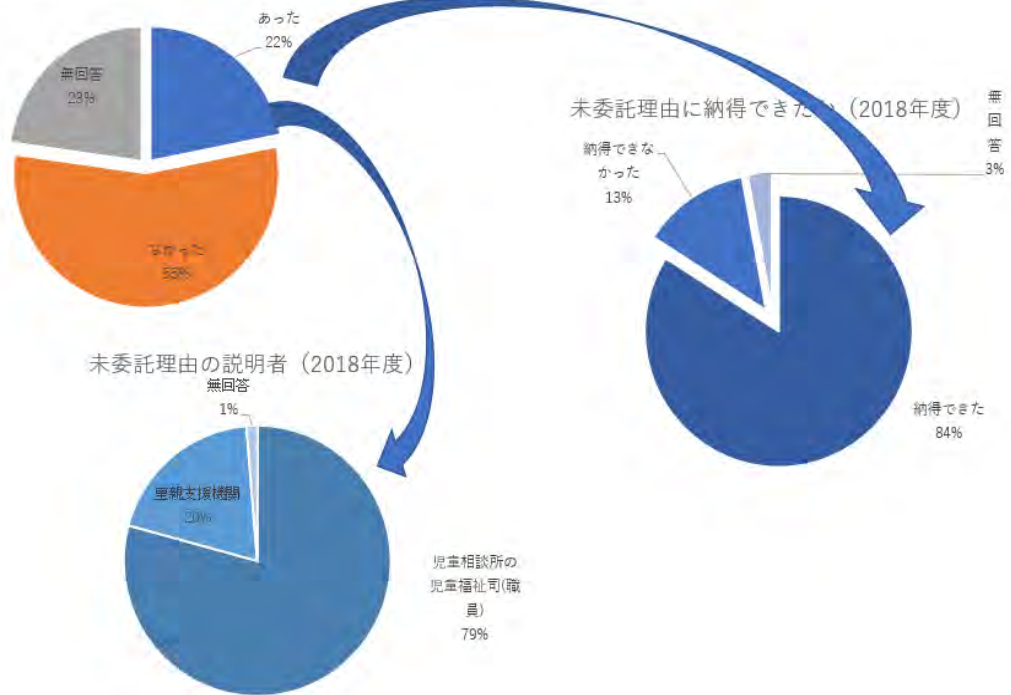


図 85. 【2018 年度調査】未委託理由の説明について（図 39・41・43 を簡略化）

未委託理由の説明の有無（2021年度）

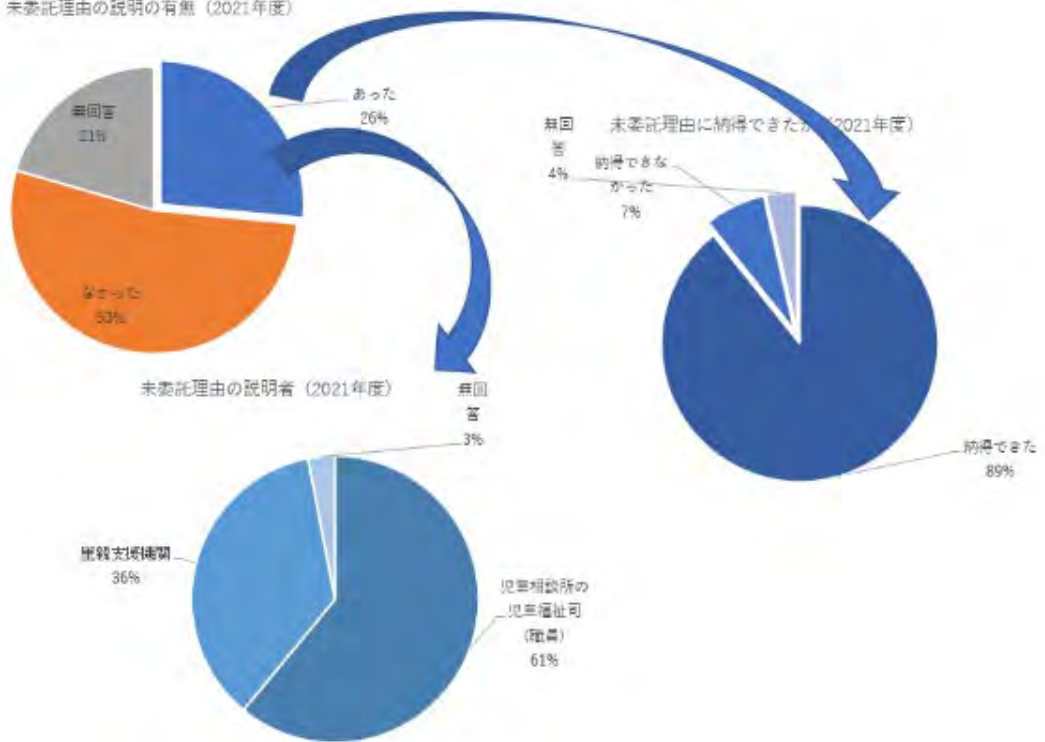


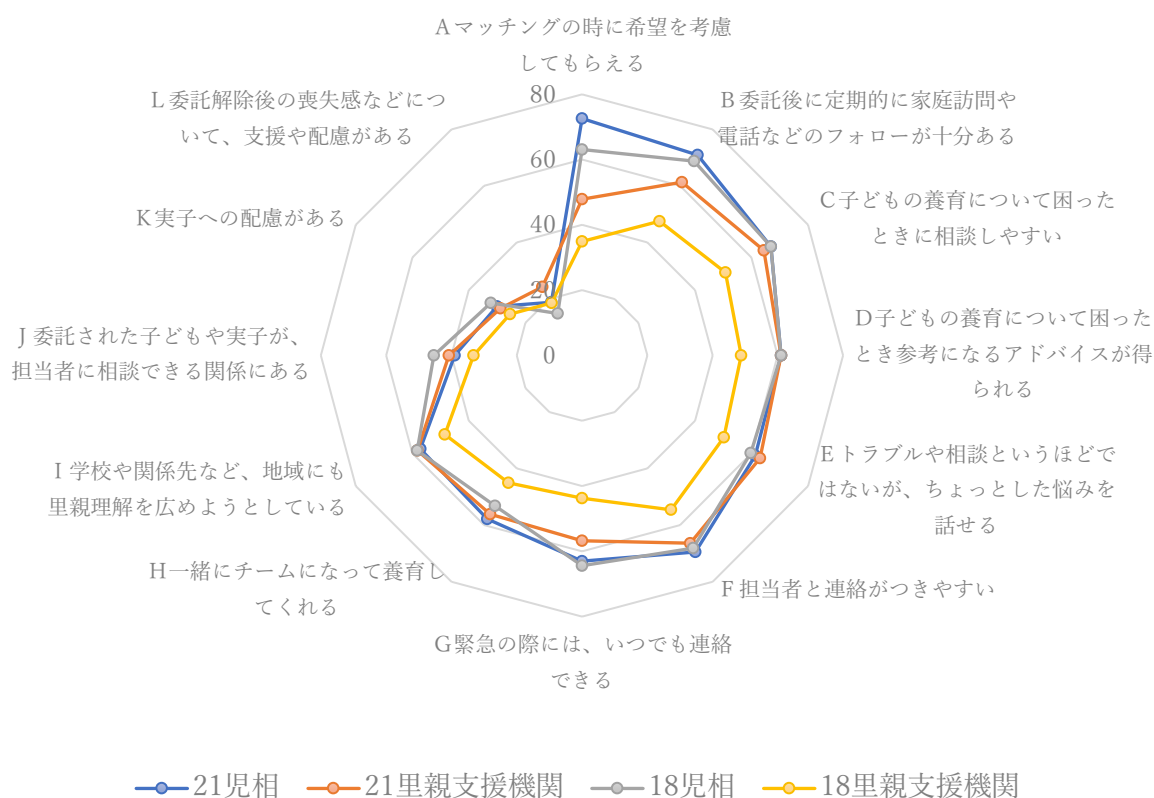
図 86. 【2021 年度調査】未委託理由の説明について（図 40・42・44 を簡略化）

3.5.5. 委託後支援

法定外任意研修については、2018年度調査と比べて2021年度調査では約4%ポイント増加した(図52、図53)。ただし、未委託時と同様に受講回数にあまり変化はなく、任意の研修に参加者を募る難しさを感じる。

児童相談所・里親支援機関について思うこと②として質問した各項目(図56)については、里親支援機関はおおむね10%ポイント以上増加しており、児童相談所に迫る勢いを見せていた。各地域における各里親支援機関がそれぞれの地域で、里親から支援をしてきていると実感を持って捉えられていると考えてよいだろう。

「K.実子への配慮がある」「L.委託解除後の喪失感などについて支援や配慮がある」の項目については、いずれの機関も低い項目であるが、「支援を受けたことがない、そのような状況を経験していない」とする回答者が約半数であり、当該地域の里親はまだそのような経験をしていない人が多いために低い項目となったことが考えられる。



2018年度調査：n=295、単位%
 (2021年度調査：n=292、単位%)

【再掲】図56. 【2018年度調査】【2021年度調査】

児童相談所(問22)・里親支援機関(問23)について思うこと②

3.5.6. 委託変更・解除時の支援

委託解除の経験は、2018年度調査・2021年度調査とも、近年ほどより多く（図 61、図 62）、また「1～6歳」、「16歳以上」が多い（図 63、図 64）。養子縁組成立による委託解除や満年齢による委託解除とかかわりがあるように思われる。

委託解除理由をみると（図 65、図 66）、「里親との関係不調による委託解除」「里親との関係不調による家庭復帰」という里親との「関係不調」を要因とするものは、2018年度調査と比較して2021年度調査では、それぞれ2.5%ポイント、2.9%ポイント減少した。数値としてはわずかであるため、民間団体の成果としてとらえられるかは不明であるが、減少傾向にあると捉えられる。

委託変更・解除時の意見を述べる機会については、以下に簡略化した図を掲載したが（図 87）、7割近くが「あった」と回答しており、2021年度調査では2018年度調査よりもわずかに増加した（結果の本文中では、図 67、図 68）。さらに、その意見が尊重されたと「思う」という回答については、2018年度調査よりも2021年度調査で8%ポイント増加し、84%が「思う」と回答した（図 69、図 70）。意見を述べる機会があれば、多くの人が意見を尊重されたと感じており、かつ2021年度調査ではそう感じている人が増加しているというこの結果は、当該地域で委託変更・解除時に里親への適切なサポートがあったためであると考えられる。

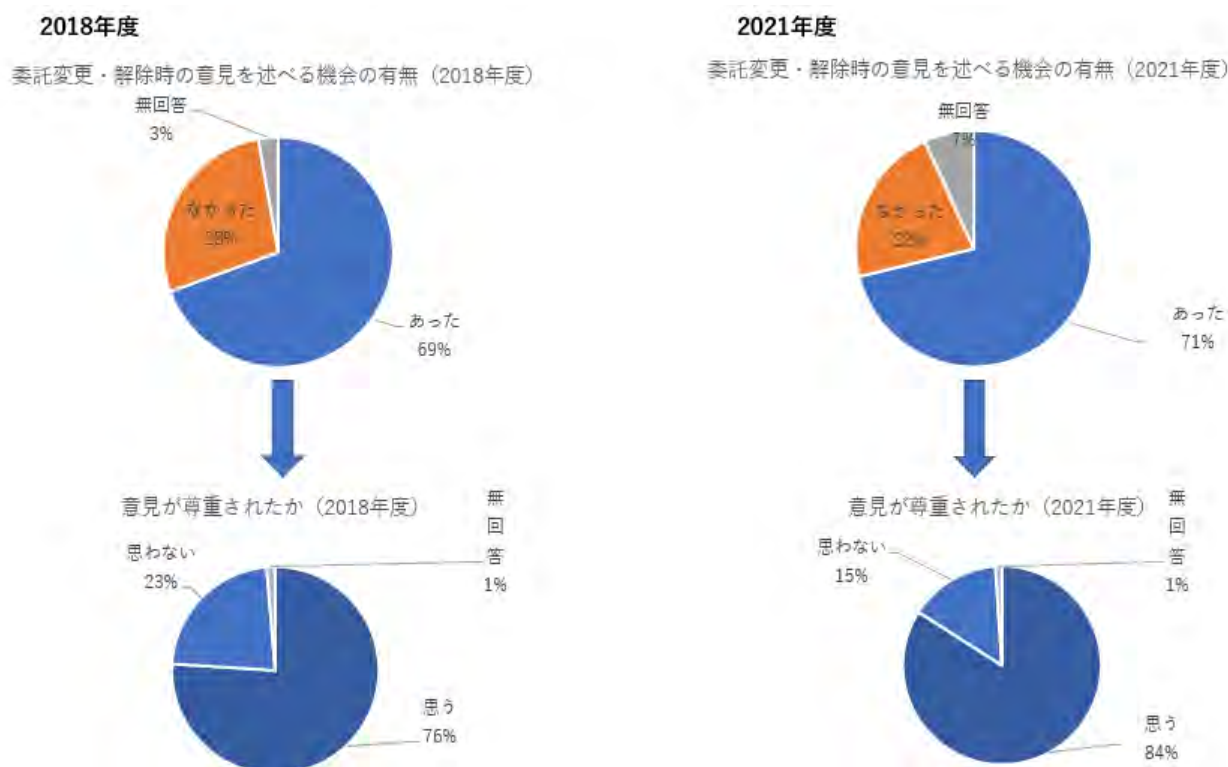


図 87. 【2018年度調査】【2021年度調査】委託変更・解除時の意見について

4. おわりに

本調査報告では、日本財団が助成を実施している民間の里親支援機関（フォスタリング機関）による里親支援事業の成果を検証することを主な目的とした。

民間団体が、日本財団の助成を受けた年度に調査を実施し、それから、「自治体・民間団体へのアンケート調査」は約2年、「里親への質問紙調査」は約2年半の年月を経て再度、実施した。正直なところ、報告者としては、約2年、もしくは2年半で、何らかの前向きな変化が起こるとは考えづらく、微々たる変化でもいいから何らかの成果につながりそうな結果が得られれば、と祈りにも似た気持ちのなか2021年度調査の結果を開けた。

結果は、報告者の予想を裏切り、民間団体が大きく成果を上げていることがわかるものとなった。以下、繰り返しにはなるが、その成果の一部を要約する。

「自治体・民間団体へのアンケート調査」では、民間団体と自治体がお互いに信頼関係を形成していることがわかる結果となっていた。民間団体は、支援の長期的な継続性、一貫性、夜間・休日の対応、里親の課題に応じた丁寧な相談支援など、民間団体ならではの特徴を生かした支援を展開し、それを自治体も認識していた。また里親リクルートなどの広報啓発活動では成果を上げるとともに実績を伸ばした。さらに、里親の資質向上や包括的支援についても定評を得ることになった。そして、それらについて自治体から好意的な評価を受けるだけでなく、民間団体と自治体が互いに協働しあおうとする意識をアンケート調査の文面から感じられた。

「里親への質問紙調査」では、里親の志望理由のうち「支援が必要な子どもの役に立ちたい」という回答が増加したこと、里親登録前の支援において、民間団体が地域の里親の認知度を上げ接点を持っていること、また里親登録前の支援の場で活躍していること、未委託期間中に未委託である理由の説明も増加したこと、委託後の支援について民間団体が活躍していること、委託変更・解除時の意見を述べる機会についても若干の増加がみられたこと、など、多くの成果が確認された。これらはいずれも、民間団体に支援の場が与えられたということのみならず、民間団体の側からも積極的に里親に働きかけていること、また、その一つ一つの働きを丁寧に細やかに行っていることが示されたことを意味すると考えられる。何より、2018年度の調査時点では、里親からは、民間の里親支援機関があることすら認識されていないということが読み取れる調査結果だったが、2021年度調査の時期には、民間の里親支援機関を認識し、かつ肯定的な評価をする回答結果が目立ったのは、民間団体の働きが大きい。

民間団体の成果については以上となるが、本調査では、もう一点、日本における里親支援の事業評価の指標を開発する一助となることを目指すことを掲げた。

調査を実施して、本報告で報告した自治体や民間団体のアンケート調査や里親への質問紙調査は、民間団体の成果を検証するうえで非常に有効であるということがわかった。特に実際に支援を受けている里親への質問紙調査は、重要視する必要があるだろう。この質問紙

調査に関しては、日本財団職員の方の多大なご協力もあり、レーダーグラフなどを用いて視覚的に明瞭な形で成果を提示することができるものとなった。

ただし、各地域で事情も状況も背景も異なる。地域性を考慮するために、調査年度にはヒアリング調査を行うことが必要であることも同時に痛感した。また、里親に委託されている子どもに対しては、調査を行うことができなかった。これらについては今後の課題としたい。

謝辞

本調査にご協力をいただきました、里親の皆様には心から感謝を申し上げます。日々の子育てで多忙を極める中、熱心にご回答いただきました。また、調査票だけには書ききれず、お手紙をくださった方もいらっしゃいました。誠にありがとうございました。

また、自治体の皆様、児童相談所の皆様にも感謝いたします。様々な業務の合間を縫って調査の説明会と調査にご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

そして、民間団体の皆様、様々なご苦労の中、ご協力いただきましたことを感謝申し上げます。今後も皆様のご活躍を祈っております。誠にありがとうございました。

最後に、日本財団の職員のご担当者様、調査に関して多くのアイデアやご助言を賜りました。また、自治体への説明会、打ち合わせ、また集計のご協力などもいただきました。本当にありがとうございました。

三輪清子

本調査は、日本財団が実施した包括的な民間の里親支援機関（フォスタリング機関）に対する助成の成果検証を目的として実施させて頂いたものです。まずは調査をご担当いただき、報告書としてまとめてくださった三輪清子先生に御礼を述べたいと思います。また、本調査にあたっては、地方自治体と児童相談所のご担当者様、里親支援機関の皆様、そして里親の皆様にお忙しい中、多大なご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

調査は3年間という短い期間での変化だけしか扱っておりませんが、この3年間で里親さんと民間里親機関の接点は、面談・家庭訪問・研修、未委託里親への説明などにおいてあきらかに増加しており、民間機関の持つ可能性をある程度は検証できたように思います。児童相談所が果たす役割の重要さは今後も変わることはありませんが、今後は民間機関と児童相談所が役割分担や連携を進めることで、里親さんがより安心して子どもを養育でき、里子さんや実子さんが安心して育っていける環境づくりを進める事ができるのではないのでしょうか。

2022年の改正児童福祉法の成立により、2024年からあらたな児童福祉施設として里親支援センターが創設されることになりました。里親家庭を支援する民間の役割は、今後ますます重要になっていくと考えられます。本調査が、少しでもその参考になれば幸いです。最後になりましたが、調査報告書の最終取りまとめと公表が予定より遅れましたことを、心よりお詫びいたします。

資料編

- ・【2018 年度調査】自治体（自治体・児童相談所）へのアンケート調査
- ・【2018 年度調査】民間団体へのアンケート調査
- ・【2021 年度調査】自治体（自治体・児童相談所）へのアンケート調査
- ・【2021 年度調査】民間団体へのアンケート調査
- ・【2018 年度調査】【2021 年度調査】里親支援に関する調査（里親への質問紙調査）

【2018 年度調査】自治体(自治体・児童相談所)へのアンケート調査

(回答日) 年 月 日

(回答者)

都道府県/市町村名: _____

所属: _____

役職: _____

氏名: _____

1. 現在の里親委託率について改善の必要があると思いますか。
改善の必要があると思う場合には、何から着手する必要があると思いますか。

2. 里親関連事業の民間委託について、これまでの実績を教えてください。

※明細が多い場合には別紙の添付でも構いません。

委託年度	委託内容(委託事業)	実施地域	委託先

3. フォスタリング業務を民間に委託することについて、児童福祉の充実という点から良い方法だと思いますか。

4. 民間団体がフォスタリング業務を担う際に期待したいことを3つ挙げてください。

5. 民間団体がフォスタリング業務を担う際に不安に思うことを3つ挙げてください。

6. 民間団体が、日本財団の助成を受けて事業を行うにあたって、最初の発案者となったのはどなたですか。

また、民間団体が発案者となった場合、最初の相談・報告を受けたのは、どなたですか。

7. 民間団体が、日本財団の助成を受けて事業を行うにあたって、本庁と児童相談所との間で、調整が必要な点がありましたか。

あった場合には、どのような点ですか。

8. 民間団体が日本財団の助成を受けて事業を実施するにあたって、誰が、どのような業務について協力や連携をしていますか。

9. 日本財団からの助成終了後に、民間団体の事業継続のため、自治体として財源を確保する予定・計画・見通しはありますか。
条件次第だとすれば、どのような条件が整う必要があると思いますか。

10. 民間団体による里親支援の取り組み(これまでの事業の成果)についてはどのように評価していますか。

お忙しいなか、ご記入ありがとうございました。

【2018 年度調査】民間団体へのアンケート調査

(回答日) 年 月 日

(回答者)

都道府県/市町村名: _____

所属団体: _____

役職: _____

氏名: _____

1. 現在の里親委託率について改善の必要があると思いますか。
改善の必要があると思う場合には、何から着手する必要があると思いますか。

2. 里親関連事業の受託について、これまでの実績を教えてください。
※明細が多い場合には別紙の添付でも構いません。

受託年度	受託内容(受託事業)	実施地域	委託元

3. フォスタリング業務を民間が受託することについて、児童福祉の充実という点から良い方法だと思いますか。

4. 民間団体としてフォスタリング業務を担う際に自治体から期待されていると思うことを3つ挙げてください。

5. 民間団体としてフォスタリング業務を担う際に、不安に思うことを3つ挙げてください。

6. 貴団体が日本財団の助成を受けて事業を行うにあたって、最初の発案者となったのはどなたですか。

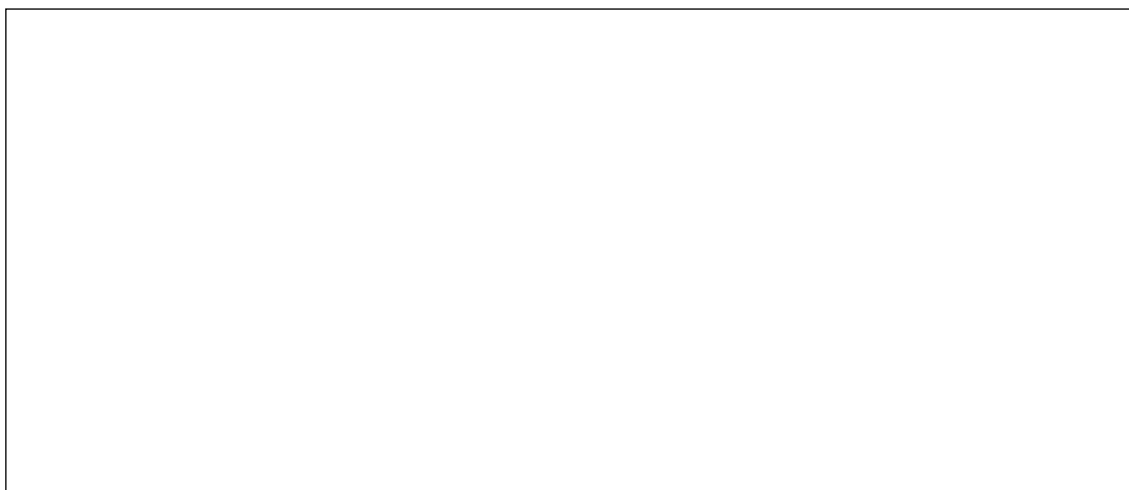
また、貴団体が発案者となった場合、自治体への最初の相談・報告はどなた宛にされましたか。

7. 貴団体が日本財団の助成を受けて事業を行うにあたって、本庁ないしは児童相談所との間で、調整が必要な点がありましたか。

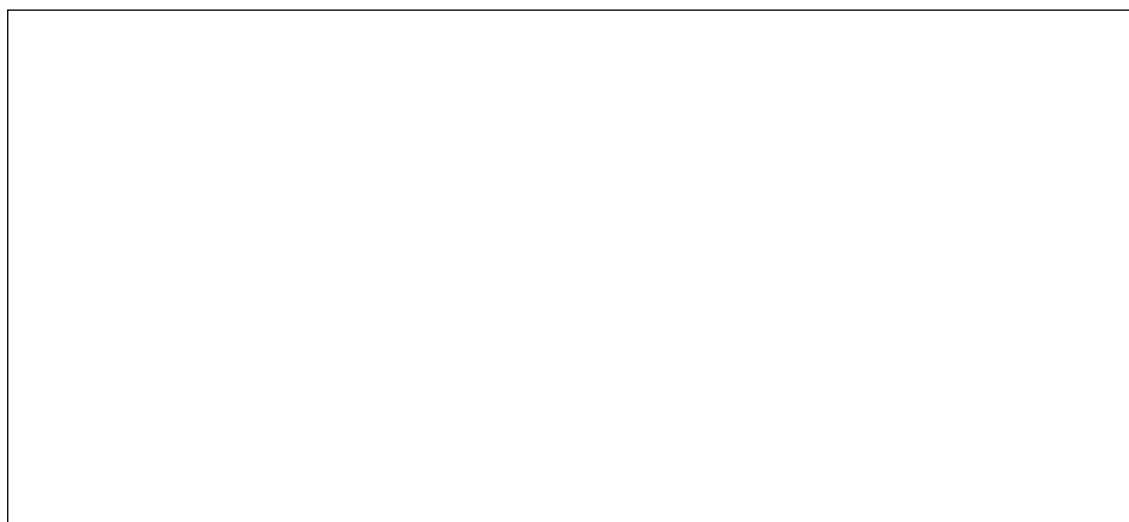
あった場合には、どのような点ですか。

8. 貴団体が日本財団の助成を受けて事業を実施するにあたって、本庁や児童相談所の誰と、どのような業務について協力や連携をしていますか。

9. 日本財団からの助成終了後に、民間団体の事業継続のため、自治体が財源を確保する予定・計画・見通しはありますか。
条件次第だとすれば、どのような条件が整う必要があると思いますか。



10. 里親支援の取り組み(これまでの事業の成果)については、本庁や児童相談所からはどのように評価を受けていますか。



お忙しいなか、ご記入ありがとうございました。

【2021 年度調査】自治体(自治体・児童相談所)へのアンケート調査

(回答日) 年 月 日

(回答者)

都道府県/市町村名: _____

所属: _____

役職: _____

氏名: _____

11. 現在の里親委託率について改善の必要があると思いますか。
改善の必要があると思う場合には、何から着手する必要があると思いますか。

2. 里親関連事業の民間委託について、令和元年から令和 3 年度までの実績・予定を教えてください(※前回は平成 30 年までの実績をお伺いしました)。

※明細が多い場合には別紙の添付でも構いません。

委託年度	委託内容(委託事業)	実施地域	委託先
令和元年			
令和 2 年			
令和 3 年			

3. フォスタリング業務を民間に委託することについて、児童福祉の充実という点から良い方法だと思いますか。

4. 民間団体がフォスタリング業務を担う際に期待したいことを3つ挙げてください。

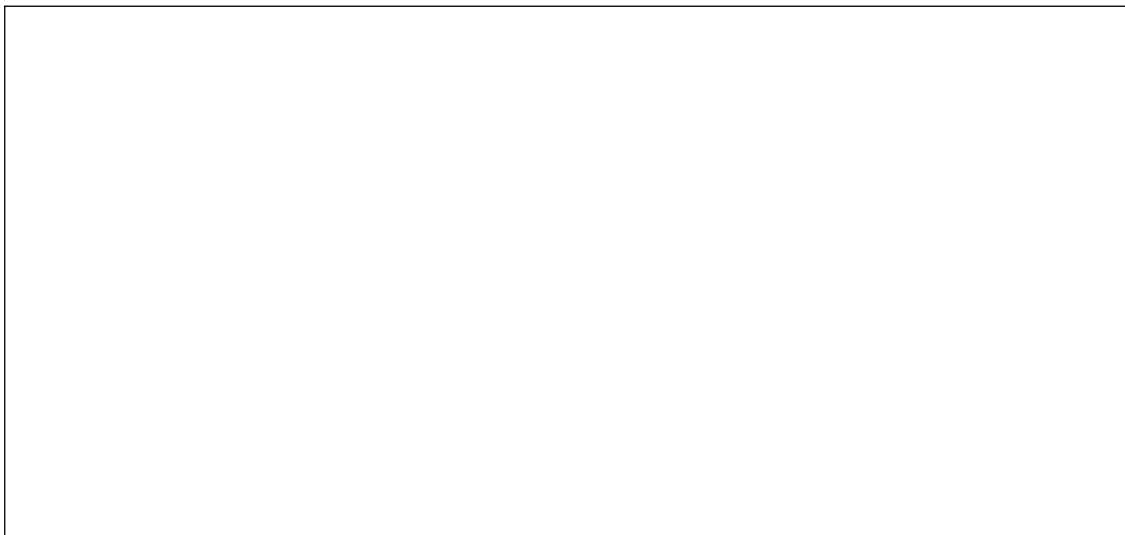
5. 4.にてお答えいただいた期待に対し、民間団体は応えられていると思いますか。理由もあわせて、ご教示ください。

6. 民間団体がフォスタリング業務を担ったことでうまくいかなかったことがあればご教示ください。

7. 民間団体が助成事業を実施する前と比較して、里親支援に関わる機関間の役割分担、協力・連携状況について、変化がありましたか。または、変化の予定や兆しがありますか。

8. 今後、民間団体の事業継続のため、自治体として財源を確保した・または確保する予定はありますか。

9. 民間団体による里親支援の取り組み(これまでの事業の成果)についてはどのように評価していますか。



お忙しいなか、ご記入ありがとうございました。

【2021 年度調査】民間団体へのアンケート調査

(回答日) 年 月 日

(回答者)

都道府県/市町村名: _____

所属団体: _____

役職: _____

氏名: _____

1. 現在の里親委託率について改善の必要があると思いますか。
改善の必要があると思う場合には、何から着手する必要があると思いますか。

2. 里親関連事業の受託について、令和元年から令和 3 年度までの実績・予定を教えてください(※前回は平成 30 年までの実績をお伺いしました)。
※明細が多い場合には別紙の添付でも構いません。

受託年度	受託内容(受託事業)	実施地域	委託元

3. フォスタリング業務を民間が受託することについて、児童福祉の充実という点から良い方法だと思いますか。

4. 民間団体としてフォスタリング業務を担う際に自治体から期待されていると思うことを3つ挙げてください。

5. 4.にてお答えいただいた期待されていることに対し、応えられていると思いますか。理由もあわせて、ご教示ください。

6. 民間団体としてフォスタリング業務を担う際に、うまくいかなかったことがあればご教示ください。

7. 貴団体が日本財団の助成を受けて事業を実施する前と比較して、里親支援に関わる機関間の役割分担、協力・連携状況について、変化がありましたか。または、変化の予定や兆しがありますか。

8. 日本財団からの助成終了後に、民間団体の事業継続のため、自治体が財源を確保する予定・計画・見通しはありますか。条件次第だとすれば、どのような条件が整う必要があると思いますか。又は、既に自治体からの事業受託をしている場合・確定している場合については、諸条件や金額規模について、活動にあたり十分な内容だと思いませんか。理由もあわせて、ご教示ください。

9. 里親支援の取り組み(これまでの事業の成果)については、本庁や児童相談所からはどのように評価を受けていますか。

お忙しいなか、ご記入ありがとうございました。

◎ 里親支援に関する調査 ◎

【調査主体】

公益財団法人 日本財団
明治学院大学 社会学部 三輪 清子

【ご記入に際してのお願い】

- ・本調査は、2019年1月1日時点についてご記入ください。
- ・ご記入は、鉛筆または黒・青のペン・ボールペンでお願いいたします。
- ・質問番号順にお答えください。質問の中には、一部の方にだけおたずねするものもありますが、その場合は（ → ）等の指示にそってお願いいたします。
- ・お答えは、あてはまる回答についている数字を○印で囲んでいただく場合と、ワクの中に数字を記入していただく場合があります。「その他」にあてはまる時は、その数字を○で囲み、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- ・質問文の末尾に（○は1つだけ）という場合には1つだけ、（○はいくつでも）という場合にはいくつでも○印をつけてください。
- ・ご記入が終わりましたら、もう一度、記入まちがいや記入もれがないかどうかお確かめいただき、同封の返信用封筒にて2月18日（月）までにご返送ください。
- ・⑥や⑩などの番号はコンピュータで処理するためのものです。お気になさらずにお答えください。
- ・この質問用紙の中に出てくる「里親支援機関」とは、長野県・うえだみなみ乳児院（敬老園）、熊本県・NPO 法人優里の会、三重県・児童家庭支援センターまお（エスペランス四日市）、大阪水上隣保館乳児院（おひさま）、大阪府・高鷲学園、高知聖園ベビーホーム（結いの実）、福岡県・清心乳児園（慈愛会）、佐賀県・洗心寮（洗心和合会）や、里親支援専門相談員を配置している乳児院や児童養護施設を指します。本調査ではその総称として、「里親支援機関」を用います。

⑤⑥=01

ご自身の里親としてのお立場をお聞かせください。

問1 登録されている里親の種類と登録年はいつですか。

⑦=1

（該当するものすべてに○をつけ、登録した年を記入）

1 養育里親	西暦 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	年	または	1 昭和 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	年	登録
				2 平成 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>		
2 養子縁組里親	西暦 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	年	または	1 昭和 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	年	登録
				2 平成 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>		
3 親族里親	西暦 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	年	または	1 昭和 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	年	登録
				2 平成 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>		
4 専門里親	西暦 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	年	または	1 昭和 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	年	登録
				2 平成 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>		

里親に申請された動機についてお聞かせください。

問2 里親についての情報は何かから得られましたか。(○はいくつでも)

- 1 テレビ・新聞・ラジオ・雑誌
- 2 ポスター・電車、バスなどの広告
- 3 小・中・高・大学の授業
- 4 自治体のホームページ・広報・SNS・ブログなど
- 5 自治体以外のホームページ・広報・SNS・ブログなど
- 6 児童相談所・役所
- 7 書籍
- 8 宗教団体
- 9 児童福祉施設
- 10 病院
- 11 イベント（シンポジウム、街頭の出前ブースなど含む）
- 12 家族・友人・知人
- 13 里親家庭
- 14 その他（具体的に)

問3 なぜ里親を志望されましたか。最も当てはまる理由を教えてください。(○は1つだけ)

- 1 支援が必要な子どもの役に立ちたい
- 2 現在、実子の子育て中だが、もっと子どもを育てたい
- 3 実子の子育てはひと段落（一番末の子どもが義務教育を修了）したが、もっと子育てをしたい
- 4 児童福祉施設などに勤めていた（あるいは現在勤めている）経験が役立つ
- 5 できれば養子がほしい
- 6 実子がない
- 7 実子にきょうだいがほしい
- 8 周囲に勧められた
- 9 親族の子どもを預かった
- 10 その他（具体的に)

問4 あなたは、A～Fの各段階でそれぞれの機関と接点を持ちましたか。(○はいくつでも)

	児童相談所	里親支援機関	児童相談所・里親支援機関以外の団体や機関	どの機関とも接点を持っていない	わからない
A 里親制度の説明会・里親の募集	1	2	3	4	5
B 里親登録にいたるまでの面談・家庭訪問	1	2	3	4	5
C 里親登録の研修	1	2	3	4	5
D 未委託期間中の状況確認やフォロー	1	2	3	4	5
E 子どもとのマッチング	1	2	3	4	5
F 委託後の訪問やフォロー	1	2	3	4	5

▼【問5は問4のA～Fで1つでも「2」を回答した方に】

問5 接点を持った里親支援機関はひとつですか。

1 1ヶ所のみ	2 2ヶ所以上（複数にわたる）
---------	-----------------

【全員の方にお伺いします】

里親登録前の面談・面接・家庭訪問についてお聞かせください。

問6 里親登録にいたるまでの面談・面接、あるいは家庭訪問等の回数は、全部合わせていただきたいどのくらいでしたか。(○は1つだけ)

1 1～2回	4 7～9回
2 3～4回	5 10回以上
3 5～6回	6 まったくなかった

【全員の方にお伺いします】委託経験の有無についてお聞かせください。

問7 あなたは、現在子どもを委託されている、あるいは過去に委託されたことがありますか。

- 1 現在、過去において委託された経験がある
- 2 一度も委託された経験がない

一番最近の未委託の期間についてお聞かせください。

問8 一番最近の未委託の期間はどのくらいでしたか。(未委託期間がない場合「X」に○)

未委託期間 年 か月間 未委託期間はなかった(→ 問15へ)

問9 一番最近の未委託期間中、法定外の任意の研修の案内はありましたか。

- 1 あった
- 2 なかった(→ 問11へ)

問10 研修は何回受講されましたか。(数字を記入)

未委託期間中、約 回受講した

問11 一番最近の未委託期間中、児童相談所または里親支援機関からは、どのくらいの頻度で連絡がありましたか。(○は各1つだけ)

	週に1回	月に1回	数か月 半年に1回	一年に1回	まったくない
児童相談所	1	2	3	4	5
里親支援機関	1	2	3	4	5

問12 一番最近の未委託の期間中、未委託の理由について、説明がありましたか。

- 1 あった
- 2 なかった(→ 問15へ)

【問13と問14は、問12で「1」と回答した方に】

問13 説明があった場合に、それは納得できる内容でしたか。

- 1 納得できた
- 2 納得できなかった

問14 説明があった場合に、その説明をしたのはどなたですか。(○はいくつでも)

- 1 児童相談所の児童福祉司(職員)
- 2 里親支援機関

【全員の方にお伺いします】

児童相談所・里親支援機関についてお聞かせください。

問 15 あなたは、現在、「児童相談所」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	児童相談所とは、 接点がないのでわからない
A 里親制度について気軽に問合せできる	1	2	3	4	5
B 里親制度について丁寧に説明してもらえる	1	2	3	4	5
C 里親登録にいたるまで、検討段階に応じた 情報提供や説明がある	1	2	3	4	5

問 16 あなたは、現在、「里親支援機関」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	里親支援機関とは、 接点がないのでわからない
A 里親制度について気軽に問合せできる	1	2	3	4	5
B 里親制度について丁寧に説明してもらえる	1	2	3	4	5
C 里親登録にいたるまで、検討段階に応じた 情報提供や説明がある	1	2	3	4	5

問7で

「1 現在、過去において委託された経験がある」と回答された方
(→ 6 ページ 問17 へお進みください)

「2 一度も委託された経験がない」と回答された方
(→ 11 ページ 問31 へお進みください)

【問 17～問 30 は引き続き、委託経験のある方全員にお伺いします】

一番最近の委託経験についてお聞かせください。

問 17 一番最近の委託された子どもは、どの立場で受託をされていますか。一番最近の委託された子どもが複数いる場合は、一番上の年齢の子どもについてお答えください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|--------|----------|--------|--------|
| 1 養育里親 | 2 養子縁組里親 | 3 親族里親 | 4 専門里親 |
|--------|----------|--------|--------|

問 18 一番最近の委託された子どもの委託直前にいた場所を教えてください。委託直前にいた場所が一時保護所である場合は、一時保護所の前にいた場所についてお答えください。

(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1 児童養護施設/乳児院 | } (問 20 へ) |
| 2 実家庭 (産院・病院も含む) | |
| 3 児童自立支援施設/児童心理治療施設 | |
| 4 他の里親 (ファミリーホームを含む) | |
| 5 その他 (具体的に) | |
| 6 わからない・知らされていない | |

▼
【問 19 は問 18 で「1」を回答した方に】

問 19 一番最近の委託された子どもの委託直前にいた「児童養護施設/乳児院」には、里親支援機関が併設されていましたか (または、同じ法人でしたか)。

- | |
|--------------|
| 1 併設されていた |
| 2 併設されていなかった |
| 3 わからない |

問 20 一番最近の子どもを委託されてから、法定外の任意の研修の案内はありましたか。

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1 あった | 2 なかった (→ 7 ページの問 22 へ) |
|-------|-------------------------|

▼
【問 21 は問 20 で「1」を回答した方に】

問 21 研修は何回受講されましたか。(数字を記入)

約 回受講した

児童相談所と里親支援機関についてお聞かせください。

問 22 あなたは、現在、「児童相談所」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	支援を受けたことがない そのような状況を経験していない
A マッチングの時に希望を考慮してもらえる	1	2	3	4	5
B 委託後に定期的に家庭訪問や電話などのフォローが十分ある	1	2	3	4	5
C 子どもの養育について困ったときに相談しやすい	1	2	3	4	5
D 子どもの養育について困ったときに、参考になるアドバイスが得られる	1	2	3	4	5
E トラブルや相談というほどではないが、ちょっとした悩みを話せる	1	2	3	4	5
F 担当者と連絡が付きやすい	1	2	3	4	5
G 緊急の際には、いつでも連絡できる	1	2	3	4	5
H 一緒にチームになって養育してくれる	1	2	3	4	5
I 学校や関係先など、地域にも里親理解を広めようとしている	1	2	3	4	5
J 委託された子どもや実子が、担当者に相談できる関係にある	1	2	3	4	5
K 実子への配慮がある	1	2	3	4	5
L 委託解除後の喪失感などについて、支援や配慮がある	1	2	3	4	5

問 23 あなたは、現在、「里親支援機関」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	支援を受けたことがない そのような状況を経験していない
A マッチングの時に希望を考慮してもらえる	1	2	3	4	5
B 委託後に定期的に家庭訪問や電話などのフォローが十分ある	1	2	3	4	5
C 子どもの養育について困ったときに相談しやすい	1	2	3	4	5
D 子どもの養育について困ったときに、参考になるアドバイスが得られる	1	2	3	4	5
E トラブルや相談というほどではないが、ちょっとした悩みを話せる	1	2	3	4	5
F 担当者と連絡がつきやすい	1	2	3	4	5
G 緊急の際には、いつでも連絡できる	1	2	3	4	5
H 一緒にチームになって養育してくれる	1	2	3	4	5
I 学校や関係先など、地域にも里親理解を広めようとしている	1	2	3	4	5
J 委託された子どもや実子が、担当者に相談できる関係にある	1	2	3	4	5
K 実子への配慮がある	1	2	3	4	5
L 委託解除後の喪失感などについて、支援や配慮がある	1	2	3	4	5

委託変更・委託解除の経験についてお聞きします。

問 24 過去に委託解除になった子どもはいますか。(○は1つだけ)

- 1 過去に委託解除になった子どもがいる
- 2 過去に委託解除になった子どもはいない (→ 10 ページの間 30 へ)

過去に子どもを委託され、現在はすでに委託解除になっている子どもがいる方にお聞きします。

問 25～問 29 は、委託解除された子どもについてお聞かせください。

問 25 過去に何人の子どもが委託解除になりましたか。(数字を記入)

過去に 人が委託解除

一番最近に委託解除された子どもについて教えてください。

問 26 その子どもが委託解除になった時期と年齢を教えてください。

(いずれかに○をつけ、数字を記入)

西暦	<input type="text"/>	年	または	1 昭和 <input type="text"/>	年
				2 平成 <input type="text"/>	
		子どもが	<input type="text"/>	歳のとき	

問 27 その子どもが委託解除になった最も当てはまる理由を教えてください。(○は1つだけ)

- 1 里親との関係不調以外の家庭復帰
- 2 里親との関係不調による家庭復帰
- 3 里親との関係不調以外の委託変更
- 4 里親との関係不調による委託変更
- 5 満年齢による委託解除
- 6 養子縁組による委託解除
- 7 満年齢前の委託解除 (自立等)
- 8 子どもの問題による委託変更
- 9 親族による引き取り
- 10 その他(具体的に)

問 28 委託変更または委託解除があった時、児童相談所や里親支援機関などに、子どもの措置について意見を述べる機会がありましたか。

1 あった

2 なかった (→ 問 30 へ)

▼
【問 29 は問 28 で「1」を回答した方に】

問 29 意見を述べる機会があった場合、その意見が尊重されたうえで意思決定がなされたと思いますか。

1 思う

2 思わない

これまでの里親経験を振り返ってお答えください。

問 30 里親をやっていてよかったと思いますか。

1 思う

2 思わない

【全員の方にお伺いします】

あなた自身について、お聞きします。

問 31 このアンケートのご記入者はどなたですか。

1 里母	2 里父	3 その他（具体的に	）
------	------	------------	---

問 32 あなたの年齢をご記入ください。（○は1つだけ）

1 20代	4 50代
2 30代	5 60代
3 40代	6 70代以上

問 33 あなたが最後に行った（または在学中の）学校は次のどれにあたりますか。中退・在学中も卒業と同じ扱いでお答えください。（○は1つだけ）

1 中学校	5 大学（4年制）	
2 高校	6 大学院・大学（6年制）	
3 専門学校（高卒後）	7 その他（具体的に	）
4 短大・高専		

問 34 あなたの就労状況について教えてください。（○は1つだけ）

1 正社員/正職員
2 非正規（契約・嘱託・パート・アルバイト含む）
3 自営業/個人事業主
4 宗教家
5 無職

問 35 あなたは現在、実子と同居していますか。（いずれかに○をつけ、数字を記入）

1 同居している	<input type="text"/>	人	2 別々に暮らしている	3 そもそも実子がない
----------	----------------------	---	-------------	-------------

質問はこれで終了となります。

同封の返信用封筒に入れ、2019年2月18日(月)までにご返送ください。

ご協力ありがとうございました。

◎ 里親支援に関する調査 ◎

【調査主体】

公益財団法人 日本財団
明治学院大学 社会学部 三輪 清子

【ご記入に際してのお願い】

- ・本調査は、2021年5月1日時点についてご記入ください。
- ・ご記入は、鉛筆または黒・青のペン・ボールペンでお願いいたします。
- ・質問番号順にお答えください。質問の中には、一部の方にだけおたずねするものもありますが、その場合は（ → ）等の指示にそってお願いいたします。
- ・お答えは、あてはまる回答についている数字を○印で囲んでいただく場合と、ワクの中に数字を記入していただく場合があります。「その他」にあてはまる時は、その数字を○で囲み、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- ・質問文の末尾に（○は1つだけ）という場合には1つだけ、（○はいくつでも）という場合にはいくつでも○印をつけてください。
- ・ご記入が終わりましたら、もう一度、記入まちがいや記入もれがないかどうかお確かめいただき、同封の返信用封筒にて7月27日（火）までにご返送ください。
- ・⑥や⑩などの番号はコンピュータで処理するためのものです。お気になさらずにお答えください。
- ・この質問用紙の中に出てくる「里親支援機関」とは、長野県・うえだみなみ乳児院（敬老園）、熊本県・NPO 法人優里の会、三重県・エスペランス四日市、大阪水上隣保館乳児院（おひさま）、大阪府・高鷲学園、高知聖園ベビーホーム（結いの実）、福岡県・清心乳児院（慈愛会）や、里親支援専門相談員を配置している乳児院や児童養護施設を指します。本調査ではその総称として、「里親支援機関」を用います。

ご自身の里親としてのお立場をお聞かせください。

問1 登録されている里親の種類と登録年はいつですか。

（該当するものすべてに○をつけ、登録した年を記入）

1 養育里親	西暦 <input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年	または	1 昭和 2 平成 3 令和	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年 登録
2 養子縁組里親	西暦 <input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年	または	1 昭和 2 平成 3 令和	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年 登録
3 親族里親	西暦 <input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年	または	1 昭和 2 平成 3 令和	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年 登録
4 専門里親	西暦 <input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年	または	1 昭和 2 平成 3 令和	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/> 年 登録

里親に申請された動機についてお聞かせください。

問2 里親についての情報は何かから得られましたか。(○はいくつでも)

- 1 テレビ・新聞・ラジオ・雑誌
- 2 ポスター・電車、バスなどの広告
- 3 小・中・高・大学の授業
- 4 自治体のホームページ・広報・SNS・ブログなど
- 5 自治体以外のホームページ・広報・SNS・ブログなど
- 6 児童相談所・役所
- 7 書籍
- 8 宗教団体
- 9 児童福祉施設
- 10 病院
- 11 イベント（シンポジウム、街頭の出前ブースなど含む）
- 12 家族・友人・知人
- 13 里親家庭
- 14 その他（具体的に)

問3 なぜ里親を志望されましたか。最も当てはまる理由を教えてください。(○は1つだけ)

- 1 支援が必要な子どもの役に立ちたい
- 2 現在、実子の子育て中だが、もっと子どもを育てたい
- 3 実子の子育てはひと段落（一番末の子どもが義務教育を修了）したが、もっと子育てをしたい
- 4 児童福祉施設などに勤めていた（あるいは現在勤めている）経験が役立つ
- 5 できれば養子がほしい
- 6 実子がない
- 7 実子にきょうだいがほしい
- 8 周囲に勧められた
- 9 親族の子どもを預かった
- 10 その他（具体的に)

問4 あなたは、A～Fの各段階でそれぞれの機関と接点を持ちましたか。（○はいくつでも）

	児童相談所	里親支援機関	児童相談所・里親支援機関以外の団体や機関	どの機関とも接点を持っていない	わからない
A 里親制度の説明会・里親の募集	1	2	3	4	5
B 里親登録にいたるまでの面談・家庭訪問	1	2	3	4	5
C 里親登録の研修	1	2	3	4	5
D 未委託期間中の状況確認やフォロー	1	2	3	4	5
E 子どもとのマッチング	1	2	3	4	5
F 委託後の訪問やフォロー	1	2	3	4	5

▼【問5は問4のA～Fで1つでも「2」を回答した方に】

問5 接点を持った里親支援機関はひとつですか。

1 1ヶ所のみ	2 2ヶ所以上（複数にわたる）
---------	-----------------

【全員の方にお伺いします】

里親登録前の面談・面接・家庭訪問についてお聞かせください。

問6 里親登録にいたるまでの面談・面接、あるいは家庭訪問等の回数は、全部合わせていただきたいのくらいでしたか。（○は1つだけ）

1 1～2回	4 7～9回
2 3～4回	5 10回以上
3 5～6回	6 まったくなかった

【全員の方にお伺いします】委託経験の有無についてお聞かせください。

問7 あなたは、現在子どもを委託されている、あるいは過去に委託されたことがありますか。

- 1 現在、過去において委託された経験がある
2 一度も委託された経験がない

一番最近の未委託の期間についてお聞かせください。

問8 一番最近の未委託の期間はどのくらいでしたか。(未委託期間がない場合「X」に○)

未委託期間 年 か月間 X 未委託期間はなかった(→ 問15へ)

問9 一番最近の未委託期間中、法定外の任意の研修の案内はありましたか。

- 1 あった 2 なかった(→ 問11へ)

問10 研修は何回受講されましたか。(数字を記入)

未委託期間中、約 回受講した

問11 一番最近の未委託期間中、児童相談所または里親支援機関からは、どのくらいの頻度で連絡がありましたか。(○は各1つだけ)

	週に1回	月に1回	数か月 半年に1回	一年に1回	まったくない
児童相談所	1	2	3	4	5
里親支援機関	1	2	3	4	5

問12 一番最近の未委託の期間中、未委託の理由について、説明がありましたか。

- 1 あった 2 なかった(→ 問15へ)

【問13と問14は、問12で「1」と回答した方に】

問13 説明があった場合に、それは納得できる内容でしたか。

- 1 納得できた 2 納得できなかった

問14 説明があった場合に、その説明をしたのはどなたですか。(○はいくつでも)

- 1 児童相談所の児童福祉司(職員)
2 里親支援機関

【全員の方にお伺いします】

児童相談所・里親支援機関についてお聞かせください。

問 15 あなたは、現在、「児童相談所」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	児童相談所とは、 接点がないのでわからない
A 里親制度について気軽に問合せできる	1	2	3	4	5
B 里親制度について丁寧に説明してもらえる	1	2	3	4	5
C 里親登録にいたるまで、検討段階に応じた 情報提供や説明がある	1	2	3	4	5

問 16 あなたは、現在、「里親支援機関」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	里親支援機関とは、 接点がないのでわからない
A 里親制度について気軽に問合せできる	1	2	3	4	5
B 里親制度について丁寧に説明してもらえる	1	2	3	4	5
C 里親登録にいたるまで、検討段階に応じた 情報提供や説明がある	1	2	3	4	5

問7で

「1 現在、過去において委託された経験がある」と回答された方
(→ 6ページ 問17 へお進みください)

「2 一度も委託された経験がない」と回答された方
(→ 11ページ 問31 へお進みください)

【問 17～問 30 は引き続き、委託経験のある方全員にお伺いします】

一番最近の委託経験についてお聞かせください。

問 17 一番最近の委託された子どもは、どの立場で受託をされていますか。一番最近の委託された子どもが複数いる場合は、一番上の年齢の子どもについてお答えください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|--------|----------|--------|--------|
| 1 養育里親 | 2 養子縁組里親 | 3 親族里親 | 4 専門里親 |
|--------|----------|--------|--------|

問 18 一番最近の委託された子どもの委託直前にいた場所を教えてください。委託直前にいた場所が一時保護所である場合は、一時保護所の前にいた場所についてお答えください。

(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1 児童養護施設/乳児院 | |
| 2 実家庭 (産院・病院も含む) | |
| 3 児童自立支援施設/児童心理治療施設 | |
| 4 他の里親 (ファミリーホームを含む) | ▶ (問 20 へ) |
| 5 その他 (具体的に) | |
| 6 わからない・知らされていない | |

【問 19 は問 18 で「1」を回答した方に】

問 19 一番最近の委託された子どもの委託直前にいた「児童養護施設/乳児院」には、里親支援機関が併設されていましたか (または、同じ法人でしたか)。

- | |
|--------------|
| 1 併設されていた |
| 2 併設されていなかった |
| 3 わからない |

問 20 一番最近の子どもを委託されてから、法定外の任意の研修の案内はありましたか。

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1 あった | 2 なかった (→ 7 ページの問 22 へ) |
|-------|-------------------------|

【問 21 は問 20 で「1」を回答した方に】

問 21 研修は何回受講されましたか。(数字を記入)

約 回受講した

児童相談所と里親支援機関についてお聞かせください。

問 22 あなたは、現在、「児童相談所」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	支援を受けたことがない そのような状況を経験していない
A マッチングの時に希望を考慮してもらえる	1	2	3	4	5
B 委託後に定期的に家庭訪問や電話などのフォローが十分ある	1	2	3	4	5
C 子どもの養育について困ったときに相談しやすい	1	2	3	4	5
D 子どもの養育について困ったときに、参考になるアドバイスが得られる	1	2	3	4	5
E トラブルや相談というほどではないが、ちょっとした悩みを話せる	1	2	3	4	5
F 担当者と連絡が付きやすい	1	2	3	4	5
G 緊急の際には、いつでも連絡できる	1	2	3	4	5
H 一緒にチームになって養育してくれる	1	2	3	4	5
I 学校や関係先など、地域にも里親理解を広めようとしている	1	2	3	4	5
J 委託された子どもや実子が、担当者に相談できる関係にある	1	2	3	4	5
K 実子への配慮がある	1	2	3	4	5
L 委託解除後の喪失感などについて、支援や配慮がある	1	2	3	4	5

問 23 あなたは、現在、「里親支援機関」について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	支援を受けたことがない そのような状況を経験していない
A マッチングの時に希望を考慮してもらえる	1	2	3	4	5
B 委託後に定期的に家庭訪問や電話などのフォローが十分ある	1	2	3	4	5
C 子どもの養育について困ったときに相談しやすい	1	2	3	4	5
D 子どもの養育について困ったときに、参考になるアドバイスが得られる	1	2	3	4	5
E トラブルや相談というほどではないが、ちょっとした悩みを話せる	1	2	3	4	5
F 担当者と連絡が付きやすい	1	2	3	4	5
G 緊急の際には、いつでも連絡できる	1	2	3	4	5
H 一緒にチームになって養育してくれる	1	2	3	4	5
I 学校や関係先など、地域にも里親理解を広めようとしている	1	2	3	4	5
J 委託された子どもや実子が、担当者に相談できる関係にある	1	2	3	4	5
K 実子への配慮がある	1	2	3	4	5
L 委託解除後の喪失感などについて、支援や配慮がある	1	2	3	4	5

委託変更・委託解除の経験についてお聞きします。

問 24 過去に委託解除になった子どもはいますか。(○は1つだけ)

- 1 過去に委託解除になった子どもがいる
- 2 過去に委託解除になった子どもはいない (→ 10 ページの間 30 へ)

▼ 過去に子どもを委託され、現在はすでに委託解除になっている子どもがいる方にお聞きします。

問 25～問 29 は、委託解除された子どもについてお聞かせください。

問 25 過去に何人の子どもが委託解除になりましたか。(数字を記入)

過去に 人が委託解除

一番最近に委託解除された子どもについて教えてください。

問 26 その子どもが委託解除になった時期と年齢を教えてください。

(いずれかに○をつけ、数字を記入)

西暦	<input type="text"/>	年	または	1 昭和	<input type="text"/>	年
				2 平成	<input type="text"/>	
				3 令和	<input type="text"/>	
		子どもが	<input type="text"/>	歳	のとき	

問 27 その子どもが委託解除になった最も当てはまる理由を教えてください。(○は1つだけ)

- 1 里親との関係不調以外の家庭復帰
- 2 里親との関係不調による家庭復帰
- 3 里親との関係不調以外の委託変更
- 4 里親との関係不調による委託変更
- 5 満年齢による委託解除
- 6 養子縁組による委託解除
- 7 満年齢前の委託解除 (自立等)
- 8 子どもの問題による委託変更
- 9 親族による引き取り
- 10 その他(具体的に _____)

問 28 委託変更または委託解除があった時、児童相談所や里親支援機関などに、子どもの措置について意見を述べる機会がありましたか。

1 あった

2 なかった (→ 問 30 へ)

▼
【問 29 は問 28 で「1」を回答した方に】

問 29 意見を述べる機会があった場合、その意見が尊重されたうえで意思決定がなされたと思いますか。

1 思う

2 思わない

これまでの里親経験を振り返ってお答えください。

問 30 里親をやっていてよかったと思いますか。

1 思う

2 思わない

【全員の方にお伺いします】

あなた自身について、お聞きします。

問 31 このアンケートのご記入者はどなたですか。

1 里母	2 里父	3 その他（具体的に	）
------	------	------------	---

問 32 あなたの年齢をご記入ください。（○は1つだけ）

1 20代	4 50代
2 30代	5 60代
3 40代	6 70代以上

問 33 あなたが最後に行った（または在学中の）学校は次のどれにあたりますか。中退・在学中も卒業と同じ扱いでお答えください。（○は1つだけ）

1 中学校	5 大学（4年制）	
2 高校	6 大学院・大学（6年制）	
3 専門学校（高卒後）	7 その他（具体的に	）
4 短大・高専		

問 34 あなたの就労状況について教えてください。（○は1つだけ）

1 正社員/正職員
2 非正規（契約・嘱託・パート・アルバイト含む）
3 自営業/個人事業主
4 宗教家
5 無職

問 35 あなたは現在、実子と同居していますか。（いずれかに○をつけ、数字を記入）

1 同居している人	<input type="text"/>	2 別々に暮らしている	3 そもそも実子がない
-----------	----------------------	-------------	-------------

質問はこれで終了となります。

同封の返信用封筒に入れ、2021年7月27日(火)までにご返送ください。

ご協力ありがとうございました。



発行元:公益財団法人 日本財団

執筆:三輪清子

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル

本調査報告書に関するご意見・お問い合わせは、下記までお願いします。

日本財団 子どもたちに家庭をプロジェクト

E-MAIL : kodomokatei@ps.nippon-foundation.or.jp

WEB サイト:<http://nf-kodomokatei.jp/>